

I 調査の目的及び概要

1. 調査の目的

国分寺市内に生育・生息する動植物調査を実施し、市内における動植物の実態の把握を行うとともに、市民の動植物目撃情報を収集し、市民への生物多様性の理解の促進、地域における生物多様性保全の取組の促進に向けた取組の基礎とすることを目的とする。

2. 調査の概要

調査の概要を以下の図 I - 2 - 1 に示す。

基礎調査、専門員による調査、環境団体参加による拠点調査、市民アンケート調査の 4 つに大別される。

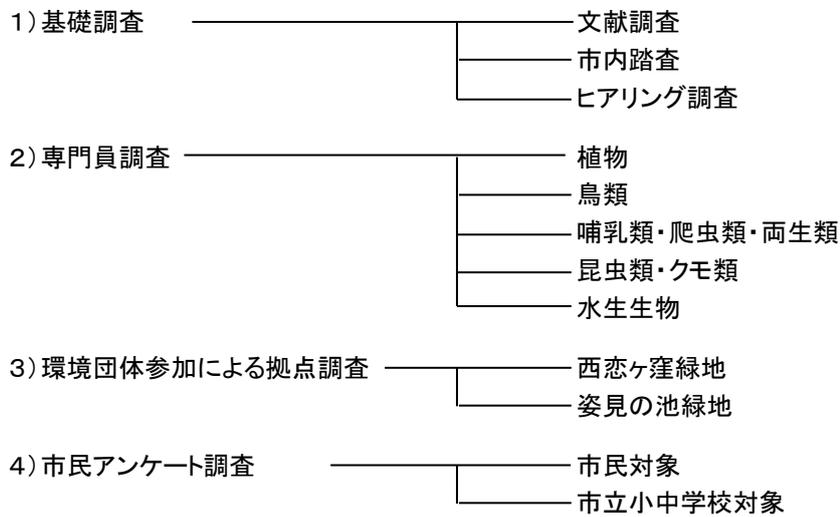


図 I - 2 - 1 国分寺市動植物調査の概要

※報告書中で使われる語句・略語について

1) 希少種について

環境省が作成している各分類群のレッドデータブック（絶滅のおそれのある野生生物の種の情報をとりまとめたもの 以下、「国 RDB」とする）と、東京都が作成しているレッドデータブック（以下、「都 RDB」とする）に掲載されている種を「希少種」として扱う。なお、国分寺市は、都 RDB での地域区分で「北多摩」にあたる。

※本報告書では、希少種を写真で紹介する際に、種名のあとに、該当するレッドデータブックとカテゴリーの記号を表記する。

※各レッドデータブックの正式な名称などは、巻末の参考資料に示す。

表 I-2-1 国 RDB 及び都 RDB のカテゴリー定義

カテゴリー	記号	基本概念
絶滅	EX	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めずで絶滅したと考えられるもの
野生絶滅	EW	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
絶滅危惧 I 類	CR+EN	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧 I A 類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧 I B 類	EN	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧 II 類	VU	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
情報不足	DD	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
留意種※	*	現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、留意が必要と考えられるもの
データ無し※	—	当該地域において生育・生息している(していた)可能性があるが、確実な記録や情報が得られなかったもの
非分布※	・	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの ただし、鳥類では、確認記録があっても当該地域が主たる生息域でないと判断される場合は、非分布として扱った

※東京都のみに設けられているカテゴリー

2) 外来種について

外来種とは、「もともとその地域にいなかったが、人間の活動によって他の地域から

入ってきた生物のこと」をいう。本調査では、日本生態学会編による「外来種ハンドブック」の掲載種を外来種とした。

外来種のうち、特に注意が必要な種として、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（以下、「外来生物法」とする）で特定外来生物（※）に指定されている種と、環境省及び農林水産省が作成・公表した「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」（以下、「生態系被害防止外来種リスト」とする）に掲載されている種を抽出した。

※特定外来生物とは：外来生物法で定められた生物種のこと。外来生物（海外起源の外来種）であり、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定される。

表 I-2-2 生態系被害防止外来種リストの各カテゴリーの概念

カテゴリー	概念
(1) 定着を予防する外来種 (定着予防外来種)	国内に未定着のもの。定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種
(i) 侵入予防外来種	国内に未侵入の種。特に導入の予防、水際での監視、バラスト水対策等で国内への侵入を未然に防ぐ必要がある。
(ii) その他の定着予防外来種	侵入の情報はあるが、定着は確認されていない種
(2) 総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)	国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害のおそれがあるため、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、防除（野外での取り除き、分布拡大の防止等）、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種
(i) 緊急対策外来種	「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある
(ii) 重点対策外来種	「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い
(iii) その他の総合対策外来種	総合対策外来種のうち、緊急対策外来種、重点対策外来種に該当しないもの。植物では、ヒラギナンテンやピラカンサ類、ナンキンハゼなど、動物では、ワカケホンセイインコ、アフリカツメガエルなどがこれに当たる

緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方：

(被害の深刻度に関する基準)

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす
(対策の実効性、実行可能性)
- ⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る

II 基礎調査

1. 文献調査

自然環境の調査報告書や市内の動植物に関するデータが記載されている既存の調査資料の収集・整理を行った。

整理を行った資料の一覧を表Ⅱ-1-1に示す。

表Ⅱ-1-1 文献調査の対象資料とその概要

資料名	著者・编者	発行年	発行者	対象生物					備考
				植物	昆虫類	クモ類	鳥類	菌類	
水と緑の実態調査報告書	国分寺市	1988	国分寺市	○	○		○		殿ヶ谷戸庭園、真姿の池湧水群周辺の樹林、光町崖線樹林を対象とした概査。植物は植生の把握、鳥類は11種、昆虫類は40種を把握。
国分寺自然ガイドブック	国分寺市環境部環境緑地課	1991	国分寺市	○	○		○		市内を対象に、主な生育・生息種の概説と写真を掲載している。巻末には市内の保存樹林地の植物目録も掲載している(75科303種)
国分寺の歴史と自然	東京国分寺ロータリークラブ	1996	東京国分寺ロータリークラブ		○	○	○	○	市内を対象に、動物相について、概況とリストを掲載している。 ・昆虫類973種 (チョウ類49種、コウチュウ目609種、トンボ目27種、バッタ目44種、カマキリ目4種、ゴキブリ目4種、ハサミムシ目4種、ナナフシ目2種、カメムシ目92種、ハチ目99種、ハエ目39種) ・クモ類179種 ・鳥類76種 ・菌類120種
国分寺市水と緑の実態調査報告書	国分寺市都市建設部緑と水課	2000	国分寺市	○					植物は植生のみ
国分寺市真姿の池湧水群保存管理計画	国分寺市教育委員会ふるさと文化財課	2006	国分寺市教育委員会ふるさと文化財課	○	○		○		真姿の池湧水群を対象として、植生、植物相、動物相の概況とリストを掲載している。 ・植物23科322種 ・昆虫類46科116種 ・鳥類12科16種 ・哺乳類2種 ・爬虫類1種 ・両生類1種
国分寺市内の植物目録2003年度中間報告	ハケの植物を守る会	2004	ハケの植物を守る会	○					2003年度に確認された植物96科354種を掲載している。
国分寺市内の植物目録2004年度最終報告	ハケの植物を守る会	2005	ハケの植物を守る会	○					2004年度に確認された植物92科323種を掲載している。
こころのふるさとエックス山の植物たち	こころのふるさとエックス山の植物たち編集委員会	2005	国分寺市にふるさとをつくる会	○					西恋ヶ窪緑地にある主要な木本・草本を図鑑風に掲載している。
国分寺市内の植物目録《『国分寺崖線の植物目録』追補》2005年度～2009年度	ハケの植物を守る会	2010	ハケの植物を守る会	○					2005年度以降に新たに確認された植物84科222種を掲載している。

これらの資料については、以下に設定した調査地を訪れる際に、希少種や外来種の生息状況などを事前に把握し、効率的な調査を行えるように利用した。

2. 市内踏査

動植物調査の調査地点 5 箇所を選定し、市内自然環境の概況を把握するための踏査を、平成 27 年 4 月 3 日に行った。

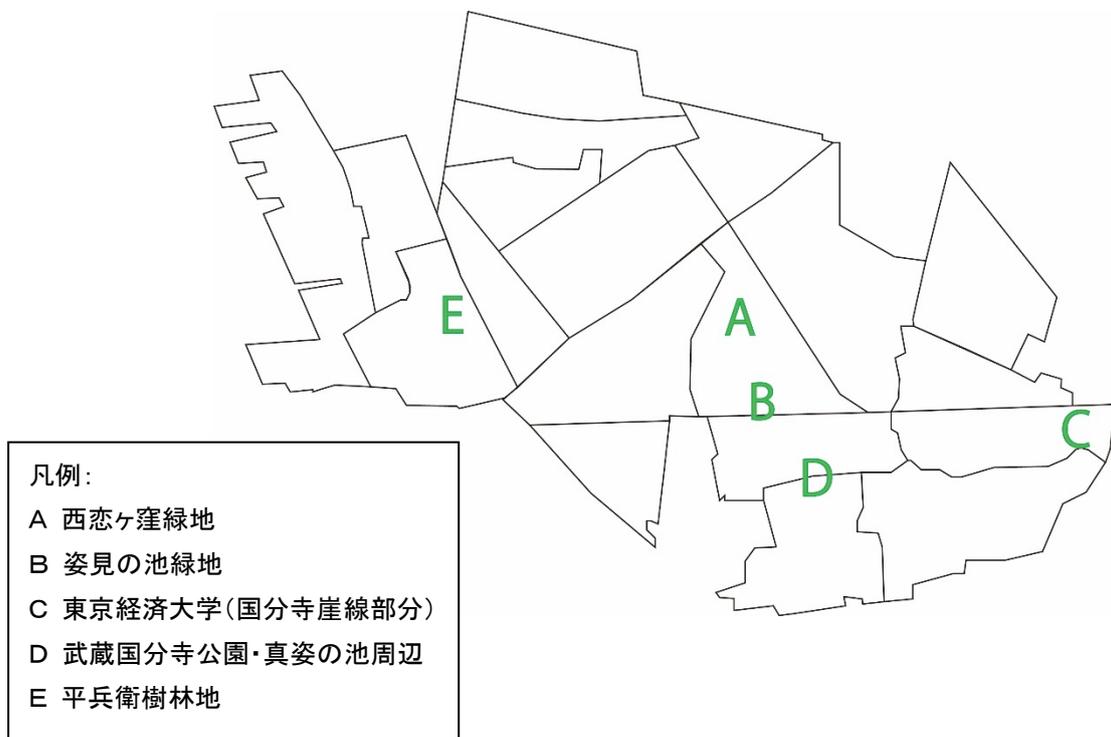
この際、姿見の池周辺、真姿の池周辺及び武蔵国分寺公園、西恋ヶ窪緑地（通称エックス山）、窪東公園、平兵衛樹林地、東京経済大学を視察した。その結果、窪東公園は、他の公園と比べて自然度が低いこと、また、他の調査地はいずれも国分寺崖線沿いという共通点があることから、窪東公園を除く 5 箇所を調査地として選定した。



窪東公園の様子(4月3日撮影)



窪東公園の様子(4月3日撮影)



図Ⅱ-2-1 調査地の位置

<調査地一覧>

1) 西恋ヶ窪緑地



- ・所在地：西恋ヶ窪3丁目
- ・概要：通称「エックス山」とよばれ、約1.36haの市内最大の雑木林である。現在、エックス山等市民協議会と市が協働で、かつての林の姿を取り戻し、市民が憩える場所とするために整備管理を行っている。

2) 姿見の池緑地



- ・所在地：西恋ヶ窪1丁目8番地
- ・概要：湿地、用水路、水辺林等を含めた池周辺地域は、東京都指定「国分寺姿見の池緑地保全地域」として整備されている。また、東京都名湧水57選のひとつである。

3) 東京経済大学（国分寺崖線部分）



新次郎池



新次郎池周囲の湧水

- ・所在地：南町1丁目7番ほか
- ・概要：斜面の雑木林と新次郎池からなっている。新次郎池は、国分寺市の一番東側にある湧水で、東京都名湧水57選にも選ばれている。

4) 武蔵国分寺公園・真姿の池周辺



- ・所在地：(武蔵国分寺公園) 泉町2丁目・西元町1丁目
(武蔵国分寺跡資料館) 西元町1丁目13-10

- ・概 要：都立武蔵国分寺公園から「お鷹の道・真姿の池湧水群」を含む地域である。お鷹の道・真姿の池湧水群は、環境省選定の全国名水百選のひとつであり、東京都名湧水 57 選にも選ばれている。

※お鷹の道水路の表記について

本報告書では「お鷹の道水路（元町用水）」と表記している。

5) 平兵衛樹林地



- ・所在地：光町 1 丁目 26 番

- ・概 要：「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線の一部になっている樹林地である。

3. ヒアリング調査

動植物調査の実施にあたり、知見を有する方に対しヒアリングを行った。

市内在住のクモの専門家である新海栄一氏及び水質の全国一斉調査の事務局であり、市内の環境団体のみずとみどり研究会に協力していただいた。

ヒアリングの概要は以下のとおりである。

1) 市内における動植物の生育生息状況関連

(1) 調査地点

- ・今回の5箇所他に次の地点も調査するとよい。
：黒鐘公園周辺（一部府中市）、伝鎌倉街道を挟んだ両側の小山、恋ヶ窪樹林地・西町樹林地など新たに造られた樹林、恋ヶ窪用水跡（熊野神社北）、日立製作所中央研究所

(2) 希少種について

確認場所などを示すことで希少種の乱獲や人間が立ち入ることによる生育・生息環境への懸念があるため情報公開は差し控えたほうがよいとの考えと、詳細な場所の記載は避けるとして市内に生息している程度は示してよいとする考えが、それぞれ示された。

2) 今後の市動植物調査に向けて

(1) 専門員調査の内容

- ・どのように調査を行うのかは調査の考え方や対象種などによって最適な方法などが異なるため、調査の考え方等を専門員と市が細かに調整すべき事項である。
- ・他の自治体では、2つのルートで、専門員3人一組で調査を行っている。
- ・調査には技術や経験が必要になるので、専門員調査と市民調査は、はっきりと区分して記録した方がよい。
- ・調査だけでなく、観察会も併せて行うとよい。地元への理解や関心・興味がわき、地域への愛着などにつながる。

(2) 目撃情報アンケートの内容

- ・市民対象の調査は、市民の「モチベーションをどう維持させるか」が課題である。
市民調査を継続的に実施していくには、参加条件・調査方法のハードルを下げ、求める最低ベースラインを決めて実施するという視点が必要だ。
- ・寄せられた情報は広報紙に載せるなど目にみえる形になるとモチベーションアップにつながる。
- ・「カブトムシ」は人工的に飼育され、それが逃げ出したりしている現況を考慮すると指標種にはなじまない。
- ・指標種の表示について「○○類」と「○○の仲間」があり不統一なので、統一した方がよい。
- ・単なる観察会ではなく、食べ物をキーワードに関連付けした企画を加えるなど工夫すると、親子や女性の参加につながる。

(3) その他（他との連携など）

- ・教育委員会では科学センターを開催している。7月は生物、植物の観察がプログラムになっているので、こうしたところへ調査の協力をお願いしてみるとよい。

3) 動植物調査の報告書とその利用方法

- ・報告書の形式や内容は、他の自治体を参考にしたらよいが、内容的にあまり学術的な固い内容でないほうがよい。
- ・希少種が生息する場所や種について、示すことで希少種の乱獲や人間が入ることによる状況の変化を嫌い生きものが移動してしまう等の懸念があるため情報公開は差し控えるか、詳細な場所の記載は避けるとして市内に生息しているのみ示すなど、取扱は慎重に行った方がよい。

Ⅲ 専門員調査

1. 植物

1) 調査の方法

(1) 調査時期・期間・時間

- ・各調査地において、植物調査では一般的に適期とされる春期（4月）、夏期（7月）、秋期（10月）の3回調査を行った。1期あたり3日程度調査を行った。表Ⅲ-1-1に調査実施日を示した。
- ・調査時間は日中とし、午前8時から午後5時までの間とした。

表Ⅲ-1-1 植物調査の実施日一覧

調査季	調査日	調査地	天候
春季調査	4月15日	西恋ヶ窪緑地、姿見の池緑地	晴れ一時雨
	4月16日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ
	4月17日	東京経済大学、平兵衛樹林地	晴れ一時雨のち曇り
夏季調査	7月21日	西恋ヶ窪緑地、姿見の池緑地	晴れ
	7月22日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ
	7月24日	東京経済大学、平兵衛樹林地	晴れのち曇り時々雨
秋季調査	10月6日	西恋ヶ窪緑地、姿見の池緑地	晴れ
	10月7日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ
	10月8日	東京経済大学、平兵衛樹林地	晴れ

(2) 調査手法

- ・各調査地の敷地内を専門員1名が踏査し、維管束植物（シダ植物、種子植物）の目視確認を行い、種の記録を行った。なお、対象とした種は、自生種と植栽種とした。自生種は、在来種の他、外来種、逸出種を含む。但し、草本の植栽種は在来種のみを対象とした。
- ・優占種、希少種、外来種、調査地の植生概況なども記録した。希少種についてはおおよその生育範囲、株数、位置も記録した。
- ・種名が分からない植物は持ち帰り、押し葉（さく葉）標本を作成し、後日同定を行った。希少で標本が採集できない場合はデジタルカメラで同定ポイントの撮影を行った。

(3) 道具

- ・高木の確認に8倍の双眼鏡を補助的に用いた。
- ・押し葉（さく葉）標本の同定は20～40倍の実体顕微鏡で行った。

2) 調査の結果

(1) 確認種の概要

亜種、変種を含め、120科531種類の植物を確認した。品種は数に含めなかった。亜種、

変種を含める理由は、生育環境の違いによる分布域の違いなどを把握できるためである。亜種、変種を含める場合は種数でなく、種類数という表記となる。確認種類数は、武蔵国分寺公園・真姿の池周辺が 347 種類で最も多く、西恋ヶ窪緑地 248 種類、姿見の池緑地 298 種、東京経済大学 232 種類、平兵衛樹林地 107 種類であった。分類群ごとの確認種類数を表Ⅲ－１－２に示した。確認した植物の一覧は、表Ⅲ－１－３に示した。

※亜種：多くの個体については同じ種と区別できるが、わずかな中間系によって連続するような場合に用いられる。はっきりと分布地域が異なるような変種を亜種とすることもある。現在、植物分類学では亜種の定義は学者によって異なり、亜種を認めない立場もある。ssp. (subspecies)と記す。

※変種：種の基準標本との形態的差異があり、地理的に分布の異なる場合変種とする。植物で用い、種名又は亜種名の次に var. (varietas) と記す。

※品種：花の色の違いなどごく一部のみの違いがある個体を品種という。普通は独自の分布域をもたず、同じ種の他個体の中に混生していることもある f. (forma) と記す。

表Ⅲ－１－２ 植物の分類群別確認種数

分類群			科数	種類数
シダ植物			11	26
種子植物	裸子植物		6	15
	被子植物	双子葉植物	63	248
		離弁花類	25	122
	単子葉植物		15	120
合計			120	531

本調査は国分寺崖線沿いに残る雑木林を中心とした調査であったため、樹林を構成する主要な樹種であるクヌギ、コナラ、林床の代表的な種であるアズマネザサは全調査地で確認した。雑木林が薪炭林として利用されなくなったことによる維持管理不足により、常緑樹林への遷移が見られる場所もあり、シラカシ、ヒサカキ等が全調査地に生育していた。

詳細は後述するが、希少種は雑木林に典型的な種や水辺に特徴的な種が生育しているものの調査地によっては個体数が非常に少ない状態であった。外来種は分布状況を把握することで、対策を検討すべき種などの情報を収集することができた。

表Ⅲ-1-3 国分寺市内で確認した植物の一覧（平成27年度）（1/10）

科名	No.	種名	西恋ヶ窪 緑地	姿見の池 緑地	東京経済 大学	武蔵国分 寺公園 ・真姿の 池周辺	平兵衛 樹林地	備考
イワヒバ	1	イヌカタヒバ			●			(国RDB:VU※)
トクサ	2	スギナ		●		●	●	
	3	トクサ			●			
	4	イヌドクサ		●				
ハナヤスリ	5	オオハナワラビ				●		
コバノイシカグマ	6	フモトシダ				●		
	7	ワラビ				●		
ミズワラビ	8	ホウライシダ				●		
イノモトソウ	9	オオバノイノモトソウ				●		
	10	イノモトソウ				●		
チャセンシダ	11	トラノオシダ		●				
オシダ	12	リョウメンシダ			●	●		
	13	ナガバヤブソテツ			●	●		
	14	テリハヤブソテツ		●	●	●		
	15	ベニシダ		●	●	●		
	16	オクマワラビ			●	●		
	17	アイアスカイノデ			●			都RDB:EN
ヒメシダ	18	イノデ				●		
	19	ゲジゲジシダ				●		
	20	ミゾシダ			●	●		
	21	ヒメワラビ				●		
メシダ	22	ミドリヒメワラビ		●	●	●		
	23	イヌワラビ	●	●	●	●	●	
	24	オオシケシダ属の一種		●				
ウラボシ	25	クサソテツ		●		●		
	26	ノキシノブ				●		
イチョウ	27	イチョウ				●		外来種
マツ	28	ヒマラヤスギ			●	●		外来種
	29	ドイトウヒ				●		外来種
	30	アカマツ			●	●		
スギ	31	クロマツ			●	●		
	32	スギ		●	●	●		
ヒノキ	33	ヒノキ		●		●	●	
	34	サワラ	●	●	●	●	●	
	35	ヒムロ				●		
	36	カイヅカイブキ				●	●	
マキ	37	ヒノキ科の一種			●			外来種
	38	イヌマキ			●	●	●	
イチイ	39	イチイ					●	
	40	キヤラボク					●	
	41	カヤ		●	●	●		
クルミ	42	オニグルミ	●	●		●	●	
ヤナギ	43	シダレヤナギ		●				外来種
	44	タチヤナギ		●				
カバノキ	45	ハンノキ			●			都RDB:VU※
	46	クマシデ				●		
	47	アカシデ		●	●			
	48	イヌシデ	●	●		●		
ブナ	49	クリ	●		●	●		
	50	スタジイ				●		
	51	マテバシイ				●		
	52	クヌギ	●	●	●	●	●	
	53	アラカシ		●		●		
	54	シラカシ	●	●	●	●	●	
	55	コナラ	●	●	●	●	●	

表Ⅲ-1-3 国分寺市内で確認した植物の一覧（平成27年度）（2/10）

科名	No.	種名	西恋ヶ窪 緑地	姿見の池 緑地	東京経済 大学	武蔵国分 寺公園 ・真姿の 池周辺	平兵衛 樹林地	備考
ニレ	56	ムクノキ	●	●	●	●	●	
	57	エノキ	●	●	●	●	●	
	58	アキニレ				●		
	59	ケヤキ	●	●	●	●	●	
クワ	60	ヒメコウゾ	●	●	●	●		
	61	クワクサ	●		●			
	62	イヌビワ				●		
	63	カナムグラ		●	●	●		
イラクサ	64	ヤマグワ	●	●	●	●	●	
	65	ヤブマオ	●	●	●	●		
	66	メヤブマオ	●					
	67	トキホコリ			●			国RDB:VU、 都RDB:CR
タデ	68	アオミズ				●		
	69	ミズヒキ	●		●	●		
	70	オオイヌタデ	●					
	71	イヌタデ		●	●	●		
	72	ハナタデ	●	●		●		
	73	アキノウナギツカミ		●				
	74	ミゾソバ		●				
	75	イタドリ		●	●	●		
	76	アレチギシギシ		●	●			外来種
ヤマゴボウ	77	エゾノギシギシ		●	●	●		その他の総合 対策外来種
	78	ヨウシュヤマゴボウ	●	●	●			外来種
オシロイバナ	79	オシロイバナ		●	●			外来種
ナデシコ	80	オランダミナグサ		●	●	●		外来種
	81	ノミノフスマ		●				
	82	ウシハコベ	●					
	83	コハコベ				●		外来種
	84	ミドリハコベ	●	●	●	●		
	85	イヌコハコベ	●					外来種
アカザ	86	シロザ	●	●		●		
	87	ゴウシュウアリタソウ	●					外来種
ヒユ	88	ヒカゲイノコズチ	●			●		
	89	ヒナタイノコズチ	●	●	●	●		
モクレン	90	ユリノキ				●		外来種
	91	タイサンボク			●			外来種
	92	ホオノキ		●		●	●	
	93	モクレン			●	●		外来種
	94	コブシ	●	●	●	●	●	
マツバサ クスノキ	95	シデコブシ			●			(国RDB:NT ※)
	96	サネカズラ	●	●	●	●	●	
	97	クスノキ	●		●	●		
	98	ヤブニッケイ	●					
	99	ニッケイ			●			(国RDB:NT ※)
	100	ヤマコウバシ	●			●		
	101	タブノキ		●		●		
シロダモ	102	シロダモ	●	●	●	●		
	103	ロウバイ			●			外来種
キンポウゲ	104	ニリンソウ			●			都RDB:NT
	105	ボタンヅル		●				
	106	コボタンヅル	●			●		
	107	センニンソウ	●	●	●	●		
	108	セリバヒエンソウ				●		外来種
	109	ケキツネノボタン		●				
	110	キクザキリュウキンカ	●					外来種
	111	アキカラマツ	●	●				

表Ⅲ-1-3 国分寺市内で確認した植物の一覧（平成27年度）（3/10）

科名	No.	種名	西恋ヶ窪 緑地	姿見の池 緑地	東京経済 大学	武蔵国分 寺公園 ・真姿の 池周辺	平兵衛 樹林地	備考
メギ	112	ホソバヒイラギナンテン		●				外来種
	113	ヒイラギナンテン			●	●	●	その他の総合 対策外来種
	114	ナンテン	●		●	●	●	
アケビ	115	ゴヨウアケビ	●	●	●	●		
	116	アケビ	●	●	●	●		
	117	ミツバアケビ	●		●			
	118	ムベ			●	●		
ツツラフジ	119	アオツツラフジ	●	●			●	
スイレン	120	ハス				●		外来種
ドクダミ	121	ドクダミ	●	●	●	●	●	
	122	ハンゲショウ			●			都RDB:CR※
センリョウ	123	ヒトリシズカ	●	●				
	124	フタリシズカ	●	●		●		
マタタビ	125	オニマタタビ		●	●	●		産業管理外来 種
ツバキ	126	ヤブツバキ	●	●	●	●	●	
	127	サザンカ		●	●	●		
	128	ヒサカキ	●	●	●	●	●	
	129	モッコク				●		
	130	チャノキ	●	●		●	●	外来種
オトギリソウ	131	ビヨウヤナギ				●		外来種
	132	キンシバイ				●		外来種
ケシ	133	クサノオウ	●			●		
	134	ジロボウエンゴサク				●		
	135	キケマン			●			(都RDB:非分 布※)
	136	ムラサキケマン	●	●	●	●		
	137	タケニグサ	●		●		●	
アブラナ	138	セイヨウアブラナ	●					外来種
	139	ナズナ	●		●	●		
	140	タネツケバナ	●			●		
	141	ミチタネツケバナ		●	●	●		外来種
	142	マメグンバイナズナ		●				外来種
	143	オランダガラシ		●		●		重点対策外来 種
	144	シヨカツサイ		●	●	●		外来種
145	イヌガラシ				●			
マンサク	146	ヒュウガミズキ				●		
	147	トサミズキ			●			(国RDB:NT ※)
	148	ベニバナトキワマンサク		●		●		外来種
ベンケイソウ	149	コモチマンネングサ	●					
ユキノシタ	150	ウツギ		●				
	151	アジサイ	●	●	●	●	●	
	152	ユキノシタ				●		
トベラ	153	トベラ			●			
バラ	154	キンミズヒキ	●	●				
	155	クサボケ	●					
	156	ボケ			●			外来種
	157	ヘビイチゴ	●	●	●	●		
	158	ヤブヘビイチゴ				●		
	159	ビワ		●	●			産業管理外来 種
	160	ダイコンソウ	●					
	161	ヤマブキ	●	●	●	●		
	162	カナメモチ				●	●	
	163	キジムシロ	●	●	●	●		
164	ミツバツチグリ	●	●		●			
165	カマツカ	●	●	●				
166	アンズ				●		外来種	

表Ⅲ-1-3 国分寺市内で確認した植物の一覧（平成27年度）（4/10）

科名	No.	種名	西恋ヶ窪 緑地	姿見の池 緑地	東京経済 大学	武蔵国分 寺公園 ・真姿の 池周辺	平兵衛 樹林地	備考
バラ (続き)	167	イヌザクラ	●		●	●		
	168	ウワミズザクラ	●			●		
	169	ヤマザクラ	●	●	●	●	●	
	170	ニワウメ		●				外来種
	171	オオシマザクラ				●		
	172	ウメ				●		外来種
	173	オオヤマザクラ				●		
	174	ユスラウメ				●		外来種
	175	カスミザクラ		●				
	176	ソメイヨシノ		●	●	●	●	
	177	タチバナモドキ					●	外来種
	178	シロヤマブキ			●			(国RDB: EN ※)
	179	ノイバラ	●	●	●	●	●	
	180	フユイチゴ				●		
	181	クサイチゴ		●		●		
	182	ナワシロイチゴ	●	●		●		
	183	カジイチゴ	●					
	184	アズキナシ					●	
185	ナナカマド				●			
186	コデマリ		●				外来種	
187	ユキヤナギ		●	●		●	外来種	
188	コゴメウツギ			●				
マメ	189	ネムノキ	●	●	●	●		
	190	ヤブマメ	●	●	●	●	●	
	191	ハナズオウ					●	外来種
	192	フジカンゾウ	●	●				
	193	アレチヌスビトハギ		●		●		その他の総合 対策外来種
	194	ヌスビトハギ	●	●	●			
	195	ツルマメ				●		
	196	マルバヤハズソウ				●		
	197	ヤマハギ	●	●		●		
	198	メドハギ	●			●		
	199	ネコハギ	●				●	
	200	イヌハギ			●			(国RDB: VU、 都RDB: VU※)
201	クズ		●	●	●	●		
202	エンジュ			●		●	外来種	
203	ムラサキツメクサ		●		●		外来種	
204	シロツメクサ		●		●		外来種	
205	ヤハズエンドウ		●	●	●			
206	スズメノエンドウ		●					
207	ナンテンハギ		●					
208	フジ	●	●	●	●	●		
カタバミ	209	カタバミ	●	●	●	●		
	210	ムラサキカタバミ	●			●		外来種
	211	オッタチカタバミ	●		●			外来種
フウロソウ	212	アメリカフウロ		●	●	●		外来種
	213	ゲンノショウコ	●			●		
トウダイグサ	214	エノキグサ				●		
	215	コニシキソウ	●					外来種
	216	オオニシキソウ		●				外来種
	217	アカメガシワ	●	●	●	●		
	218	ヤマアイ				●		
219	ナンキンハゼ			●	●		その他の総合 対策外来種	
ユズリハ	220	ユズリハ	●		●	●		

表Ⅲ-1-3 国分寺市内で確認した植物の一覧（平成27年度）（5/10）

科名	No.	種名	西恋ヶ窪 緑地	姿見の池 緑地	東京経済 大学	武蔵国分 寺公園 ・真姿の 池周辺	平兵衛 樹林地	備考
ミカン	221	ミカン属の一種			●			
	222	カラスザンショウ	●					
	223	サンショウ	●	●	●	●	●	
ニガキ	224	シンジュ		●				重点対策外来種
センダン	225	センダン	●	●	●	●		
ウルシ	226	ヌルデ	●	●	●	●	●	
カエデ	227	トウカエデ		●		●		外来種
	228	イロハモミジ	●	●	●	●	●	
	229	オオモミジ				●		
ムクロジ	230	ムクロジ			●			
トチノキ	231	トチノキ	●					
モチノキ	232	イヌツゲ	●	●	●	●	●	
	233	モチノキ	●			●		
	234	クロガネモチ					●	
	235	ウメモドキ		●				
ニシキギ	236	ツルウメモドキ	●	●	●			
	237	ニシキギ	●	●		●		
	238	マサキ	●		●			
	239	ツリバナ					●	
	240	マユミ	●	●	●	●	●	
ミツバウツギ	241	ゴズイ	●	●	●		●	
ツゲ	242	フッキソウ		●				
クロウメモドキ	243	ナツメ				●		外来種
ブドウ	244	ノブドウ	●	●	●	●		
	245	ヤブガラシ	●	●	●	●	●	
	246	ツタ	●	●	●	●	●	
	247	エビヅル	●	●			●	
シナノキ	248	カラスノゴマ	●		●			
アオイ	249	ムクゲ	●	●				外来種
	250	ゼニアオイ		●				外来種
グミ	251	ナツグミ	●		●			
	252	ナワシログミ	●			●		
イイギリ	253	イイギリ	●	●	●	●		
スマレ	254	タチツボスミレ	●	●	●	●		
	255	アオイスミレ				●		
	256	ケマルバスミレ			●	●		
	257	アメリカスミレサイシン	●	●		●		外来種
	258	ツボスミレ				●		
ウリ	259	アマチャヅル	●		●	●		
	260	カラスウリ	●	●	●	●	●	
	261	キカラスウリ	●	●	●	●		
ミソハギ	262	ミソハギ		●		●		
アカバナ	263	ミズタマソウ	●					
	264	メマツヨイグサ		●		●		外来種
	265	ユウゲショウ			●			外来種
ミズキ	266	アオキ	●	●	●	●	●	
	267	ハナミズキ				●	●	外来種
	268	ヤマボウシ				●		
	269	ミズキ	●	●	●	●		
	270	クマノミズキ			●			
	271	サンシュユ				●		外来種
ウコギ	272	オカウコギ	●	●	●	●		
	273	ウド	●	●		●		
	274	タラノキ	●	●	●	●	●	
	275	カクレミノ	●		●	●		
	276	ヤツデ	●	●	●	●	●	
	277	カナリーキツタ			●	●	●	外来種

表Ⅲ-1-3 国分寺市内で確認した植物の一覧（平成27年度）（6/10）

科名	No.	種名	西恋ヶ窪 緑地	姿見の池 緑地	東京経済 大学	武蔵国分 寺公園 ・真姿の 池周辺	平兵衛 樹林地	備考
ウコギ (続き)	278	キヅタ	●	●	●	●		
	279	ハリギリ	●					
セリ	280	ノダケ		●				
	281	アシタバ	●					
	282	ミツバ			●	●		
	283	ノチドメ				●		
	284	チドメグサ				●		
	285	ヒメチドメ				●		
	286	セリ		●	●	●		
	287	ヤブニンジン			●	●		
	288	ウマノミツバ			●			
	289	オヤブジラミ	●	●		●		
リョウブ	290	リョウブ		●		●		
ツツジ	291	ドウダンツツジ				●	●	
	292	アセビ		●		●		
	293	サツキ	●	●	●	●	●	
	294	ヤマツツジ		●				
	295	キリシマツツジ		●			●	
	296	オオムラサキ	●		●	●	●	
ヤブコウジ	297	マンリョウ		●	●	●	●	
	298	ヤブコウジ				●		
サクラソウ	299	ヌマトラノオ		●				
	300	コナスビ	●	●	●	●		
カキノキ	301	カキノキ	●			●	●	外来種
	302	マメガキ			●			外来種
エゴノキ	303	エゴノキ	●	●	●	●	●	
	304	ハクウンボク					●	
ハイノキ	305	サワフタギ	●	●	●	●		
モクセイ	306	ヒトツバタゴ			●			(国RDB: VU ※)
	307	チョウセンレンギョウ	●					外来種
	308	シナレンギョウ		●		●		外来種
	309	ヤマトアオダモ	●					
	310	ネズミモチ	●	●	●	●		
	311	トウネズミモチ	●	●	●	●	●	重点対策外来種
	312	イボタノキ	●	●	●			
	313	オオバイボタ	●					
キョウチクトウ	314	ヒイラギモクセイ		●	●	●		外来種
	315	キンモクセイ		●	●	●		外来種
	316	ヒイラギ		●		●	●	
	317	テイカカズラ	●			●	●	
ガガイモ	318	ツルニチニチソウ	●		●			重点対策外来種
	319	ガガイモ	●	●		●		
アカネ	320	ヤエムグラ	●	●	●	●		
	321	ヨツバムグラ			●			
	322	クチナシ	●		●	●	●	
	323	ハシカグサ				●		
	324	ヘクソカズラ	●	●	●	●	●	
	325	アカネ			●	●		
	326	ハクチョウゲ			●			(国RDB: EN ※)
	ヒルガオ	327	コヒルガオ				●	
328		アオイゴケ属の一種			●			外来種
329		マルバルコウ	●	●		●		重点対策外来種
330		アサガオ	●					重点対策外来種
331		マルバアサガオ		●				重点対策外来種

表Ⅲ-1-3 国分寺市内で確認した植物の一覧（平成27年度）（7/10）

科名	No.	種名	西恋ヶ窪 緑地	姿見の池 緑地	東京経済 大学	武蔵国分 寺公園 ・真姿の 池周辺	平兵衛 樹林地	備考
ムラサキ	332	ハナイバナ		●	●			
	333	キュウリグサ		●		●		
クマツヅラ	334	コムラサキ	●	●		●		
	335	ムラサキシキブ	●	●	●	●	●	
	336	ポタンクサギ				●		外来種
	337	クサギ	●		●	●	●	
シソ	338	キランソウ			●	●		
	339	カキドオシ	●	●	●	●		
	340	ホトケノザ	●		●	●		
	341	ヒメオドリコソウ	●	●	●	●		外来種
	342	メハジキ	●					
	343	シロネ			●			都RDB: VU※
	344	イヌコウジュ	●	●	●		●	
	345	シソ	●					
	346	カクトラノオ				●		外来種
	347	ヤマハッカ		●				
	348	アキノタムラソウ		●				
349	イヌゴマ				●			
ナス	350	クコ		●	●	●		
	351	ホオズキ				●		外来種
	352	アメリカイヌホオズキ	●		●	●		外来種
	353	ワルナスビ		●		●		外来種
	354	ヒヨドリジョウゴ	●	●	●	●		
	355	イヌホオズキ	●	●		●		
	356	タマサンゴ				●		外来種
ゴマノハグサ	357	トキワハゼ	●		●			
	358	タチイヌノフグリ	●	●	●	●		外来種
	359	オオイヌノフグリ		●	●	●		外来種
ノウゼンカズラ	360	キリ	●		●		外来種	
キツネノマゴ	361	キツネノマゴ		●		●		
ハエドクソウ	362	ハエドクソウ	●	●	●	●	●	
オオバコ	363	オオバコ	●	●	●	●		
	364	ヘラオオバコ			●	●		外来種
	365	ツボミオオバコ			●			外来種
スイカズラ	366	ハナゾノツクバネウツギ		●		●		外来種
	367	ウグイスカグラ	●	●	●	●		
	368	スイカズラ	●	●	●	●	●	
	369	ニワトコ		●		●		
	370	ガマズミ	●	●		●	●	
	371	サンゴジュ				●		
	372	ハコネウツギ				●		
オミナエシ	373	オトコエシ			●			
キキョウ	374	ツリガネニンジン	●					
	375	ホタルブクロ	●					
	376	キキョウ			●			国RDB: VU、 都RDB: CR※
キク	377	オオブタクサ	●			●		重点対策外来種
	378	ヨモギ	●	●	●	●		
	379	シロヨメナ	●					
	380	シラヤマギク	●	●				
	381	アメリカセンダングサ		●		●	●	その他の総合 対策外来種
	382	コセンダングサ	●	●	●	●	●	外来種
	383	ヤブタバコ		●	●	●		
	384	トネアザミ		●				
	385	アメリカオニアザミ	●		●			その他の総合 対策外来種
386	オオアレチノギク	●		●		●	外来種	

表Ⅲ-1-3 国分寺市内で確認した植物の一覧（平成27年度）（8/10）

科名	No.	種名	西恋ヶ窪 緑地	姿見の池 緑地	東京経済 大学	武蔵国分 寺公園 ・真姿の 池周辺	平兵衛 樹林地	備考
キク (続き)	387	ベニバナポロギク	●	●	●			外来種
	388	アメリカカタカサブロウ		●				外来種
	389	ダンドポロギク	●	●	●	●		外来種
	390	ヒメムカシヨモギ		●	●			外来種
	391	ハルジオン	●	●	●	●	●	外来種
	392	ヒヨドリバナ		●				
	393	ツワブキ	●	●		●	●	
	394	ハキダメギク	●	●	●	●		外来種
	395	ウラジロチチコグサ	●		●	●		外来種
	396	オグルマ			●			都RDB: VU※
	397	ニガナ		●				
	398	アキノノゲシ	●	●		●		
	399	ヤブタビラコ			●			
	400	フキ	●	●	●	●		
	401	サワオグルマ			●			都RDB: EX※
	402	ノボロギク				●		外来種
	403	セイタカアワダチソウ	●	●	●	●	●	重点対策外来種
	404	オニノゲシ			●	●		外来種
	405	ノゲシ	●	●	●			
	406	ヒメジョオン	●	●		●	●	その他の総合 対策外来種
	407	シロバナタンポポ			●			
	408	セイヨウタンポポ	●	●	●	●	●	重点対策外来種
	409	カントウタンポポ	●	●	●	●		
410	ヤクシソウ	●						
411	オニタビラコ	●	●	●	●			
ユリ	412	ノビル	●	●	●	●		
	413	ハラン			●	●		
	414	ホウチャクソウ		●	●	●		
	415	ヤブカンゾウ	●	●	●	●	●	
	416	ノカンゾウ					●	
	417	オオバギボウシ		●		●		
	418	コバギボウシ		●				
	419	ハナニラ	●		●	●		その他の総合 対策外来種
	420	ヤマユリ	●	●				
	421	シンテツポウユリ					●	その他の総合 対策外来種
	422	オニユリ	●	●				
	423	ヤブラン	●	●	●	●		
	424	ムスカリ	●	●				外来種
	425	ハタケニラ	●					外来種
	426	ノシラン		●	●	●		
	427	ジャノヒゲ	●	●	●	●		
	428	ナガバジャノヒゲ	●	●	●	●	●	
429	オオバジャノヒゲ			●	●			
430	ナルコユリ		●					
431	アマドコロ			●			都RDB: VU※	
432	キチジョウソウ		●	●	●			
433	オモト		●	●	●			
434	ツルボ	●			●			
435	サルトリイバラ	●	●	●	●			
436	シオデ	●	●		●	●		
437	タイワンホトギス			●			(国RDB: CR ※)	
リュウゼツラン	438	イトラン(ユッカ)属の一種			●		外来種	
ヒガンバナ	439	ヒガンバナ	●		●	●	●	
	440	キツネノカミソリ			●			都RDB: VU
	441	スイセン	●	●		●		外来種

表Ⅲ-1-3 国分寺市内で確認した植物の一覧（平成27年度）（9/10）

科名	No.	種名	西恋ヶ窪 緑地	姿見の池 緑地	東京経済 大学	武蔵国分 寺公園 ・真姿の 池周辺	平兵衛 樹林地	備考	
ヤマノイモ	442	ナガイモ	●						
	443	ヤマノイモ	●	●	●	●	●		
	444	オニドコロ	●	●	●	●	●		
アヤメ	445	ハナショウブ		●					
	446	シャガ		●	●	●			
	447	カキツバタ			●			国RDB:NT 都RDB:CR※	
	448	キショウブ		●		●		重点対策外来種	
	449	ヒメヒオウギズイセン	●	●				その他の総合 対策外来種	
イグサ	450	ホソイ			●			都RDB:NT※	
	451	スズメノヤリ				●			
ツユクサ	452	ツユクサ	●	●	●	●	●		
	453	ヤブミョウガ	●	●	●	●			
	454	ノハカタカラクサ		●	●			重点対策外来種	
イネ	455	アオカモジグサ				●			
	456	カモジグサ				●			
	457	コブナグサ	●	●					
	458	トダシバ				●			
	459	カラスムギ		●				外来種	
	460	イヌムギ	●	●	●	●		外来種	
	461	キツネガヤ				●			
	462	ノガリヤス	●	●			●		
	463	ジュズダマ	●	●					
	464	メヒシバ	●	●	●	●			
	465	コメヒシバ	●	●		●			
	466	アキメヒシバ	●	●					
	467	アブラスキ		●					
	468	イヌビエ	●	●		●			
	469	オヒシバ	●	●					
	470	カゼクサ	●	●		●			
	471	トボシガラ		●					
	472	チガヤ		●	●	●			
	473	ホソムギ				●		外来種	
	474	ササガヤ	●			●	●		
	475	ヒメアシボソ		●					
	476	アシボソ				●			
			アシボソ属の一種	●					
	477	ススキ	●	●		●	●		
	478	コネズミガヤ	●	●				外来種	
	479	ケチヂミザサ	●	●	●	●	●		
	480	コチヂミザサ			●				
	481	ヌカキビ	●	●	●	●	●		
	482	シマスズメノヒエ	●	●		●		その他の総合 対策外来種	
	483	スズメノヒエ		●					
	484	チカラシバ		●		●			
	485	マダケ				●	●	外来種	
486	モウソウチク				●	●	産業管理外来種		
487	アズマネザサ	●	●	●	●	●			
488	ミゾイチゴツナギ		●						
489	スズメノカタビラ	●	●	●	●	●			
490	オオスズメノカタビラ		●				外来種		
491	ヒエガエリ		●						
492	ヤダケ	●	●		●				
493	クマザサ	●	●	●	●				
494	アズマザサ属の一種					●			

表Ⅲ-1-3 国分寺市内で確認した植物の一覧（平成27年度）（10/10）

科名	No.	種名	西恋ヶ窪 緑地	姿見の池 緑地	東京経済 大学	武蔵国分 寺公園 ・真姿の 池周辺	平兵衛 樹林地	備考
イネ (続き)	495	イヌアワ		●		●		
	496	アキノエノコログサ	●	●	●	●		
	497	コツブキンエノコロ		●		●		
	498	キンエノコロ		●				
	499	オオエノコロ	●					
	500	エノコログサ	●	●		●		
	501	トウチク				●		外来種
	502	ネズミノオ			●	●		
	503	コウライシバ				●	●	
ヤシ	504	シュロ	●	●	●	●	●	その他の総合 対策外来種 国内由来
サトイモ	505	セキショウ		●	●	●		
	506	ムサシアブミ				●		
	507	ムラサキマムシグサ			●	●		
	508	ウラシマソウ		●		●		
	509	サトイモ				●		
	510	オランダカイウ		●		●		外来種
ミクリ	511	ミクリ			●			国RDB:NT、 都RDB:NT※
ガマ	512	ガマ		●				
	513	コガマ		●		●		
カヤツリグサ	514	エナシヒゴクサ			●	●		
	515	メアオスゲ			●			
	516	ヒメカンスゲ	●	●		●	●	
	517	マスクサ		●	●			
	518	ヒカゲスゲ	●	●	●			
	519	ナキリスゲ	●			●		
	520	スゲ属の一種				●		
	521	メリケンガヤツリ		●				重点対策外来 種
	522	カヤツリグサ		●				
	523	フトイ		●		●		
ショウガ	524	ミョウガ	●			●		外来種
ラン	525	シラン			●			国RDB:NT※
	526	ギンラン			●			都RDB:VU
	527	キンラン			●			国RDB:VU、 都RDB:VU
	528	ササバギンラン			●			都RDB:NT
	529	サイハイラン	●			●		
	530	シュンラン	●			●		
	531	マヤラン			●			国RDB:VU
120		531						

※1 表は不明・未分類種を含めたもの。種名まで同定できなかったものは、「～の一種」として一字下げで扱っている。

※2 希少種を確認した調査地は、盗掘などの影響を考慮し、明記していない。

※3 国RDB及び都RDB掲載種のうち、植栽や植栽由来のものはカテゴリーの後ろに※を付けた。

さらに、国分寺市が分布域になっていないものや、本来の生育地が異なるものには()を付けた。

(2) 希少種

希少種については、植栽又は植栽種からの逸出で、国分寺市が分布域になっていないものや本来の生育環境が異なる種を除外した。その結果、希少種を 19 種確認した。このうち自生のものは 8 種、植栽のものは 11 種であった。

環境別では、雑木林の林床に生育するニリンソウ（都 RDB：NT）、キツネノカミソリ（都 RDB：VU）、ギンラン（都 RDB：VU）、キンラン（国 RDB：VU、都 RDB：VU）、ササバギンラン（都 RDB：NT）を確認した。



キンラン
(国 RDB:VU、都 RDB:VU 4月17日)



トキホコリ
(国 RDB:VU 都 RDB:CR 10月7日)



マヤラン
(国 RDB:VU 10月8日)



アイアスカイノデ
(都 RDB:EN 10月7日)



ギンラン(都 RDB:VU 4月17日)



キツネノカミソリ
(都 RDB:VU 7月24日)



ニリンソウ(都 RDB:NT 4月16日)



ササバギンラン
(都 RDB:NT 5月17日)

(3) 外来種

外来種は外国の樹木等を含め、126種を確認した(国内由来の外来種(※)は除く)。そのうち、生態系被害防止外来種リスト掲載種は28種であった。外来種の合計数に含めていないが、国内由来の外来種のシュロも含めると29種になる。確認した生態系被害防止外来種は表Ⅲ-1-4に示した。

総合対策外来種のうち、重点対策外来種はトウネズミモチ、ツルニチニチソウ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、キショウブ、ノハカタカラクサなど13種、その他の総合対策外来種としては、アメリカセンダングサ、アメリカオニアザミ、ヒメジョオン、ハナニラなど12種と国内由来のシュロ1種を確認した。適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)はオニマタタビ(キウイフルーツ)、ビワ、モウソウチクの3種を確認した。

※国内由来の外来種：我が国に自然分布域を有しているが、その自然分布域を越えて国内の他地域に導入された生物種のこと。

表Ⅲ－１－４ 確認した生態系被害防止外来種（植物）

生態系被害防止 外来種リスト カテゴリ	種名	西恋ヶ窪 緑地	姿見の池 緑地	東京経済 大学	武蔵国分寺 公園・真姿の 池周辺	平兵衛 樹林地	備考(外来種 リストでの掲載 状況)	
総合対策 外来種	オランダガラシ		●		●			
	シンジュ		●					
	トウネズミモチ	●	●	●	●	●		
	ツルニチニチソウ	●		●				
	マルバルコウ	●	●		●			
	アサガオ	●					外来ノアサガオ 類として掲載	
	マルバアサガオ		●					
	オオブタクサ	●			●			
	セイタカアワダチソウ	●	●	●	●	●		
	セイヨウタンポポ	●	●	●	●	●	外来性タンポポ 種群として掲載	
	キショウブ		●		●			
	ノハカタラクサ		●	●				
	メリケンガヤツリ		●					
	その他の 総合対策 外来種	エゾノギンギシ		●	●	●		
		ヒイラギナンテン			●	●	●	
		タチバナモドキ					●	ピラカンサ類とし て掲載
		アレチヌスビトハギ		●		●		
		ナンキンハゼ			●	●		
		アメリカセンダングサ		●		●	●	
		アメリカオニアザミ	●		●			
		ヒメジョオン	●	●		●	●	
		ハナニラ	●		●	●		
		シンテツポウユリ					●	
		ヒメヒオウギズイセン	●	●				
	シマスズメノヒエ	●	●		●			
	その他の総合 対策外来種 国内由来	シュロ	●	●	●	●	●	
	産業管理外来種	オニマタタビ (キウイフルーツ)		●	●	●		
		ビワ		●	●			
		モウソウチク				●	●	
合計	29	13	19	13	18	10		



トウネズミモチ(重点対策外来種 参考写真)



ツルニチニチソウ(重点対策外来種
4月15日 西恋ヶ窪緑地)



キショウブ(重点対策外来種
4月16日 真姿の池周辺)



ノハカタカラクサ(重点対策外来種
7月24日 東京経済大学)



セイタカアワダチソウ(重点対策外来種
10月6日 姿見の池緑地)



ハナニラ(その他の総合対策外来種
4月15日 西恋ヶ窪緑地)



シュロ(国内由来の外来種
10月6日 西恋ヶ窪緑地)



オニマタタビ(産業管理外来種
7月21日 姿見の池緑地)

その他、よく見られるコセンダングサ、ショカツサイ、近年増加しているアメリカスミレサイシン、ほふくして広がりやすいためカバープランツとして利用されるアオイゴケ属の一種（ディコンドラとして流通）、キクザキリュウキンカ、オランダカイウ（カラーとして流通）などを確認した。



コセンダングサ(外来種)
10月6日 西恋ヶ窪緑地



ショカツサイ(外来種)
4月16日 武蔵国分寺公園



アメリカスミレサイシン(外来種)
4月15日 西恋ヶ窪緑地



アオイゴケ属の一種(外来種)
10月8日 東京経済大学



キクザキリュウキンカ(外来種)
4月15日 西恋ヶ窪緑地



オランダカイウ(外来種)
4月16日 真姿の池周辺

2. 鳥類

1) 調査の方法

(1) 調査時期・期間・時間

- ・各調査地において、鳥類調査では一般的に適期とされる春期・夏期・秋期・冬期の4回の調査を行った。1期あたり計3日程度の調査を行った。
- ・調査時間は、鳥類の活動が活発な早朝として、午前7時から実施し、午前中には終了した。
- ・各調査地で、1時間程度の踏査を行ったが、面積や鳥類の出現情報などに応じて、時間を調整した。
- ・この他に、他の分類群の専門調査員調査時や環境団体参加の拠点調査時の記録も含めた。

表Ⅲ-2-1 鳥類調査の実施日一覧（平成27年度）

調査期	調査日	調査地	天候
春期調査	5月7日	姿見の池緑地、西恋ヶ窪緑地	曇り
	5月8日	東京経済大学、平兵衛樹林地	晴れ
	5月14日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ
夏期調査	7月22日	姿見の池緑地、西恋ヶ窪緑地	晴れ
	7月24日	東京経済大学、平兵衛樹林地	晴れ
	7月27日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ
秋期調査	9月24日	姿見の池緑地、西恋ヶ窪緑地	曇り
	9月28日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ
	9月29日	東京経済大学、平兵衛樹林地	晴れ
冬期調査	12月15日	姿見の池緑地、西恋ヶ窪緑地	曇り
	12月16日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ
	12月17日	東京経済大学、平兵衛樹林地	晴れ

(2) 調査手法

- ・各調査地の敷地内を専門員1名が踏査し、目視や鳴き声により確認した種について、おおよその個体数を記録するとともに、希少種については、おおよその位置も記録した。特徴的な行動（繁殖行動や採食行動など）が見られた場合には、それも記録した。
- ・落ちていた羽などは参考記録として扱った。

(3) 道具

- ・調査には、8倍の双眼鏡を用いるほか、記録用に焦点距離600mm相当のデジタルカメラにて記録を取るようにした。

2) 調査の結果

(1) 確認種の概要

冬期までの調査で、10目24科37種の鳥類を確認した。これを表Ⅲ-2-2に示す。確認種としては、キジバト、ハシブトガラス、オナガ、ヒヨドリ、スズメなど、いわゆ

る「都市鳥」と呼ばれる種が多かった。樹林性の鳥としては、ツミやオオタカ、アカゲラ、エナガなどを、水鳥としては、マガモやカルガモ、オシドリ、アオサギ、カワセミを姿見の池や武蔵国分寺公園で確認した。渡りの途中に立ち寄った種としては、キビタキを武蔵国分寺公園で確認した。

表Ⅲ－２－２ 国分寺市内で確認した鳥類の一覧（平成 27 年度）（1/2）

目名	科名	No.	種名	西恋ヶ窪緑地				姿見の池緑地				東京経済大学				武蔵国分寺公園・真姿の池周辺				平兵衛樹林地				備考
				春期	夏期	秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期	
カモ目																								
カモ科																								
	1		オシドリ																					国RDB: DD 都RDB: VU
	2		マガモ					●																
	3		カルガモ					●	●	●	●							●	●					
ハト目																								
ハト科																								
	4		キジバト	●	●	●	●	●	●	●	●	●					●	●	●	●	●	●	●	
	5		ドバト				●	●								●					●			外来種
ペリカン目																								
サギ科																								
	6		アオサギ																					
カッコウ目																								
カッコウ科																								
	7		カッコウ																					都RDB: VU
タカ目																								
タカ科																								
	8		ツミ																					都RDB: CR
	9		オオタカ																					国RDB: NT 都RDB: EN
フクロウ目																								
フクロウ科																								
	10		コノハズク																					都RDB: CR
ブッポウソウ目																								
カワセミ科																								
	11		カワセミ																					都RDB: NT
キツツキ目																								
キツツキ科																								
	12		コゲラ	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	13		アオゲラ																					都RDB: NT
スズメ目																								
モズ科																								
	14		モズ																					都RDB: VU
カラス科																								
	15		オナガ	●	●			●		●								●		●	●			
	16		ハシボソガラス																					●
	17		ハシブトガラス	●		●	●	●	●															●
シジュウカラ科																								
	18		シジュウカラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ツバメ科																								
	19		ツバメ					●																
ヒヨドリ科																								
	20		ヒヨドリ	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ウグイス科																								
	21		ウグイス																					都RDB: NT
エナガ科																								
	22		エナガ																					都RDB: NT



オシドリ
(国 RDB:DD 都 RDB:VU 12月15日)



コノハズク
(都 RDB:CR 3月初旬取得)



アオゲラ
(都 RDB:NT 12月16日)



カワセミ
(都 RDB:NT 9月28日)



エナガ
(都 RDB:NT 7月24日)

(3) 外来種

外来種としては、ドバト、ガビチョウ、ホンセイインコ（亜種ワカケホンセイインコ）を確認した。このうちガビチョウは、武蔵国分寺公園内で確認したが、いわゆる外来生物法で「特定外来生物」に指定されている。また、ホンセイインコは、西恋ヶ窪緑地、東京経済大学、真姿の池周辺で確認したが、生態系等被害防止外来種リストの掲載種で、総合的に対策が必要な外来種の中の「その他の総合対策外来種」となっている。



ガビチョウ(特定外来生物 参考写真)



ホンセイインコ(亜種ワカケホンセイインコ)
(その他の総合対策外来種)
12月17日 真姿の池周辺)

3. 哺乳類・爬虫類・両生類

1) 調査の方法

(1) 調査時期・期間・時間

- ・哺乳類調査では一般的に適期とされる秋期～春期を、爬虫類・両生類の調査では、一般的に適期とされる春期～秋期を含むよう調査日を設定し、各調査地計4回の調査を行った。実際には、各期の植物、鳥類、昆虫類・クモ類、水生生物などの専門員調査に併せて行った。
- ・調査時間は、哺乳類は他の分類群の調査時間内に併せて実施したが、爬虫類や両生類については活動が活発となる日中に実施した。
- ・各調査地で、1～数時間程度の踏査を行った。
- ・この他に、環境団体参加による拠点調査時の記録も含めた。

表Ⅲ-3-1 哺乳類・爬虫類・両生類調査の実施日一覧（平成27年度）(1/2)

調査期	調査日	調査地	天候
春期調査	4月15日	西恋ヶ窪緑地、姿見の池緑地	晴れ一時雨
	4月16日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ
	4月17日	東京経済大学、平兵衛樹林地	晴れ一時雨のち曇り
	5月7日	姿見の池緑地、西恋ヶ窪緑地	曇り
	5月8日	東京経済大学、平兵衛樹林地	晴れ
	5月14日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ
	6月1日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ
	6月2日	西恋ヶ窪緑地	曇り
	6月4日	東京経済大学、平兵衛樹林地	晴れ
6月5日	姿見の池緑地	曇り	
夏期調査	7月21日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺、西恋ヶ窪緑地、姿見の池緑地	晴れ
	7月22日	姿見の池緑地、西恋ヶ窪緑地、武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ
	7月24日	東京経済大学、平兵衛樹林地	晴れ
	7月25日	姿見の池緑地	晴れ
	7月27日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ
秋期調査	9月24日	姿見の池緑地、西恋ヶ窪緑地	曇り
	9月28日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺、姿見の池緑地	晴れ
	9月29日	東京経済大学、平兵衛樹林地	晴れ
	9月30日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ
	10月6日	西恋ヶ窪緑地、姿見の池緑地	晴れ
	10月7日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ

表Ⅲ－３－１ 哺乳類・爬虫類・両生類調査の実施日一覧（平成 27 年度）（2/2）

調査期	調査日	調査地	天候
	10月8日	東京経済大学、平兵衛樹林地	晴れ
冬期調査 (哺乳類のみ)	12月15日	姿見の池緑地、西恋ヶ窪緑地	曇り
	12月16日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ
	12月17日	東京経済大学、平兵衛樹林地	晴れ

(2) 調査手法

- ・各敷地内を踏査し、目視や鳴き声、足跡などのフィールドサインにより確認した種について、おおよその個体数を記録するとともに、希少種については、おおよその位置も記録した。
- ・特徴的な行動（繁殖行動や採食行動など）が見られた場合には、それも記載した。
- ・齢が分かる場合には、成体・幼体の区別も行った。

(3) 道具

- ・他の分類群の調査時に使用するものを用いた。鳥類調査時に併せて、8倍の双眼鏡を用いているほか、記録用に焦点距離 600mm 相当のデジタルカメラにて記録を取るようにした。また、水生生物調査時に併せて、タモ網なども利用した。

2) 調査の結果

(1) 確認種の概要

秋期までの調査で、1種の哺乳類、2目7科8種の爬虫類、1種の両生類を確認した。これを表Ⅲ－３－２～４に示す

哺乳類は、アズマモグラの塚を4調査地で確認したのみであった。

爬虫類は、平兵衛樹林地を除く4調査地で確認された。

両生類は、ニホンヒキガエル（亜種アズマヒキガエル）の卵塊を、姿見の池緑地で冬期の調査で確認した。

表Ⅲ－３－２ 国分寺市内で確認した哺乳類の一覧（平成 27 年度）

目名	科名	No.	種名	西恋ヶ窪緑地				姿見の池緑地				東京経済大学				武蔵国分寺公園・真姿の池周辺				平兵衛樹林地				備考
				春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	
モグラ目																								
モグラ科																								
		1	アズマモグラ				●		●	●	●		●	●	●		●	●	●					
1	1		1	0	0	0	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	
				0				1				1				1				0				

表Ⅲ-3-3 国分寺市内で確認した爬虫類の一覧（平成27年度）

目名	科名	No.	種名	西恋ヶ窪緑地				姿見の池緑地				東京経済大学				武蔵国分寺公園・真姿の池周辺				平兵衛樹林地				備考	
				春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬		
カメ目																									
イシガメ科																									
	1		クサガメ																					●	都RDB:DD
ヌマガメ科																									
	2		アカミミガメ (亜種ミシシippアカミミガメ)					●	●	●										●					緊急対策外来種
スッポン科																									
	3		ニホンスッポン																					●	国RDB:DD 都RDB:CR+EN
トカゲ目																									
ヤモリ科																									
	4		ニホンヤモリ																					●	都RDB:留意種
トカゲ科																									
	5		ヒガシニホントカゲ																					●	都RDB:VU
カナヘビ科																									
	6		ニホンカナヘビ																					●	都RDB:VU
ナミヘビ科																									
	7		アオダイショウ																					●	都RDB:NT
	8		ヒバカリ																					●	都RDB:VU
2	7		8																						

※:希少種を確認した調査地については、生息への影響を考慮して明記していない。

表Ⅲ-3-4 国分寺市内で確認した両生類の一覧（平成27年度）

目名	科名	No.	種名	西恋ヶ窪緑地				姿見の池緑地				東京経済大学				武蔵国分寺公園・真姿の池周辺				平兵衛樹林地				備考	
				春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬		
カエル目																									
ヒキガエル科																									
	1		ニホンヒキガエル (亜種アズマヒキガエル)																					●	卵塊の確認
1	1		1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				0				1				0				0				0					

(2) 希少種

希少種としては、国RDB掲載種を1種、都RDB掲載種を7種確認した。いずれも爬虫類であった。

国RDB掲載種では、ニホンスッポン（国RDB:DD）を確認した。

都RDB掲載種では、クサガメ（都RDB:DD）、ニホンスッポン（都RDB:CR+EN）、ニホンヤモリ（都RDB:*（留意種））、ヒガシニホントカゲ（都RDB:VU）、ニホンカナヘビ（都RDB:VU）、アオダイショウ（都RDB:NT）、ヒバカリ（都RDB:VU）を確認した。



ニホンスッポン
(国 RDB:DD 都 RDB:CR+EN 7月22日)



ヒガシニホトカゲ
(都 RDB:VU 7月22日)



ニホンカナヘビ
(都 RDB:VU 7月22日)



ヒバカリ
(都 RDB:VU 7月25日)



アオダイショウ
(都 RDB:NT 5月17日)



クサガメ
(都 RDB:DD 6月5日)

(3) 外来種

外来種としては、アカミミガメ(亜種ミシシippアカミミガメ)を姿見の池と武蔵国分寺公園・真姿の池周辺で確認した。これらの個体は、飼育個体が放棄されたものと考えられる。本種は、生態系被害防止外来種リストの掲載種で「総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)」の中の「緊急対策外来種」に指定されている。



アカミミガメ(亜種ミシシippアカミミガメ)
(緊急対策外来種 5月14日 武蔵国分寺公園)

4. 昆虫類・クモ類

1) 調査の方法

(1) 調査時期・期間・時間

- ・昆虫類調査に適期とされる春～秋期に調査日を設定し、各調査地計 3 回の調査を行った。1 期あたり計 4 日程度の調査を行った。
- ・調査時間は、各調査地およそ 3 時間程度とした。
- ・調査時間帯は午前 9 時からの実施を基本としたが、1 日に 2 地点実施する場合や、水生生物調査と同日に実施する場合は午後に実施した。
- ・この他に、他の分類群の専門員調査時や環境団体参加による拠点調査時の記録も含めた。

表Ⅲ-4-1 昆虫類・クモ類調査の実施日一覧（平成 27 年度）

調査期	調査日	調査地	天候
春期調査	6 月 1 日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ
	6 月 2 日	西恋ヶ窪緑地	曇り
	6 月 4 日	東京経済大学、平兵衛樹林地	晴れ
	6 月 5 日	姿見の池緑地	曇り
夏期調査	7 月 21 日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ
	7 月 22 日	西恋ヶ窪緑地	晴れ
	7 月 24 日	東京経済大学、平兵衛樹林地	曇り
	7 月 25 日	姿見の池緑地	晴れ
秋期調査	9 月 24 日	西恋ヶ窪緑地	曇り
	9 月 28 日	姿見の池緑地	晴れ
	9 月 29 日	平兵衛樹林地、東京経済大学	曇り
	9 月 30 日	武蔵国分寺公園・真姿の池周辺	晴れ

(2) 調査手法

- ・各調査地の敷地内を専門員 1 名が踏査し、目視による確認と、捕虫網での掬い捕り法を用いている。採集個体は同定作業後、基本的には元の生息場所に戻した。ただし現地での同定が困難なものについては一部採集し、同定用サンプルとした。

(3) 道具

- ・調査時には、径 35cm 枠の捕虫網を使用し、8 倍の双眼鏡を用いているほか、記録用にデジタルカメラにて記録を取るようにした。
- ・その場において同定の困難な種、微小な種等については必要最小な数を採集するため、大型種については殺虫・防腐用に酢酸エチルを用いた容器に収容した。微小種やクモ類については 70%エタノール入りスクリュウ管瓶に収容した。

2) 調査の結果

(1) 確認種の概要

16目132科354種（種名まで同定できなかったものも含んでおり、それらは種名セル内で一字下げて表記している。クモ類も同様）の昆虫類を確認した。目別の科・種数を表Ⅲ-4-2に、種の一覧を表Ⅲ-4-3に示す。また、同時に行ったクモ類の調査では17科60種を確認した。これを表Ⅲ-4-4に示す。

表Ⅲ-4-2 国分寺市内で確認した昆虫類の目別の科・種数（平成27年度）

No.	目名	科数	種数
1	トンボ	6	13
2	カワゲラ	1	1
3	ゴキブリ	1	1
4	カマキリ	1	3
5	シロアリ	1	1
6	ハサミムシ	1	2
7	バッタ	12	32
8	ナナフシ	1	3
9	チャタテムシ	3	3
10	カメムシ	24	61
11	アザミウマ	1	1
12	アミメカゲロウ	2	2
13	チョウ	22	78
14	ハエ	15	24
15	コウチュウ	27	78
16	ハチ	14	51
	合計	132	354

表Ⅲ-4-3 国分寺市内で確認した昆虫類の一覧（平成27年度）（1/9）

目名	科名	No.	種名	西恋ヶ窪緑地			姿見の池周辺			東京経済大学			武蔵国分寺公園・真姿の池周辺			平兵衛樹林地			備考
				春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	
トンボ目																			
アオイトトンボ科																			
	1		オオアオイトトンボ		●			●									●		
カワトンボ科																			
	2		ハグロトンボ								●								
イトトンボ科																			
	3		ホソミイトトンボ														●		●
ヤンマ科																			
	4		ギンヤンマ														●		
オニヤンマ科																			
	5		オニヤンマ							●						●			
トンボ科																			
	6		アキアカネ								●								
	7		コノシメトンボ		●														
	8		マユタテアカネ								●								
	9		コシアキトンボ							●				●	●				
	10		ショウジョウトンボ							●				●	●				
	11		ウスバキトンボ		●									●	●				
	12		シオカラトンボ							●				●	●				
	13		オオシオカラトンボ							●				●					
カワゲラ目																			
オナシカワゲラ科																			
	14		オナシカワゲラ科の一種					●									●		
ゴキブリ目																			
チャバネゴキブリ科																			
	15		モリチャバネゴキブリ					●					●	●	●	●	●	●	●
カマキリ目																			
カマキリ科																			
	16		ハラビロカマキリ		●			●			●					●		●	
	17		コカマキリ					●											
	18		オオカマキリ					●									●		
シロアリ目																			
ミゾガシラシロアリ科																			
	19		ヤマトシロアリ								●	●	●						
ハサミムシ目																			
マルムネハサミムシ科																			
	20		キアシハサミムシ								●								
	21		ヒゲジロハサミムシ		●			●	●										
バッタ目																			
コロギス科																			
	22		ハネナシコロギス																●
キリギリス科																			
	23		クサキリ																●
	24		ホシササキリ																●
ツユムシ科																			
	25		ツユムシ																●
	26		セスジツユムシ																●
	27		クダマキモドキ属の一種		●			●	●										
コオロギ科																			
	28		エンマコオロギ																●
	29		モリオカメコオロギ																●
	30		ハラオカメコオロギ																●
	31		ツツレサセコオロギ																●
	32		クマスズムシ																●
マツムシ科																			
	33		アオマツムシ																●
ヒバリモドキ科																			
	34		ヤマトヒバリ																●
	35		キンヒバリ																●
	36		クサヒバリ																●
	37		ウスグモスズ																●

表Ⅲ-4-3 国分寺市内で確認した昆虫類の一覧（平成27年度）（2/9）

目名	科名	No.	種名	西恋ヶ窪緑地			姿見の池周辺			東京経済大学			武蔵国分寺公園・真姿の池周辺			平兵衛樹林地			備考
				春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	
ヒバリモドキ科(続き)																			
		38	ヤチスズ								●								
		39	マダラスズ						●						●				
		40	シバスズ								●				●				
カナタタキ科																			
		41	カナタタキ			●			●		●			●		●	●		
アリツカオオロギ科																			
		42	アリツカオオロギ科の一種			●	●												
ノミバッタ科																			
		43	ノミバッタ				●												
ヒシバッタ科																			
		44	ハラヒシバッタ													●			
オンブバッタ科																			
		45	オンブバッタ		●	●			●	●			●		●				
バッタ科																			
		46	ツチイナゴ						●						●				
		47	コバネイナゴ				●	●	●		●	●							
		48	ショウリョウバッタ				●		●				●	●					
		49	ショウリョウバッタモドキ								●								
		50	ヒナバッタ						●	●			●	●					
		51	トノサマバッタ							●									
		52	クルマバッタモドキ										●						
		53	イボバッタ							●									
ナナフシ目																			
ナナフシ科																			
		54	ナナフシモドキ	●															
		55	トビナナフシ					●											
		56	エダナナフシ				●												
チャタテムシ目																			
ケチャタテ科																			
		57	ヨツモンホソチャタテ							●									
チャタテ科																			
		58	クロミヤクチャタテ		●														
コチャタテ科																			
		59	コチャタテ科の一種													●			
カメムシ目																			
ハネナガウンカ科																			
		60	アカハネナガウンカ												●				
アオバハゴロモ科																			
		61	アオバハゴロモ			●		●	●		●	●		●		●	●		
ハゴロモ科																			
		62	ベッコウハゴロモ					●			●								
		63	アミガサハゴロモ							●			●	●					
ゲンバイウンカ科																			
		64	ミドリゲンバイウンカ				●												
セミ科																			
		65	クマゼミ		●														
		66	アブラゼミ		●	●		●	●		●	●		●	●		●		
		67	ツクツクボウシ		●	●		●	●		●			●			●		
		68	ミンミンゼミ		●			●			●			●			●		
		69	ニイニゼミ					●			●			●			●		
		70	ヒグラシ							●									
アワフキムシ科																			
		71	ホシアワフキ		●														
コガシラアワフキムシ科																			
		72	コガシラアワフキ							●									
ヨコバイ科																			
		73	ツマグロオオヨコバイ	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●				
		74	オオヨコバイ					●					●	●					
		75	ブチミヤクヨコバイ				●												
		76	オビヒメヨコバイ類の一種														●		

表Ⅲ-4-3 国分寺市内で確認した昆虫類の一覧（平成27年度）（3/9）

目名	科名	No.	種名	西恋ヶ窪緑地			姿見の池周辺			東京経済大学			武蔵国分寺公園・真姿の池周辺			平兵衛樹林地			備考
				春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	
カメムシ目(続き)																			
カタカイガラムシ科																			
		77	ヒモワタカイガラムシ	●															
サシガメ科																			
		78	ヨコヅナサシガメ				●											●	外来種
		79	シマサシガメ	●					●						●				
		80	ヤニサシガメ									●				●			
ゲンバウムシ科																			
		81	エグリゲンバイ						●										
		82	アワダチソウゲンバイ						●						●				
		83	ヤブガラシゲンバイ						●										
		84	ヘクソカズラゲンバイ			●													
		85	ナシゲンバイ			●													
		86	ツツジゲンバイ									●					●		
		87	トサカゲンバイ				●												
マキバサシガメ科																			
		88	ミナミマキバサシガメ						●										
オオホシカメムシ科																			
		89	オオホシカメムシ											●					
ホソヘリカメムシ科																			
		90	クモヘリカメムシ				●				●					●			
		91	ホソヘリカメムシ												●				
		92	ニセヒメクモヘリカメムシ											●					
ヘリカメムシ科																			
		93	ホオズキカメムシ			●			●										
		94	ハリカメムシ	●	●			●	●										
		95	ホシハラビロヘリカメムシ				●				●				●				
		96	ミナミトゲヘリカメムシ																●
		97	キバラヘリカメムシ			●		●	●										
イトカメムシ科																			
		98	イトカメムシ	●														●	●
ナガカメムシ科																			
		99	ヒョウタンナガカメムシ			●													
		100	サビヒョウタンナガカメムシ						●										
		101	オオモンシロナガカメムシ					●										●	
		102	ヒゲナガカメムシ						●	●						●			
		103	オオメナガカメムシ			●				●									
ツノカメムシ科																			
		104	セアカツノカメムシ				●			●									
		105	ハサミツノカメムシ												●				
		106	エサキモンキツノカメムシ				●			●	●								
ツチカメムシ科																			
		107	ツチカメムシ	●						●									
ノコギリカメムシ科																			
		108	ノコギリカメムシ												●				
カメムシ科																			
		109	ウズラカメムシ				●			●									
		110	ウシカメムシ					●						●					●
		111	ブチヒゲカメムシ															●	
		112	キマダラカメムシ	●				●	●					●	●				外来種
		113	クサギカメムシ			●							●						
		114	ヨソボシカメムシ											●					
		115	チャバネアオカメムシ			●				●	●								
マルカメムシ科																			
		116	マルカメムシ				●	●	●				●	●	●				
キンカメムシ科																			
		117	アカスジキンカメムシ			●		●											
アメンボ科																			
		118	オオアメンボ							●									都RDB:VU
		119	アメンボ				●	●	●							●			
		120	ヤスマツアメンボ				●				●	●							

表Ⅲ-4-3 国分寺市内で確認した昆虫類の一覧（平成27年度）（4/9）

目名	科名	No.	種名	西恋ヶ窪緑地			姿見の池周辺			東京経済大学			武蔵国分寺公園・真姿の池周辺			平兵衛樹林地			備考
				春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	
アザミウマ目																			
		121	アザミウマ目の一種			●													
アミメカゲロウ目																			
	クサカゲロウ科																		
		122	アミメカゲロウ								●				●				
	ウスバカゲロウ科																		
		123	ウスバカゲロウ	●	●	●		●	●				●	●	●	●	●	●	
チョウ目																			
	ミノガ科																		
		124	チャミノガ								●								
	ヒロズコガ科																		
		125	マダラマルハヒロズコガ							●									
	ヒゲナガキバガ科																		
		126	キベリハイヒゲナガキバガ													●			
	ハマキガ科																		
		127	アトキハマキ												●				
		128	ミダレカクモンハマキ	●															
		129	ピロードハマキ															●	
		130	ヘリオビヒメハマキ															●	
		131	サンカクモンヒメハマキ									●							
	セミヤドリガ科																		
		132	セミヤドリガ		●														
	イラガ科																		
		133	ヒメクロイラガ			●													
	マダラガ科																		
		134	シロシタホタルガ	●															
		135	ホタルガ					●				●							
		136	ミノウスバ	●															
	アゲハチョウ科																		
		137	クロアゲハ	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		138	ナミアゲハ					●		●									
		139	カラスアゲハ		●														
		140	アオスジアゲハ		●	●		●											
	シロチョウ科																		
		141	キタキチョウ	●	●	●		●	●		●	●	●	●	●			●	
		142	ツマキチョウ										●						
		143	モンシロチョウ	●	●		●			●	●	●	●	●					
	シジミチョウ科																		
		144	ムラサキシジミ		●			●					●			●	●		
		145	ムラサキツバメ								●			●				●	
		146	ミズイロオナガシジミ					●											
		147	アカシジミ	●															
		148	ウラナミアカシジミ								●							都RDB: 留意種	
		149	ヤマトシジミ			●		●	●		●	●		●					
		150	ルリシジミ															●	
		151	ツバメシジミ											●	●				
	タテハチョウ科																		
		152	テングチョウ										●	●					
		153	ツマグロヒョウモン										●	●	●	●			
		154	コムスジ							●		●	●	●	●		●		
		155	ホシミスジ								●							都RDB: データ無し	
		156	ヒオドシチョウ								●							都RDB:DD	
		157	ルリタテハ			●													
		158	コムラサキ					●											
		159	ゴマダラチョウ		●	●													
		160	アカボシゴマダラ	●	●	●							●	●	●			重点対策 外来種	

表Ⅲ-4-3 国分寺市内で確認した昆虫類の一覧（平成27年度）（5/9）

目 名	科 名	No.	種名	西恋ヶ窪 緑地			姿見の池 周辺			東京経済 大学			武蔵国分寺公 園・真姿の池 周辺			平兵衛 樹林地			備考
				春 期	夏 期	秋 期	春 期	夏 期	秋 期	春 期	夏 期	秋 期	春 期	夏 期	秋 期	春 期	夏 期	秋 期	
タテハチョウ科(続き)																			
		161	ヒカゲチョウ		●	●	●	●	●									●	
		162	クロヒカゲ		●														
		163	サトキマダラヒカゲ				●			●							●		
		164	ヒメジャノメ			●								●					
		165	ヒメウラナミジャノメ				●	●	●										
セセリチョウ科																			
		166	ダイミョウセセリ	●	●	●	●		●								●		
		167	キマダラセセリ	●															
		168	イチモンジセセリ					●								●			
トリバガ科																			
		169	ブドウトリバ							●						●			
ツトガ科																			
		170	シロモンノメイガ			●													
		171	モモノゴマダラノメイガ		●													●	
		172	モンキクロノメイガ							●								●	
		173	マメノメイガ																
		174	ヨスジノメイガ								●								
		175	マエアカスカシノメイガ	●							●								
		176	コガタシロモンノメイガ					●											
		177	シロオビノメイガ						●										
メイガ科																			
		178	キベリトガリメイガ			●													
カギバガ科																			
		179	ヤマトカギバ			●		●											
シャクガ科																			
		180	チャバネフユエダシャク	●															
		181	シロジマエダシャク				●												
		182	ナミガタエダシャク									●							
		183	フタナミトビヒメシャク							●									
		184	マエキヒメシャク			●													
カイコガ科																			
		185	クワコ		●			●								●			
スズメガ科																			
		186	ウンモンズズメ		●														
		187	ホシホウジャク								●								
シャチホコガ科																			
		188	ホソバシャチホコ			●													
		189	ツマキシヤチホコ		●														
		190	オオアオシャチホコ			●													
ドクガ科																			
		191	マイマイガ							●									
		192	ヒメシロモンドクガ				●												
ヤガ科																			
		193	マダラツマキリヨトウ													●			
		194	コシロシタバ		●														
		195	エゾギクキンウワバ			●													
		196	アオアツバ															●	
		197	オオウンモンクチバ						●										
		198	アワヨトウ									●							
		199	トビイロトラガ								●								
		200	キンタアツバ類の一種			●													
		201	タバコガ亜科の一種					●											
ハエ目																			
ガガンボ科																			
		202	ベッコウガガンボ															●	
		203	ホリカワクシヒゲガガンボ					●											
ケバエ科																			
		204	ケバエ科の一種												●				

表Ⅲ-4-3 国分寺市内で確認した昆虫類の一覧（平成27年度）（6/9）

目名	科名	No.	種名	西恋ヶ窪緑地			姿見の池周辺			東京経済大学			武蔵国分寺公園・真姿の池周辺			平兵衛樹林地			備考
				春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	
ハエ目(続き)																			
タマバエ科																			
		205	エノキトガリタマバエ	●															
		206	エゴタマバエ			●													
		207	アオキミタマバエ						●										
ミズアブ科																			
		208	ネグロミズアブ	●															
		209	アメリカミズアブ											●				外来種	
ムシヒキアブ科																			
		210	チャイロムシヒキ	●												●			
		211	シオヤアブ										●			●			
ツリアブ科																			
		212	コウヤツリアブ		●														
		213	クロバネツリアブ						●										
ハナアブ科																			
		214	ホソヒラタアブ			●		●	●			●	●		●	●			
メバエ科																			
		215	ムネグロメバエ									●							
ショウジョウバエ科																			
		216	ショウジョウバエ科の一種				●	●	●					●					
ミバエ科																			
		217	ミツボシハマダラミバエ										●						
		218	ミスジミバエ														●		
アシナガバエ科																			
		219	ウデゲヒメホソアシナガバエ												●				
ハナバエ科																			
		220	クロオビハナバエ	●										●					
クロバエ科																			
		221	ホホアカクロバエ										●		●				
		222	トウキョウキンバエ					●		●									
		223	ヒロズキンバエ					●											
ニクバエ科																			
		224	ニクバエ科の一種		●	●		●	●	●			●	●		●	●		
ヤドリバエ科																			
		225	ヨコスジオオハリバエ										●						
コウチュウ目																			
オサムシ科																			
		226	メダカチビカワゴミムシ							●									
		227	アオオサムシ	●									●						
ハンミョウ科																			
		228	トウキョウヒメハンミョウ	●	●			●											
エンマムシ科																			
		229	ヒメツヤエンマムシ													●			
シテムシ科																			
		230	オオヒラタシテムシ	●			●	●	●		●		●						
ハネカクシ科																			
		231	ハネカクシ科の一種										●						
クワガタムシ科																			
		232	ノキギリクワガタ		●	●													
		233	ヒラタクワガタ							●								都RDB:NT	
コガネムシ科																			
		234	カブトムシ		●			●							●				
		235	アオドウガネ		●			●		●				●					
		236	ヒメコガネ			●							●						
		237	セマダラコガネ							●						●			
		238	ビロウドコガネ							●			●						
		239	コフキコガネ													●			
		240	コブマルエンマコガネ										●						

表Ⅲ-4-3 国分寺市内で確認した昆虫類の一覧（平成27年度）（7/9）

目 名	科 名	No.	種名	西恋ヶ窪 緑地			姿見の池 周辺			東京経済 大学			武蔵国分寺公 園・真姿の池 周辺			平兵衛 樹林地			備考
				春 期	夏 期	秋 期	春 期	夏 期	秋 期	春 期	夏 期	秋 期	春 期	夏 期	秋 期	春 期	夏 期	秋 期	
			コガネムシ科(続き)																
		241	コアオハナムグリ									●		●					
		242	マメコガネ					●					●	●					
		243	シロテンハナムグリ			●	●					●							
		244	カナブン		●			●					●						
			タマムシ科																
		245	ヒシモンナガタマムシ	●								●							
		246	アオグロナガタマムシ						●										
		247	クズノチビタマムシ				●	●											
			コメツクムシ科																
		248	サビキコリ													●			
		249	クシコメツキ	●															
		250	アカヒゲヒラタコメツキ													●			
		251	コハナコメツキ							●									
			コメツクダマシ科																
		252	ナガコメツクダマシ	●															
			ホタル科																
		253	ムネクリイロホタル							●									
			カツオブシムシ科																
		254	ヒメマルカツオブシムシ							●			●						
			テントウムシ科																
		255	ムーアシロホシテントウ	●		●					●			●	●	●			
		256	ヒメアカホシテントウ						●										
		257	オオニジュウヤホシテントウ		●	●													
		258	ナミテントウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		259	フタホシテントウ										●						
		260	キロテントウ	●		●				●	●			●				●	
		261	ダンダラテントウ				●												
		262	ヨツボシテントウ			●													
		263	ヒメカメノコテントウ			●		●											
		264	ベダリアテントウ													●		外来種	
		265	クロヒメテントウ								●								
			オオキノコムシ科																
		266	ヒメオビオオキノコ		●														
			オオクスイムシ																
		267	ムナビロオオクスイ		●														
			ケシクスイ科																
		268	ヨツボシケシクスイ		●			●											
			クチキムシ科																
		269	クチキムシ														●		
		270	トビイロクチキムシ							●									
			アリモドキ科																
		271	ホソクビアリモドキ	●		●		●		●		●							
			ハムシダマシ科																
		272	ハムシダマシ			●	●		●			●	●						
		273	ヒゲフトハムシダマシ			●			●										
			カミキリモドキ科																
		274	アオカミキリモドキ	●									●						
			ゴミムシダマシ科																
		275	キマワリ							●	●								
		276	ナガキマワリ亜科の一種		●					●									
			カミキリムシ科																
		277	ゴマダラカミキリ		●														
		278	フタオビミドリトラカミキリ	●			●												
		279	ニイジマチビカミキリ													●			
		280	キボシカミキリ										●						
		281	アトジロサビカミキリ				●												

表Ⅲ-4-3 国分寺市内で確認した昆虫類の一覧（平成27年度）（8/9）

目名	科名	No.	種名	西恋ヶ窪緑地			姿見の池周辺			東京経済大学			武蔵国分寺公園・真姿の池周辺			平兵衛樹林地			備考
				春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	
ハムシ科																			
		282	アカガネサルハムシ				●			●									
		283	ヘリグロテントウノミハムシ			●		●											
		284	ウリハムシ					●											
		285	クロウリハムシ	●				●		●		●	●						
		286	ヤツボシハムシ	●						●									
		287	キバラリクビボソハムシ	●			●							●					
		288	ヤマイモハムシ	●															
		289	コマルノミハムシ			●													
		290	ヤナギルリハムシ				●												
		291	サンゴジュハムシ				●			●									
		292	ドウガネサルハムシ									●							
		293	イチモンジカメノコハムシ		●	●				●						●			
		294	カサハラハムシ属の一種						●						●			●	
ヒゲナガゾウムシ科																			
		295	エゴヒゲナガゾウムシ		●			●						●					
オトシブミ科																			
		296	ヒメクロオトシブミ		●													●	
		297	エゴツルクビオトシブミ	●	●														
		298	カシルリオトシブミ					●		●	●			●					
		299	ハイイロチョッキリ			●													
ゾウムシ科																			
		300	コフキゾウムシ				●	●					●	●	●				
		301	スグリゾウムシ					●			●	●							
		302	サビヒョウタンゾウムシ							●									
オサゾウムシ科																			
		303	トホシオサゾウムシ	●															
ハチ目																			
ミフシハバチ科																			
		304	チュウレンジバチ		●								●						
		305	ルリチュウレンジ												●				
ハバチ科																			
		306	ハグロハバチ							●									
		307	ニホンカブラハバチ		●	●				●			●			●			
		308	カブラハバチ									●							
ヒメバチ科																			
		309	ホウネンタワラチビアメバチ		●	●													
		310	フタスジヒメバチ類の一種			●													
アリバチ科																			
		311	アリバチ科の一種				●		●										
アリ科																			
		312	オオハリアリ		●								●						
		313	ヒメアリ					●				●							
		314	クロナガアリ					●				●							
		315	トビイロシワアリ	●	●	●				●		●	●	●		●	●		
		316	ハリフトシリアゲアリ					●			●		●		●	●	●		
		317	テラニシシリアゲアリ	●						●	●		●		●	●	●		
		318	キイロシリアゲアリ		●							●			●		●	●	
		319	ムネボソアリ	●															
		320	アミメアリ	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	
		321	クロヤマアリ	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		322	サムライアリ																
		323	トビイロケアリ	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	
		324	ケアリ属の一種		●			●		●	●								
		325	アメイロアリ	●	●	●				●	●		●			●			
		326	クロオオアリ	●		●		●		●	●	●	●		●				
		327	ムネアカオオアリ										●						
		328	ヨツボシオオアリ	●	●						●								
		329	ホソウメマツオオアリ										●						

表Ⅲ-4-3 国分寺市内で確認した昆虫類の一覧（平成27年度）（9/9）

目 名	科 名	No.	種名	西恋ヶ窪 緑地			姿見の池 周辺			東京経済 大学			武蔵国分寺公 園・真姿の池 周辺			平兵衛 樹林地			備考
				春 期	夏 期	秋 期	春 期	夏 期	秋 期	春 期	夏 期	秋 期	春 期	夏 期	秋 期	春 期	夏 期	秋 期	
ドロバチ科																			
		330	スズバチ			●													
		331	ムナグロチビドロバチ										●						
スズメバチ科																			
		332	セグロアシナガバチ								●								
		333	キアシナガバチ		●								●						
		334	コアシナガバチ									●							
		335	コガタスズメバチ		●	●			●						●		●		
		336	オオスズメバチ	●		●			●						●				
		337	キロスズメバチ					●							●				
		338	クロスズメバチ			●					●	●							
クモバチ科																			
		339	オオモンクロクモバチ					●											
ツチバチ科																			
		340	ヒメハラナガツチバチ										●						
		341	キンケハラナガツチバチ				●		●	●		●			●				
		342	オオハラナガツチバチ	●															
		343	キオビツチバチ		●									●					
アナバチ科																			
		344	サトジガバチ							●									
		345	ナミツチスガリ										●						
		346	ミカドジガバチ		●														
コシブトハナバチ科																			
		347	シロスジヒゲナガハナバチ										●						
		348	クマバチ					●											
ミツバチ科																			
		349	キマダラハナバチ属の一種										●						
		350	セイヨウミツバチ										●					外来種	
		351	コマルハナバチ	●			●												
		352	トラマルハナバチ					●								●			
ハキリバチ科																			
		353	オオハキリバチ													●			
		354	ヒメハキリバチ					●											
16	132		354																

※1 表は不明・未分類種を含めたもの。種名まで同定できなかったものは、種名セル内では「～の一種」として一字下げて扱っている。
 ※2 希少種を確認した調査地については、生息への影響を考慮して明記していない。

表Ⅲ-4-4 国分寺市内で確認したクモ類の一覧（平成27年度）（1/2）

科名	No.	種名	西恋ヶ窪 緑地			姿見の池 周辺			東京経済 大学			武蔵国分寺 公園・真姿の 池周辺			平兵衛 樹林地			備考
			春 期	夏 期	秋 期	春 期	夏 期	秋 期	春 期	夏 期	秋 期	春 期	夏 期	秋 期	春 期	夏 期	秋 期	
ジグモ科																		
	1	ジグモ	●															
トタテグモ科																		
	2	キシノウエトタテグモ							●								国RDB:NT 都RDB:NT	
チリグモ科																		
	3	ヒラタグモ														●	●	
ウズグモ科																		
	4	マネキグモ			●	●			●			●	●	●	●			
	5	カタハリウズグモ							●									
ヒメグモ科																		
	6	オナガグモ						●		●		●	●	●		●	●	
	7	シモフリミジグモ														●		
	8	ニホンヒメグモ	●	●		●	●			●			●		●	●	●	
	9	オオヒメグモ	●	●	●							●			●	●	●	
アシナガグモ科																		
	10	オオシロカネグモ								●	●	●	●	●				
	11	ヤサガタアシナガグモ								●	●							
	12	アシナガグモ				●	●	●				●						
	13	ウロコアシナガグモ								●						●		
ジョロウグモ科																		
	14	ジョロウグモ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
コガネグモ科																		
	15	ハツリグモ										●						
	16	マルツメオニグモ													●			
	17	ナガコガネグモ					●	●				●	●					
	18	コガタコガネグモ					●	●										
	19	ギンメッキゴミグモ		●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	20	ゴミグモ								●								
	21	マルゴミグモ														●		
	22	シロスジジョウジョウグモ	●					●				●			●			
	23	ワキグロサツマノミダマシ											●	●				
	24	コゲチャオニグモ			●													
	25	サツマノミダマシ										●						
	26	アオオニグモ属の一種														●		
コモリグモ科																		
	27	ウツキコモリグモ					●											
	28	カイソクコモリグモ属の一種										●						
	29	オオアシコモリグモ属の一種													●			
キシダグモ科																		
	30	イオウイロハシリグモ					●	●	●			●	●	●				
ササグモ科																		
	31	ササグモ					●	●						●				
タナグモ科																		
	32	クサグモ								●	●		●	●				
	33	コクサグモ	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	
ハグモ科																		
	34	ハグモ科の一種		●												●	●	
フクログモ科																		
	35	フクログモ科の一種					●					●				●		
エビグモ科																		
	36	アサヒエビグモ								●					●	●		
	37	シャコグモ									●						●	
	38	エビグモ科の一種					●											
カニグモ科																		
	39	ハナグモ			●	●		●	●			●		●				
	40	ワカバグモ		●	●			●				●	●			●		
	41	アズチグモ				●				●							●	
	42	ヤミイロカニグモ													●			
	43	カニグモ属の一種					●					●	●					

表Ⅲ-4-4 国分寺市内で確認したクモ類の一覧（平成27年度）（2/2）

科名	No.	種名	西恋ヶ窪緑地			姿見の池周辺			東京経済大学			武蔵国分寺公園・真姿の池周辺			平兵衛樹林地			備考
			春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	
ハエトリグモ科																		
	44	ネコハエトリ										●					●	
	45	マミジロハエトリ			●		●			●	●		●					
	46	ウデブトハエトリ												●				
	47	ヨダンハエトリ					●											
	48	シラヒゲハエトリ		●														
	49	ヤガタアリグモ													●			
	50	ヤサアリグモ			●			●										
	51	アリグモ	●	●			●	●									●	
	52	チャイロアサヒハエトリ				●		●			●			●				
	53	メスジロハエトリ				●						●	●					
	54	デーニツツハエトリ			●		●	●		●	●		●	●				
	55	ミスジハエトリ						●									●	
	56	イナズマハエトリ											●					
	57	アオオビハエトリ										●						
	58	シラホシコゲチャハエトリ		●														
	59	コゲチャハエトリグモ属の一種												●				
	60	テナガハエトリグモ属の一種						●										
17		60	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	

※1 表は不明・未分類種を含めたもの。種名まで同定できなかったものは、種名セル内では「～の一種」として一字下げで扱っている。
 ※2 希少種を確認した調査地については、生息への影響を考慮して明記していない。

(2) 希少種

希少種としては、昆虫類で10種、クモ類で1種を確認した。

昆虫類では、クマスズムシ(都RDB:DD)、キンヒバリ(都RDB:DD)、ヤチスズ(都RDB:DD)、ショウリョウバッタモドキ(都RDB:VU)、ヒグラシ(都RDB:NT)、オオアメンボ(都RDB:VU)、ウラナミアカシジミ(都RDB:* (留意種))、ヒオドシチョウ(都RDB:DD)、ヒラタクワガタ(都RDB:NT)を確認した。

なお、ホシミスジを確認したが、本種は都RDB(北多摩)では「データ無し」とされており、注目される。

クモ類では、キシノウエトタテグモ(国RDB:NT、都RDB:NT)を確認した。



ショウリョウバッタモドキ
(都RDB:VU 9月30日)



オオアメンボ
(都RDB:VU 7月24日)



ヒグラシ
(都RDB:NT 8月3日)



ヒオドシチョウの幼虫
(都RDB:DD 5月7日)



ウラナミアカシジミ
(都RDB:*(留意種) 6月2日)



ホシミスジ
(都RDB:データ無し 6月1日)



キシノウエタテグモの巣
(国 RDB:NT 都 RDB:NT 6月4日)

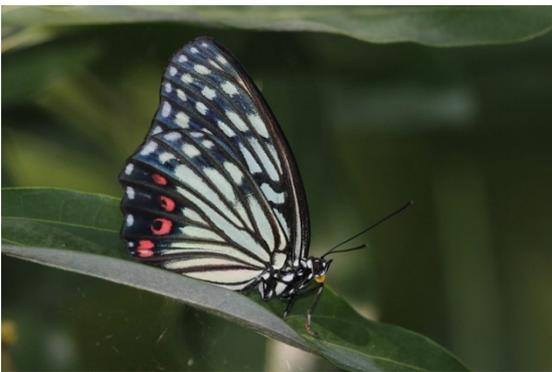


キシノウエタテグモ
(国 RDB:NT 都 RDB:NT 参考写真)

(3) 外来種

外来種については、アオマツムシ、ヨコヅナサシガメ、キマダラカメムシ、アカボシゴマダラ、アメリカミズアブ、ベダリアテントウ、セイヨウミツバチの7種を確認した。武蔵国分寺公園や西恋ヶ窪緑地等で確認したアカボシゴマダラは、生態系被害防止外来種リストの掲載種であり、「総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種）」の中の「重点対策外来種」に指定されている。

クモ類では外来種は確認されなかった。



アカボシゴマダラ(重点対策外来種
7月22日 西恋ヶ窪緑地)



キマダラカメムシ(外来種
7月21日 武蔵国分寺公園)



アメリカミズアブ(外来種
9月30日 姿見の池緑地)



アオマツムシ(外来種
9月24日 西恋ヶ窪緑地)

5. 水生生物

1) 調査の方法

(1) 調査時期・期間・時間

- ・水生生物調査に適期とされる春～秋期に調査を実施した。1期1箇所あたり1日程度の調査を行った。
- ・調査時間は、各調査地とも午前9時から実施し、およそ2時間30分程度とした。

表Ⅲ-5-1 水生生物調査の実施日一覧(平成27年度)

調査期	調査日	調査地	天候
春期調査	6月1日	真姿の池・ お鷹の道水路(元町用水)	晴れ
	6月5日	姿見の池	曇り
夏期調査	7月21日	真姿の池・ お鷹の道水路(元町用水)	晴れ
	7月25日	姿見の池	晴れ
秋期調査	9月28日	姿見の池	晴れ
	9月30日	真姿の池・ お鷹の道水路(元町用水)	晴れ

(2) 調査手法

- ・各調査地内の水域(池、湧水、用水)を対象とし、専門員1名がタモ網を用いた追い出し法で採集した。採集個体は同定作業後、基本的に元の生息場所に戻した。ただし現地での同定が困難なものについては一部採集し、同定用サンプルとした。

(3) 道具

- ・調査時には、タモ網を使用した。また記録用にデジタルカメラにて記録を取るようにした。
- ・その場において同定の困難な種、微小な種等については必要最小な数を採集するため、微小種については70%エタノール入りスクリュウ管瓶に収容した。

2) 調査の結果

(1) 確認種の概要

種名までの同定はできなかったものを含め、昆虫類を19種、魚類を7種、その他甲殻類などを12種確認し、合計38種を確認した。

表Ⅲ-5-2 国分寺市内で確認した水生生物（昆虫類）の一覧（平成27年度）

目名	科名	No.	種名	姿見の池			真姿の池			お鷹の道水路 (元町用水)			備考
				春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	
カゲロウ目													
コカゲロウ科													
		1	コカゲロウ科の一種	●								●	
トンボ目													
オニヤンマ科													
		2	オニヤンマ				●	●	●		●		
トンボ科													
		3	シオカラトンボ			●							
カワゲラ目													
オナシカワゲラ科													
		4	オナシカワゲラ科の一種				●	●	●	●	●	●	
カメムシ目													
アメンボ科													
		5	アメンボ	●	●								
		6	ヤスマツアメンボ		●				●			●	
		7	ヒメアメンボ	●									
		8	シマアメンボ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アミメカゲロウ目													
ヘビトンボ科													
		9	ヤマトクロスジヘビトンボ					●					都RDB:NT
センブリ科													
		10	ネグロセンブリ					●					都RDB:DD
トビケラ目													
ナガレトビケラ科													
		11	ムナグロナガレトビケラ					●					
ニンギョウトビケラ科													
		12	ニンギョウトビケラ科の一種							●		●	
カクツツトビケラ科													
		13	コカクツツトビケラ類の一種				●	●	●	●	●	●	
エグリトビケラ科													
		14	エグリトビケラ科の一種									●	
		15	トビケラ目の一種							●			
ハエ目													
ガガンボ科													
		16	ガガンボ科の一種					●	●	●			
ユスリカ科													
		17	ユスリカ科の一種	●	●		●	●	●		●		
ブユ科													
		18	ブユ科の一種			●							
		19	ハエ目の一種				●	●					
7	14		19										

※1 表は不明・未分類種を含めたもの。種名まで同定できなかったものは、種名セル内では「～の一種」として一字下げて扱っている。

※2 希少種を確認した調査地については、生息への影響を考慮して明記していない。

表Ⅲ-5-3 国分寺市内で確認した水生生物（魚類）の一覧（平成27年度）

目名	科名	No.	種名	姿見の池			真姿の池			お鷹の道水路 (元町用水)			備考
				春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	
コイ目													
コイ科													
	1		コイ	●	●	●							ニシキゴイ
	2		アブラハヤ				●						都RDB:VU
	3		モツゴ		●	●							
ドジョウ科													
	4		ドジョウ			●							
	5		カラドジョウ属の一種		●	●							外来種
ダツ目													
メダカ科													
	6		メダカ				●						国RDB:VU 都RDB:CR+EN
スズキ目													
ハゼ科													
	7		ジュズカケハゼ			●							
3	4		7										

※1 表は不明・未分類種を含めたもの。種名まで同定できなかったものは、種名セル内では「～の一種」として一字下げて扱っている。

※2 希少種を確認した調査地については、生息への影響を考慮して明記していない。

表Ⅲ-5-4 国分寺市内で確認した水生生物（その他甲殻類など）の一覧（平成27年度）

目名	科名	No.	種名	姿見の池			真姿の池			お鷹の道水路 (元町用水)			備考
				春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期	
ウズムシ目													
サンカクアタマウズムシ科													
		1	ナミウズムシ				●		●	●			
ナガミズ目													
イトミミズ科													
		2	イトミミズ		●		●	●	●	●			
ツリミズ科													
		3	ツリミズ科の一種						●				
フトミミズ科													
		4	フトミミズ科の一種						●				
		-											
		5	ナガミズ目の一種				●						
ニナ目(吸殻目)													
カワニナ科													
		6	カワニナ				●	●	●	●	●	●	
ワラジムシ目													
ミズムシ科													
		7	ミズムシ	●			●	●	●	●	●	●	
ヨコエビ目													
		-											
		8	ヨコエビ目の一種	●	●	●						●	
エビ目													
ヌマエビ科													
		9	ヌカエビ	●	●	●							
		10	ミナミヌマエビ	●	●	●							国内由来の 外来種
アメリカザリガニ科													
		11	アメリカザリガニ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	緊急対策外来種
サワガニ科													
		12	サワガニ					●					都RDB:留意種
6	9		12										

※1 表は不明・未分類種を含めたもの。種名まで同定できなかったものは、種名セル内では「～の一種」として一字下げて扱っている。

※2 希少種を確認した調査地については、生息への影響を考慮して明記していない。

(2) 希少種

希少種については、都 RDB 掲載種のうち 5 種を確認した。

昆虫類ではヤマトクロスジヘビトンボ（都 RDB：NT）、ネグロセンブリ（都 RDB：DD）の 2 種、魚類ではアブラハヤ（都 RDB：VU）とメダカ（国 RDB：VU、都 RDB：CR+EN※）の 2 種、甲殻類ではサワガニ（都 RDB：*（留意種））1 種を確認した。

※メダカについての扱い

これまでメダカと呼ばれていた種は、現在、キタノメダカとミナミメダカに分けられている。ただし、都 RDB ではメダカとして一括りに扱われていることや、放流などにより分布域での同定が困難であることから、ここではメダカとして扱った。

国 RDB では、両種ともに絶滅危惧Ⅱ類 (VU) である。都 RDB では、メダカについて絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) としているが「放流された移入個体は多数生息しているが、ここでは在来個体群のみを評価対象とした」とある。保護対策などを検討する際には、姿見の池で確認した個体が移入個体かどうか確認することが望ましい。



ヤマトクロスジヘビトンボ
(都 RDB:NT 6月1日)



ネグロセンブリ
(都 RDB:DD 7月21日)



メダカ
(国 RDB:VU 都 RDB:CR+EN 6月5日)



アブラハヤ
(都 RDB:VU 7月25日)



サワガニ
(都 RDB:*(留意種) 7月21日)

(3) 外来種

外来種については、アメリカザリガニを真姿の池湧水・姿見の池両地点で確認した。本種は、生態系被害防止外来種リストの掲載種であり、「総合的に対策が必要な外来種(総

合対策外来種)」の中の「緊急対策外来種」に指定されている。また、姿見の池東側の湿地にある浅瀬でカラドジョウ属の一種と考えられる個体を確認した。カラドジョウであれば、外来種リストでその他の総合対策外来種に指定されている。

このほか、国内由来の外来種（※）としては、ミナミヌマエビを姿見の池で確認した。
※国内由来の外来種：我が国に自然分布域を有しているが、その自然分布域を越えて国内の他地域に導入された生物種のこと。



アメリカザリガニ（緊急対策外来種
6月5日 姿見の池）



ミナミヌマエビ（国内由来の外来種
7月26日 姿見の池）

IV 環境団体参加による拠点調査

1. 概要

市内2箇所（姿見の池周辺及び西恋ヶ窪緑地）の調査地点で環境団体が参加する拠点調査について、専門員の指導による動植物調査方法の実地指導を実施した。

表IV-1-1 拠点調査の実施状況(平成27年度)

調査期	実施日	調査地点	対象分野
春期	5月15日(金) 午後2時～午後4時	西恋ヶ窪緑地	鳥類・昆虫類
	5月17日(日) 午後2時～午後4時	姿見の池緑地	植物
夏期	7月26日(日) 午前10時～正午	姿見の池緑地	昆虫類・水生生物
	8月3日(月) 午前10時～正午	西恋ヶ窪緑地	昆虫類
秋期	9月27日(日) 午前10時～正午	姿見の池緑地	鳥類・昆虫類
	10月2日(金) 午前10時～正午	西恋ヶ窪緑地	植物
冬期	1月8日(金) 午前10時～午前11時半	姿見の池緑地	鳥類
	1月8日(金) 午後1時～午後2時半	西恋ヶ窪緑地	鳥類

2. 各調査日の状況

■5月15日(金) 西恋ヶ窪緑地

・概要：緑地内にて、鳥類及び昆虫類の調査などについて講義を行ったあと、鳥類班・昆虫類班に分かれて調査実習を行った。

・調査した鳥類・昆虫類

鳥類では、キジバト、コゲラ、ハシブトガラス、オナガ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、メジロ、スズメを確認した。

昆虫類では、外来種のアカボシゴマダラなどを確認した。また、終了後に雑木林に生息するアカシジミも確認した。

■5月17日(日) 姿見の池緑地

・概要：集合場所である西恋ヶ窪若松公園からスタートし、南側のJR中央線に隣接した雑木林まで調査を行った。クヌギやコナラなどの雑木林を構成する樹木や、アズマネザサ、シオデ、フタリシズカ、シラヤマギクなど林床の植物を確認し

た。

- ・調査した植物：コナラ、クヌギ、ガマズミ、サワフタギ、アズマネザサ、シオデ、ウラシマソウ、ホウチャクソウ、ヌルデ、アオツヅラフジ、サルトリイバラ、フタリシズカ、ヒトリシズカ、シラヤマギクなどを確認した。

■7月26日（日） 姿見の池緑地

- ・概要：姿見の池の近くの林内で昆虫類についての解説を行ったあと、雑木林内で実際の観察を行った。ついで、水路や池に移り、水生生物の採集・同定を行った。
- ・調査した生物：昆虫類では、サトクダマキモドキ、ミズイロオナガシジミやツマキエダシヤク、トウキョウヒメハンミョウなどを確認した。水生生物では、ヌカエビ、ミナミヌマエビ、アメリカザリガニ、シマアメンボなどを確認した。

■8月3日（月） 西恋ヶ窪緑地

- ・概要：集合場所である西恋ヶ窪カルガモ公園付近の雑木林からスタートし、市内のセミの話や樹液に集まる昆虫類、林内を飛ぶチョウ類などを確認した。
- ・調査した昆虫類：キノコムシの仲間、アブラゼミ、ミンミンゼミ、サビキコリ、カラスアゲハ、オオアオイトトンボなどを観察した。市内では珍しいセミヤドリガも確認した。

■9月27日（日） 姿見の池緑地

- ・概要：鳥類については、秋の鳥類観察のポイントを講義し、昆虫類については、鳴く虫などを含むバッタ類について講義をした。その後、緑地内で鳥類及び昆虫類の観察を行った。
- ・調査した生物：鳥類では、カルガモ、アオサギ、キジバト、シジュウカラ、メジロ、ヒヨドリなどを確認した。終了後にはハシボソガラスを確認した。昆虫類では、コオロギ類やヒナバッタ、クワコ、ヨコヅナサシガメなどを確認した。

■10月2日（金） 西恋ヶ窪緑地

- ・概要：集合場所である西恋ヶ窪カルガモ公園付近の雑木林からスタートし、林縁部を中心にはじける種子、風に乗る種子、重力で落ちる種子、動物の体にくっつく種子、鳥に食べられた後、糞によって運ばれる種子等、植物の種子散布の仕方を観察した。
- ・調査した植物：マユミ、ゴンズイ、ムラサキシキブ、キンミズヒキ、フジカンゾウ、ヌスビトハギ、センニンソウ、ヤクシソウ、カラスノゴマ等の植物を観察した。

■1月8日（金）午前 姿見の池緑地

- ・概要：冬期の鳥類調査について秋期の復習も含めて講義を行ったあと、観察に移った。ヤブツバキに集まるヒヨドリやメジロ、池ではマガモなどのカモ類なども観察した。
- ・調査した鳥類：マガモ、カルガモ、シジュウカラ、メジロ、ヒヨドリなどを確認した。

■1月8日（金）午後 西恋ヶ窪緑地

- ・概要：参加者が減少したものの、午前中と同じ参加者だったことから、すぐに樹林内で調査を行った。ヒヨドリやカラス類などの古巣を見ながら、シジュウカラ、コゲラ、メジロなどの混群も観察した。後半は隣接する畑に移動し、ジョウビタキを観察した。
- ・調査した鳥類：コゲラ、ヒヨドリ、シジュウカラ、メジロ、ジョウビタキなどを観察した。



拠点調査の様子（5月15日・西恋ヶ窪緑地 右はアカシジミ）



拠点調査の様子（5月17日・姿見の池 右はフタリシズカ）



拠点調査の様子（7月26日・姿見の池 右はヌカエビ）



拠点調査の様子（8月3日・西恋ヶ窪緑地 右はオオアオイトトンボ）



拠点調査の様子（9月27日・姿見の池 右はヨコヅナサシガメ（外来種））



拠点調査の様子（10月2日・西恋ヶ窪緑地 右はゴンズイ）



拠点調査の様子（1月8日 左：姿見の池緑地 右：西恋ヶ窪緑地）

V 市民アンケート調査

1. 指標種の抽出

指標種については、分類群のバランスや見つけやすさや、種の生態が比較的把握され、生態的な評価がしやすいこと（例：ネジバナは草地が生育条件となることから、草地の指標になる）などを考慮し、以下の8種群（一部、アゲハチョウの仲間、どんぐり類などの種群を含む）を抽出した。

「身近な生きものがし」と題したアンケート調査は、市民を対象としたアンケートとし、夏休み前に市立小中学校にも協力をお願いした。集計結果は、市民と市立小中学校の2種に分けた。

表V-1-1 市民アンケート調査の対象種群一覧（平成27年度）

分類群	種名	対象種群とした主な理由
鳥類	オナガ	<ul style="list-style-type: none"> ■体の大きさに比べて尾が長い、翼や尾が青く、声も大きく特徴的である。 ■一年中みることができる(ツバメが渡り鳥なので、一種は留鳥とした)。
	ツバメ	<ul style="list-style-type: none"> ■姿がわかりやすく、親しみやすい鳥である。 ■巣を見つけることで、繁殖の様子をみることができる。 ■春から夏頃までみることができる。
昆虫類	アゲハチョウの仲間(ナミアゲハ、キアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハなど)	<ul style="list-style-type: none"> ■チョウの中でも大型なので見つけやすい。 ■種ごとに食草・食樹が異なるなど、周りの環境を含めて確認できる。
	カブトムシ	<ul style="list-style-type: none"> ■子ども、特に男の子に人気が高く、体が大きく見つけやすい。 ■7～8月の時期に見られ、夜行性である。
両生類 爬虫類	ヒキガエル	<ul style="list-style-type: none"> ■産卵には水辺が必要であるため、周りの環境を含めて確認できる。 ■体中にいぼがあり特徴的である。
	ニホンヤモリ	<ul style="list-style-type: none"> ■夜行性だが、家屋や塀など身近な場所で見つけることができる。
植物	ネジバナ	<ul style="list-style-type: none"> ■草地の指標種になる。 ■ピンクの小さな花がらせん状についた特徴的な花である。
	どんぐり類	<ul style="list-style-type: none"> ■殻斗(帽子のような部分)やどんぐりの形の違いにより、樹木の種別がわかりやすい。 ■市内の雑木林などで多くみることができる。

2. 市民アンケート調査のデータ集計及び考察

1) データの概要

市民アンケート調査の期間としては、平成27年5月1日から10月31日の間に目撃したものを対象データとした。まとめて報告することも想定し、データの送付期限は11月16日までとした。

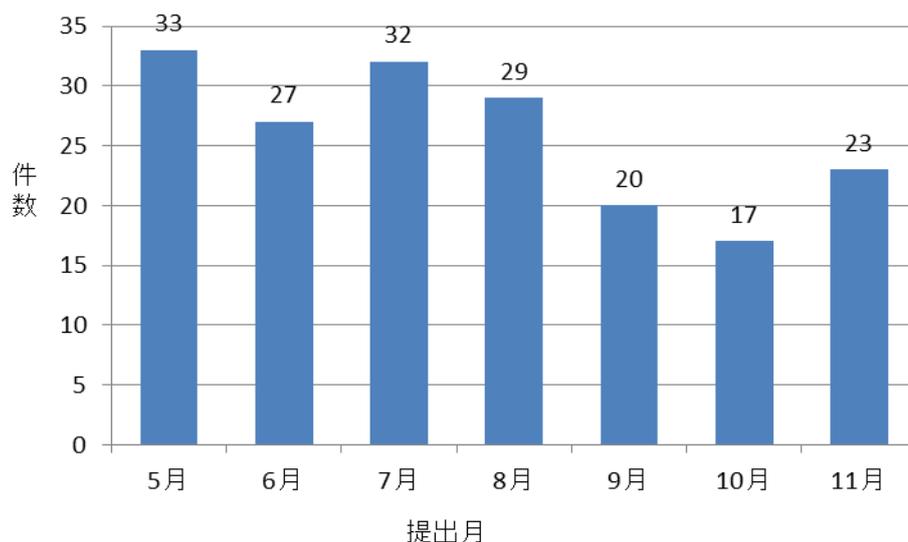
2) 集計結果

(1) 調査件数

5月以降、集計された調査件数は181件1,710サンプル(※)であった。

月別では5月が33件で最大数であり、5月から8月までは30件前後で推移し、9月以降は、20件前後に件数が下がった。

※ここでの1件とは、調査票の件数であり、目撃した種の報告件数ではない(例えば、1件の報告にヒキガエルの報告が1サンプル、アゲハチョウの報告が2サンプルが含まれるケースがある)。



図V-2-1 得られた調査件数 (n=181)

(2) 報告者の年齢層

集計された181件のうち、年齢層が分かった160件について、図V-2-2に示す。なお、集計は「のべ」であり、同じ方が複数の調査票を提出された場合、個別に集計した。

70代が49件(30.6%)と最も多く、次いで80代が33件(20.6%)、60代が28件(17.5%)であり、70代以上が82件で68.8%を占めていた。一方、20代からの報告はなかった。

(3) 調査票の提出方法

集計された181件の提出方法を図V-2-3に示す。

最も多かったのはメールの51件(28.2%)であり、次いで清掃センター(環境計画課)

市役所などへの持参が 42 件（23.2%）、公共施設に設置した回収ポストへの投函が 36 件（19.9%）、郵便が 34 件（18.8%）となっていた。

様々な提出方法が選ばれていること、その中で、持参や回収ポストといった手渡しの手法が多い（43.1%）一方で、メールという電子媒体による方法が最も多かったことが特徴と考えられる。

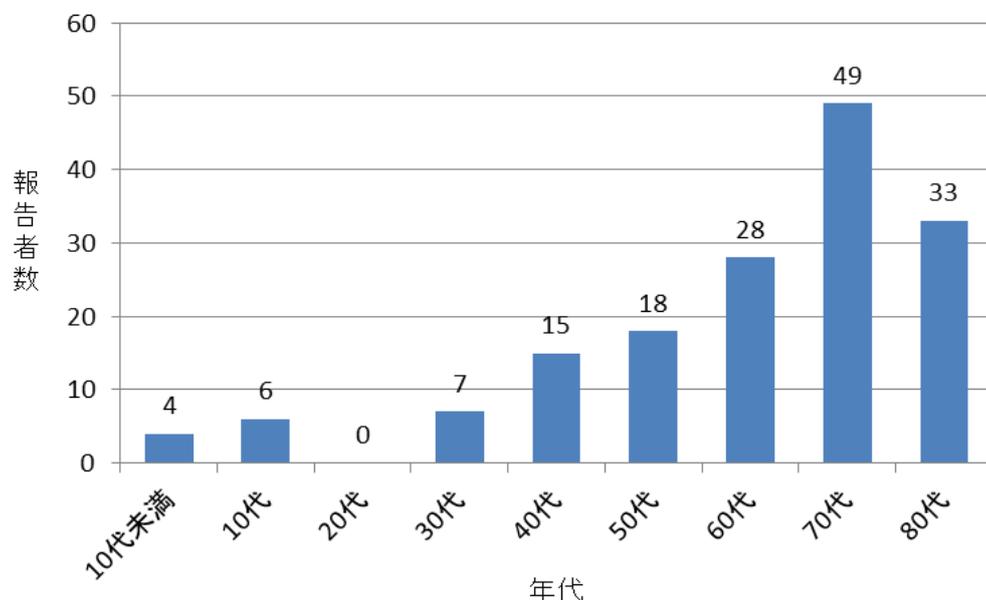


図 V-2-2 報告者の年齢層 (n=160)

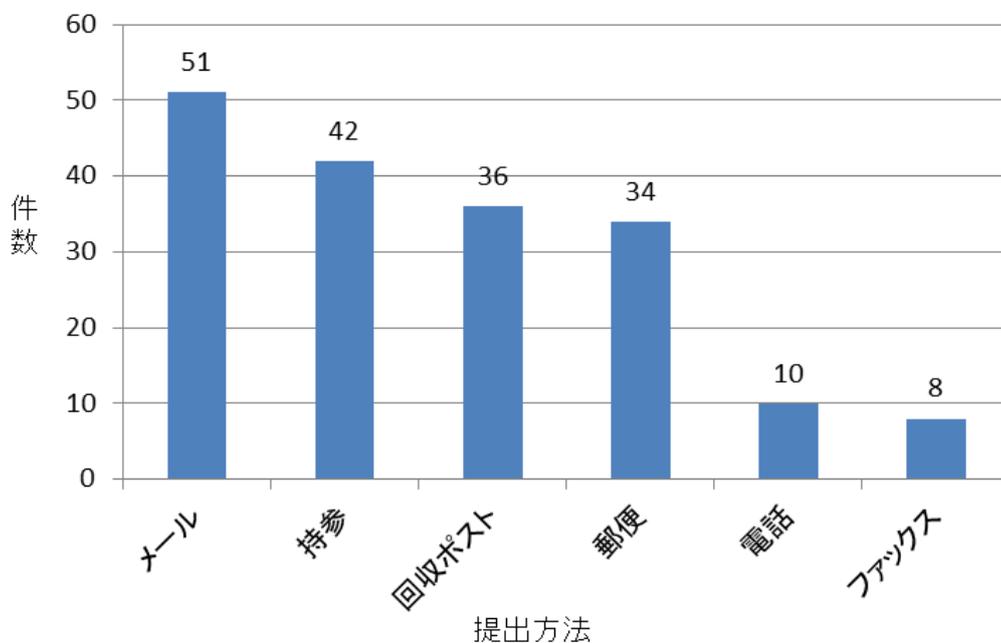


図 V-2-3 調査票の提出方法 (n=181)

(4) 報告者の住所

集計された 181 件について、報告者の住所（町別のみ）を月別に表にまとめた。

市内の全町から調査票が得られていた。町別では、東恋ヶ窪が 26 件と最も多く、ついで西町の 20 件、日吉町の 15 件となった。また、市外在住者（市内在勤者）からの調査票も 16 件あった。

表 V-2-1 報告者の町別住所の一覧(平成 27 年度)

調査票 回収月	東 元 町	西 元 町	南 町	泉 町	本 町	本 多	東 恋 ヶ 窪	西 恋 ヶ 窪	東 戸 倉	戸 倉	日 吉 町	内 藤	富 士 本	新 町	並 木 町	北 町	光 町	高 木 町	西 町	不 明	市 外	計	
5月	4	1	1		1	1	5	1		2	3			2	5				2			5	33
6月			2				8	1	1		1		1		2	1	2		3	1		4	27
7月	2	1		2	2		3			3	2	3	2	2			2	1	5			2	32
8月	1		1			3	4	3	1	1	2			1	1	1	1	2	4	2		1	29
9月	2				1	2	1				2	1	1	1	2		2		1	2		2	20
10月		1	1			1	1		1		3	2	1	1	1				2			2	17
11月	1	2	2	2	1		4			1	2		1			1	2	1	3				23
計	10	5	7	4	5	7	26	5	3	7	15	6	6	7	11	3	9	4	20	5	16	181	

(5) 調査対象種群の報告数

〔 ※なお、以下のデータについて、すべてのサンプルの種名について写真などで同定して
いないため、間違っ報告されたデータが含まれる可能性がある。 〕

全体で 1,715 サンプルの報告があり、そのうち調査対象の 8 種群については 533 サンプル（全体の 31.1% 調査日の記入がなかったものでも、期間内に目撃したものとして判断し、有効とした。ただし、調査期間外や市外での観察記録 5 件を除く）であった。この 8 種群について、集計結果を表に示す。

最も多かったのはアゲハチョウの仲間の 159 サンプル（対象種群の 29.8%）、ついで、オナガの 155 サンプル（同 29.1%）、ツバメの 62 サンプル（同 11.6%）などであった。一方で最も少なかったのはカブトムシの 12 サンプル（同 2.3%）、次いでどんぐり類 16 サンプル（同 3.0%）であった。

町別では、西町が 164 サンプルと最も多く、次いで西恋ヶ窪の 50 サンプル、東恋ヶ窪の 42 サンプルなどであった。西町が突出して多いが、これは地域の鳥類の観察記録を丁寧に報告された方がいたためである。

なお、町別の集計では、武蔵国分寺公園での記録を別に取り扱っている。これは、公園名での記載であるが、公園の所在地が泉町と西元町とにまたがって区分できないこと、面積が約 11ha と大きく個別に見る意味があると考えたためである。

表V-2-2 各調査対象種群の報告数(平成27年度)

分類群	種名	報告数	割合(%)
鳥類	オナガ	155	29.1
	ツバメ	62	11.6
昆虫類	カブトムシ	12	2.3
	アゲハチョウの仲間	159	29.8
植物	ネジバナ	46	8.6
	どんぶり類	16	3.0
爬虫類	ニホンヤモリ	47	8.8
両生類	ヒキガエル	36	6.8
合計		533	100.0

表V-2-3 各調査対象種群の町別報告数(平成27年度)

対象種群名	東元町	西元町	南町	泉町	武蔵国分寺公園	本町	本多	東恋ヶ窪	西恋ヶ窪	東戸倉	戸倉	日吉町	富士本	内藤	光町	高木町	新町	北町	並木町	西町	不明	計
オナガ	1	1		2	2	1	2	3	9	9	9	8	3	1	2	1		2		97	2	155
ツバメ	3			2	4			6	3		3		1			1			1	36	2	62
カブトムシ								1			2	1			2	1		2	1	2		12
アゲハチョウの仲間	5	3	7	3	1	11	11	11	20	13	10	15	3	4	16	1	2	2	5	15	1	159
ネジバナ	1		1	2		3	4	6		3	2	2	2	2	9	1		1	1	5	3	46
どんぶり類			1	2				3	5		2				1					2		16
ニホンヤモリ	2		5	1		1	3	7	9		1	2	2	3	2		2	1	1	4	1	47
ヒキガエル	4		3	1			3	5	4		3		3	2	1	1	2		1	3		36
計	16	4	17	13	7	16	23	42	50	22	33	28	14	12	33	6	6	8	10	164	9	533

(6) 各種の月別・町別の報告数

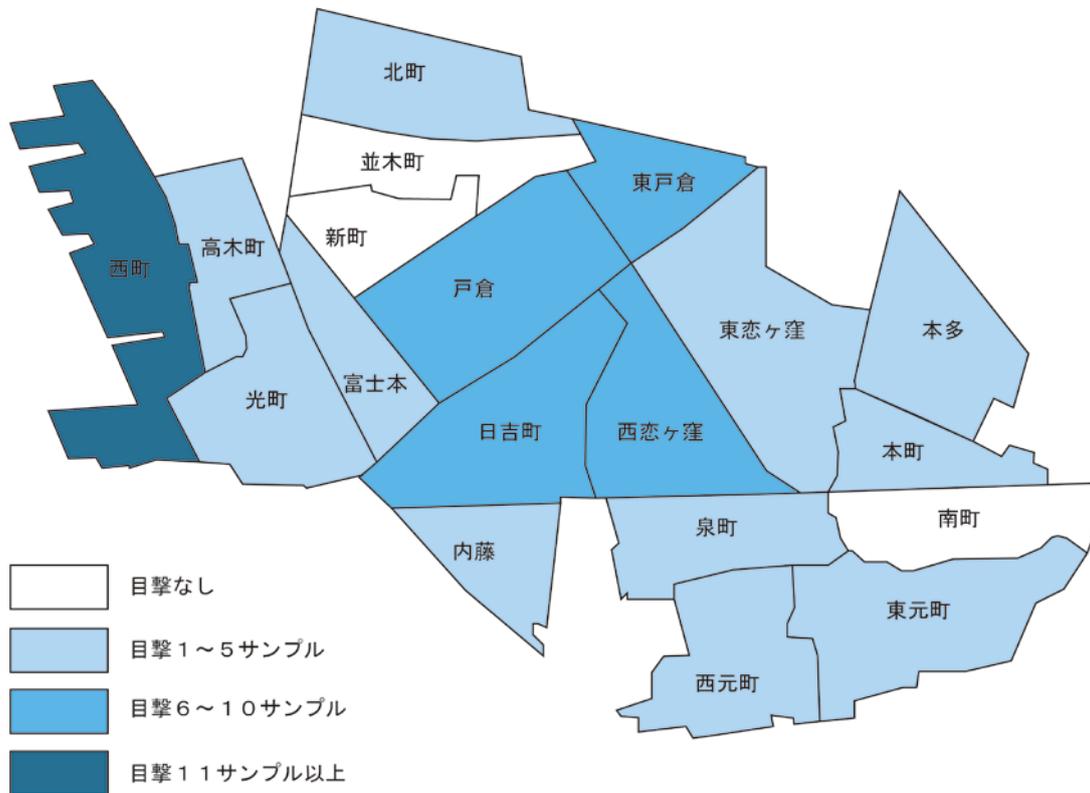
調査対象の8種群について、次ページ以降に月別・町別の集計結果を表に示す。また、町別の報告数を地図上に示した「目撃マップ」も作成した。

①オナガ

16町と武蔵国分寺公園から155サンプルの報告があった。最も多いのは西町で97サンプル、次いで西恋ヶ窪、東戸倉、戸倉が9サンプル、日吉町が8サンプルなどであった。

表V-2-4 オナガの月別・町別報告数（平成27年度）

観察月	東元町	西元町	南町	泉町	武蔵国分寺公園	本町	本多	東恋ヶ窪	西恋ヶ窪	東戸倉	戸倉	日吉町	富士本	内藤	光町	高木町	新町	北町	並木町	西町	不明	計
5月				1	1		1	1	2	1	4	2			1			1		25	1	41
6月		1		1		1	1		7	1	4	5	1	1						19		42
7月								1		4	1	1				1				14		22
8月	1				1					2										20		24
9月										1			1	1						10		13
10月													1					1		9		11
不明								1													1	2
計	1	1	0	2	2	1	2	3	9	9	9	8	3	1	2	1	0	2	0	97	2	155



図V-2-4 市民アンケート調査によるオナガの目撃マップ（平成27年度）

②ツバメ

9 町と武蔵国分寺公園から 62 サンプルの報告があった（期間外の 1 サンプルを除く）。最も多いのは西町で 36 サンプル、次いで東恋ヶ窪が 6 サンプル、武蔵国分寺公園が 4 サンプルなどであった。

観察月では 5 月が 21 サンプル、6 月が 16 サンプルと初夏に集中していた。人目につきやすい巣作りの時期に重なっていると考えられる。

表 V-2-5 ツバメの月別・町別報告数（平成 27 年度）

観察月	東元町	西元町	南町	泉町	武蔵国分寺公園	本町	本多	東恋ヶ窪	西恋ヶ窪	東戸倉	戸倉	日吉町	富士本	内藤	光町	高木町	新町	北町	並木町	西町	不明	計
5月	1			2	1			1		2										14		21
6月				1			3	2								1				7	2	16
7月				1			2												1	6		10
8月				1			1			1		1								7		11
9月																				2		2
不明	2																					2
計	3	0	0	2	4	0	0	6	3	0	3	0	1	0	0	1	0	0	1	36	2	62

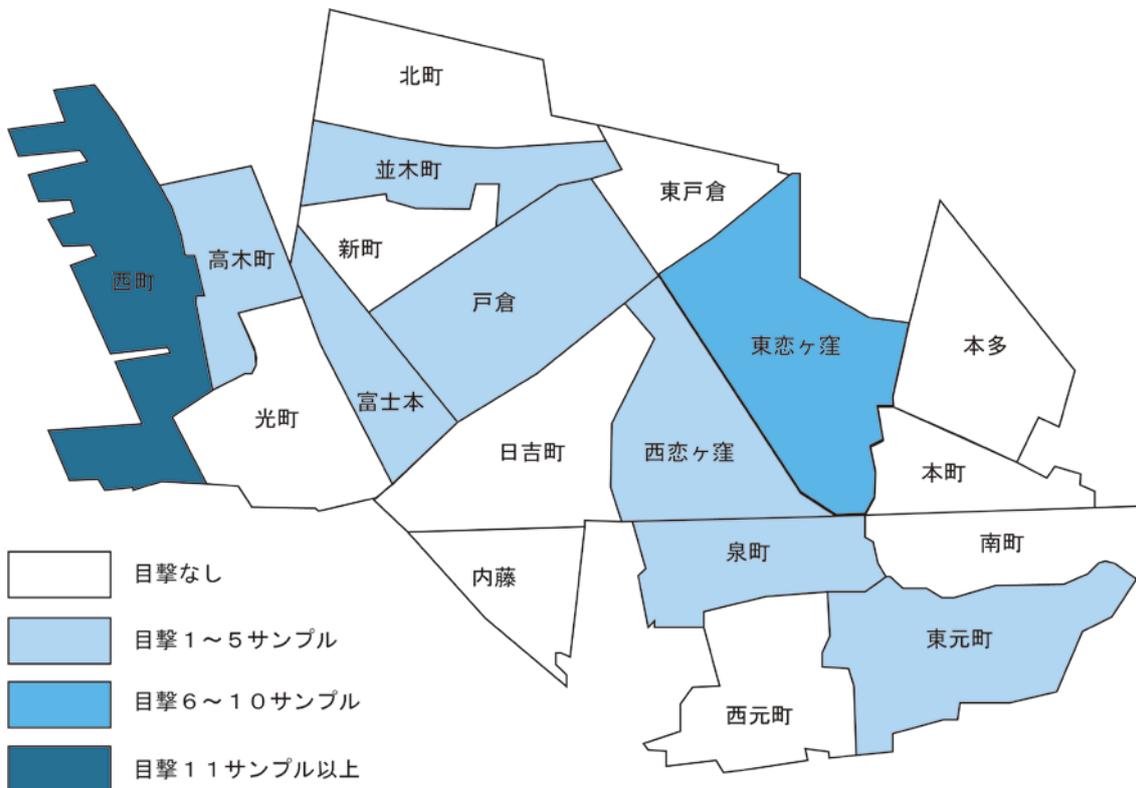


図 V-2-5 市民アンケート調査によるツバメの目撃マップ（平成 27 年度）

③カブトムシ

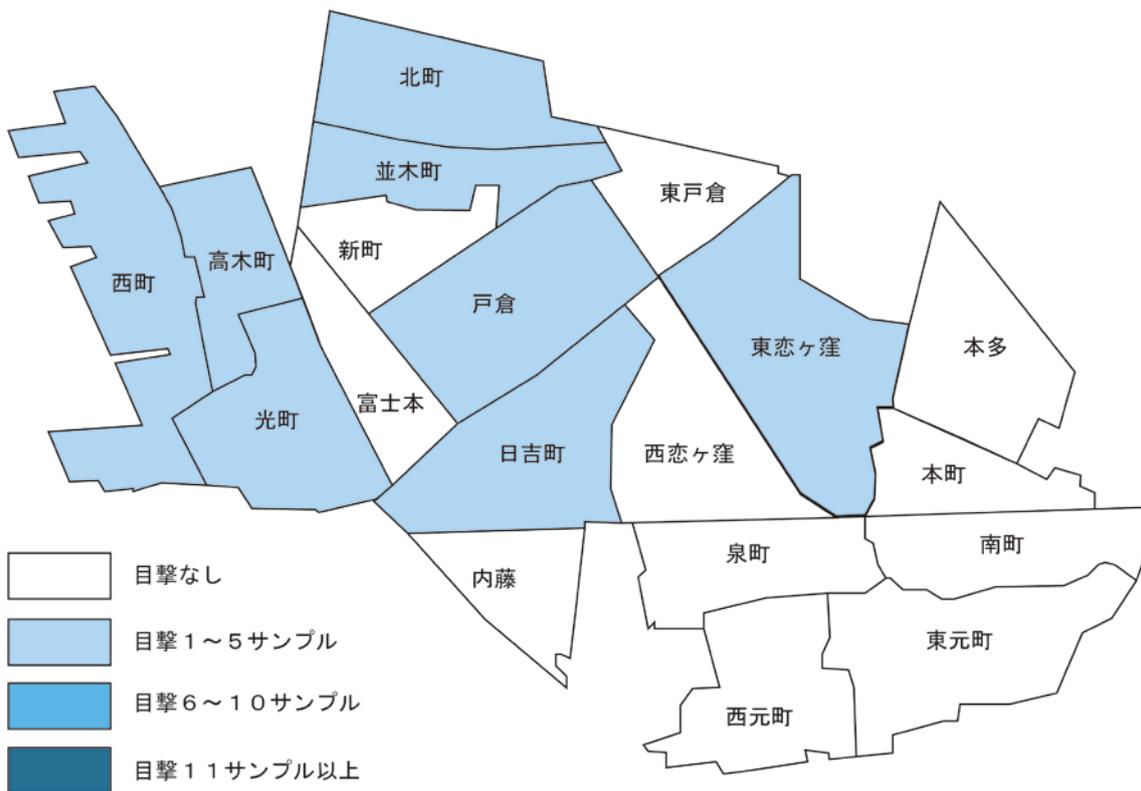
8町から12サンプルの報告があった。

観察月では7月が8サンプルと集中していた。

子どもに人気のある昆虫であるが、報告者の年齢層が高かったことが、サンプル数の少ない原因の可能性はある。

表V-2-6 カブトムシの月別・町別報告数（平成27年度）

観察月	東元町	西元町	南町	泉町	武蔵国分寺公園	本町	本多	東恋ヶ窪	西恋ヶ窪	東戸倉	戸倉	日吉町	富士本	内藤	光町	高木町	新町	北町	並木町	西町	不明	計
6月															1			1				2
7月								1			1				1	1		1	1	2		8
8月											1	1										2
計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	2	1	0	2	1	2	0	12



図V-2-6 市民アンケート調査によるカブトムシの目撃マップ（平成27年度）

④アゲハチョウの仲間

19 町と武蔵国分寺公園すべてから 159 サンプルの報告があった。サンプル数は対象種中最大であった。

町別で最も多いのは西恋ヶ窪で 20 サンプル、次いで光町が 16 サンプル、日吉町と西町が 15 サンプルなどであった。

観察月では 6 月が 39 サンプルで最大であったが、5 月、7 月も 30 サンプル以上、9 月も 28 サンプルと調査期間を通して報告されていた。

表 V-2-7 アゲハチョウの仲間の月別・町別報告数（平成 27 年度）

観察月	東元町	西元町	南町	泉町	武蔵国分寺公園	本町	本多	東恋ヶ窪	西恋ヶ窪	東戸倉	戸倉	日吉町	富士本	内藤	光町	高木町	新町	北町	並木町	西町	不明	計
5月	2		1	1	1	4	4		4	3	3	3			3				2	5		36
6月	1		1			5	2	5	2	7	2	6	1		3				1	2	1	39
7月		3	2			2	1	3	3	2	3	1		1	5		1	1		4		32
8月			1	1				1	1		1	1	1		2	1	1			3		14
9月	2		2				4		9	1		3	1	2	1				2	1		28
10月				1				1	1			1										4
不明								1			1			1	2			1				6
計	5	3	7	3	1	11	11	11	20	13	10	15	3	4	16	1	2	2	5	15	1	159

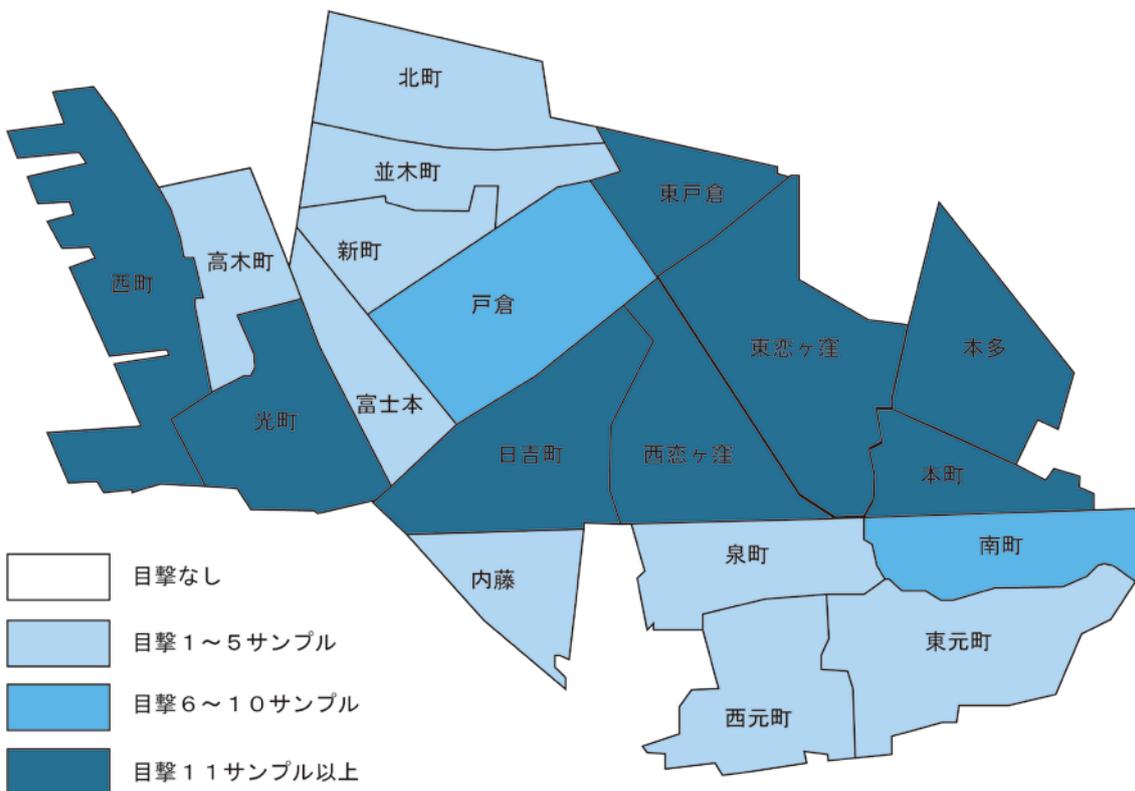


図 V-2-7 市民アンケート調査によるアゲハチョウの仲間の目撃マップ（平成 27 年度）

⑤ネジバナ

15 町から 46 サンプルの報告があった。サンプル数が少ないものの、市内の多くの町から報告が得られた。最も多いのは光町で 9 サンプル、次いで東恋ヶ窪が 6 サンプル、西町が 5 サンプル、本多が 4 サンプルなどであった。

観察月では 6 月が 36 サンプルで最大であった。これは対象種の開花時期が限定されるためと考えられる。

表 V-2-8 ネジバナの月別・町別報告数（平成 27 年度）

観察月	東元町	西元町	南町	泉町	武蔵国分寺公園	本町	本多	東恋ヶ窪	西恋ヶ窪	東戸倉	戸倉	日吉町	富士本	内藤	光町	高木町	新町	北町	並木町	西町	不明	計
5月			1			1						1			1							4
6月				2		1	3	4			3	2	1	2	8	1		1	1	4	3	36
7月	1																					1
不明						1	1	2												1		5
計	1	0	1	2	0	3	4	6	0	0	3	2	2	2	9	1	0	1	1	5	3	46

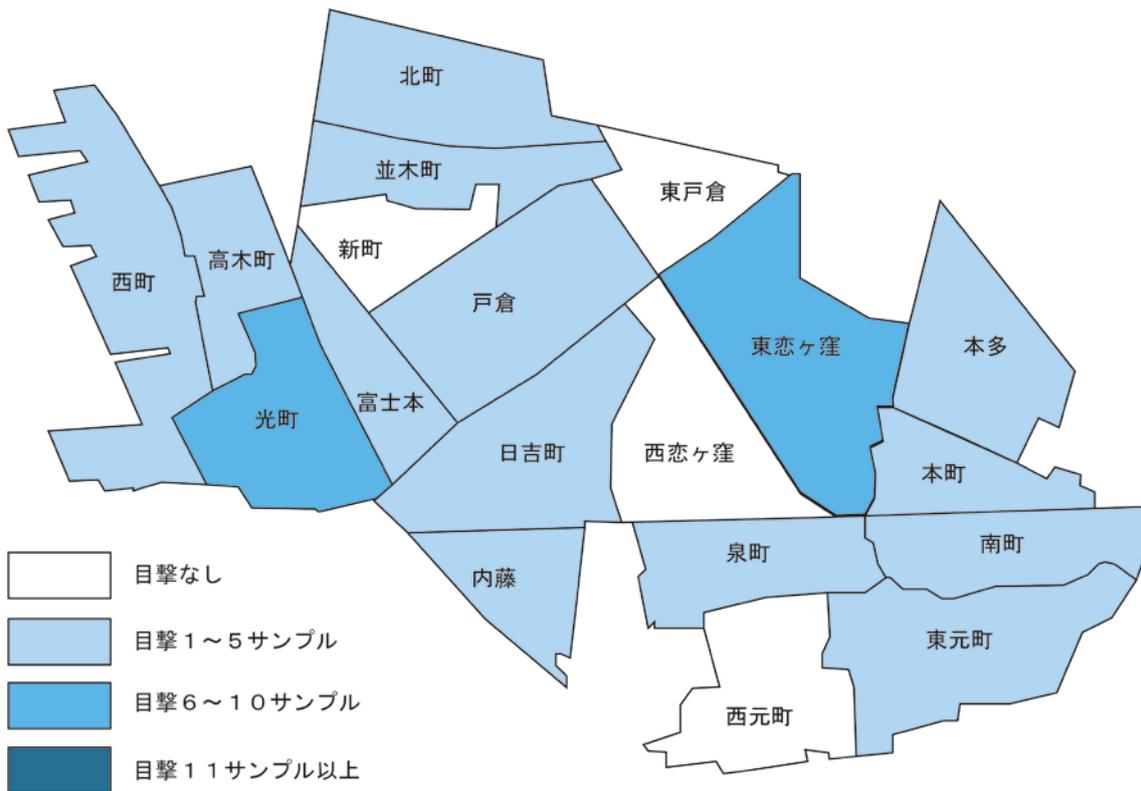


図 V-2-8 市民アンケート調査によるネジバナの目撃マップ（平成 27 年度）

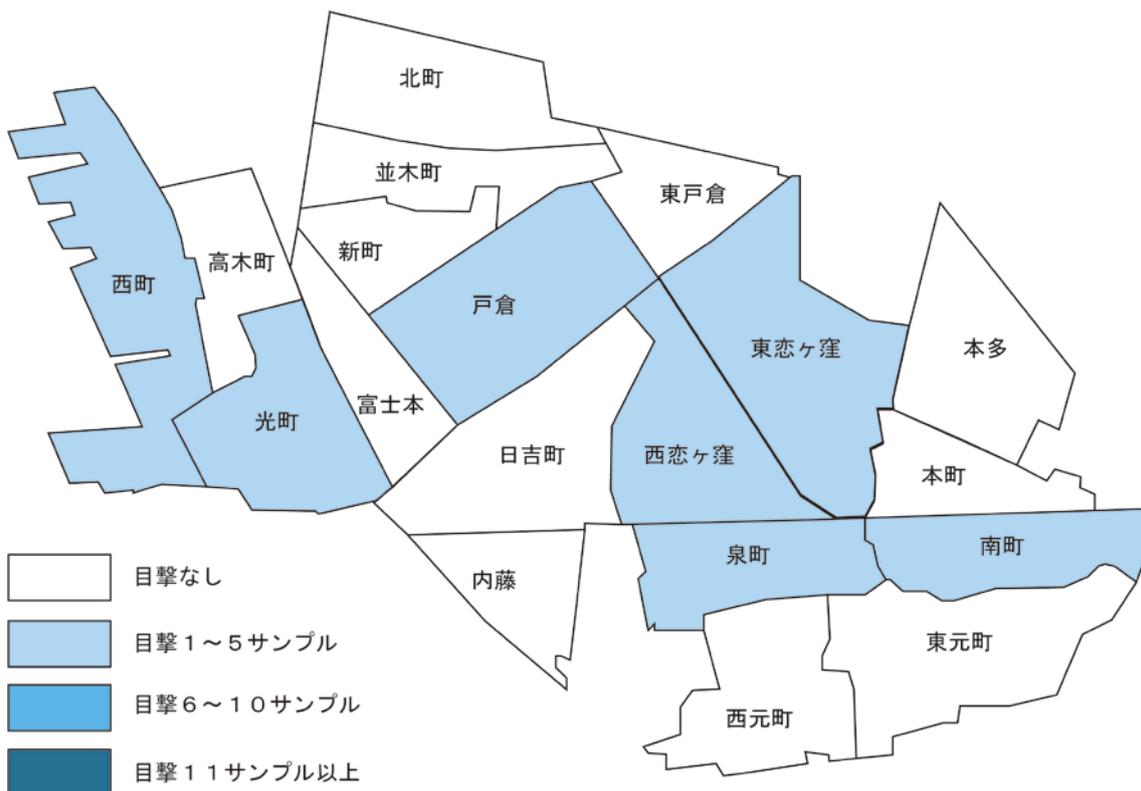
⑥どんぐり類

7町から16サンプルの報告があった。最も多いのは西恋ヶ窪で5サンプル、次いで東恋ヶ窪が3サンプルなどであった。どんぐりの実がなる樹種は市内に広く生育していると考えられるが、関心が低かったと考えられる。

観察月は9月、10月に集中していた。これはどんぐり類に対して秋に捨えるものとのイメージがあった可能性がある。

表V-2-9 どんぐり類の月別・町別報告数（平成27年度）

観察月	東元町	西元町	南町	泉町	武蔵国分寺公園	本町	本多	東恋ヶ窪	西恋ヶ窪	東戸倉	戸倉	日吉町	富士本	内藤	光町	高木町	新町	北町	並木町	西町	不明	計	
9月			1					2							1								4
10月				2				2	3												1		8
不明								1			2										1		4
計	0	0	1	2	0	0	0	3	5	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	16



図V-2-9 市民アンケート調査によるどんぐり類の目撃マップ（平成27年度）

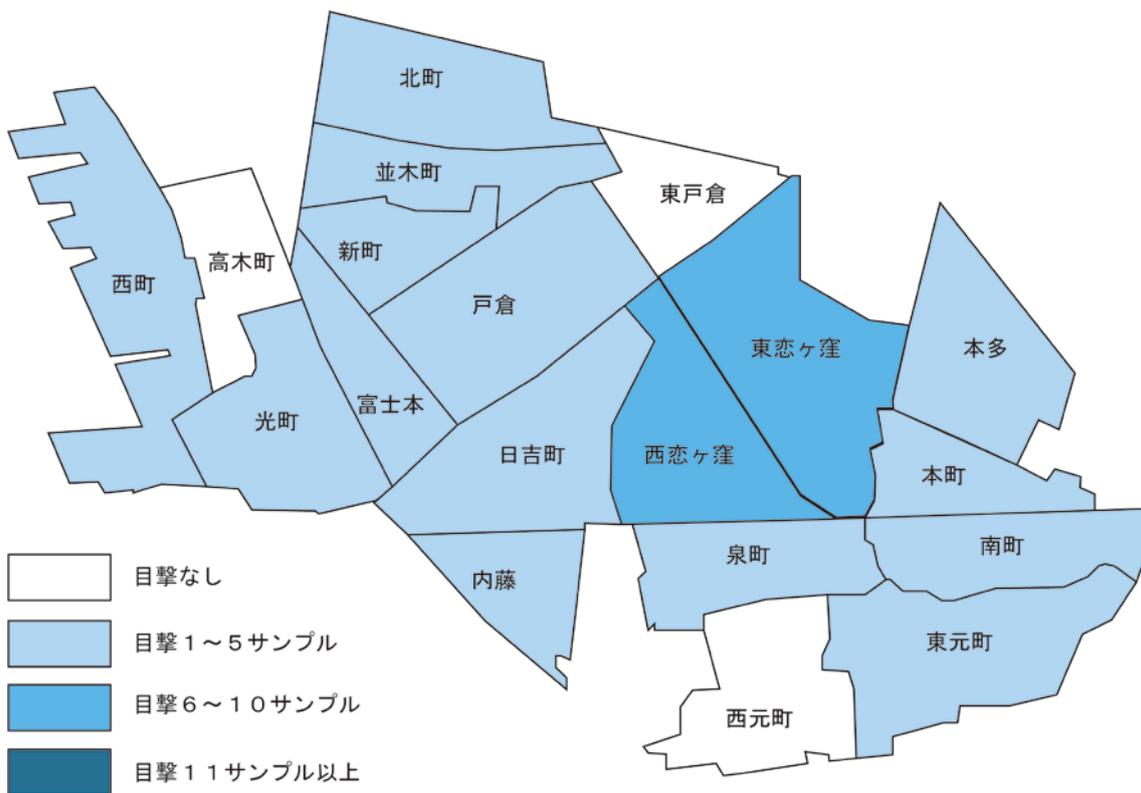
⑦ニホンヤモリ

16町から47サンプルの報告があった。最も多いのは西恋ヶ窪で9サンプル、次いで東恋ヶ窪が7サンプル、南町が5サンプルなどであった。

観察月では8月が10サンプルで最大であり、5月が8サンプル、7月も9サンプル報告されていた。

表V-2-10 ニホンヤモリの月別・町別報告数（平成27年度）

観察月	東元町	西元町	南町	泉町	武蔵国分寺公園	本町	本多	東恋ヶ窪	西恋ヶ窪	東戸倉	戸倉	日吉町	富士本	内藤	光町	高木町	新町	北町	並木町	西町	不明	計
5月			2			1		3									1		1			8
6月			2					2							1		1					6
7月	1							5					1	1						1		9
8月							1	1			2	1	1	1						3		10
9月	1		1	1			2						1					1				7
不明							1	4		1											1	7
計	2	0	5	1	0	1	3	7	9	0	1	2	2	3	2	0	2	1	1	4	1	47



図V-2-10 市民アンケート調査によるニホンヤモリの目撃マップ（平成27年度）

⑧ヒキガエル

14 町から 36 サンプルの報告があった。最も多いのは東恋ヶ窪で 5 サンプル、次いで東元町、西恋ヶ窪が 4 サンプル、南町、本多、戸倉、富士本、西町が 3 サンプルであった。

観察月では 5 月が 14 サンプルで特に多かったが、6 月以降も 3～6 サンプルの報告があった。

なお、本種は専門員調査では卵塊を 1 箇所を確認したのみであり、成体などの確認ができなかった。広範囲で確認報告が得られ、しかも写真などで確実な記録もあったことで、専門員調査を補完する記録となった。

表 V-2-1-1 ヒキガエルの月別・町別報告数（平成 27 年度）

観察月	東元町	西元町	南町	泉町	武蔵国分寺公園	本町	本多	東恋ヶ窪	西恋ヶ窪	東戸倉	戸倉	日吉町	富士本	内藤	光町	高木町	新町	北町	並木町	西町	不明	計
5月	1		1				1	2		2		1	2						1	3		14
6月			1					2									1					4
7月	2			1				2									1					6
8月	1		1									1										3
9月							1	1	2							1						5
不明							1			1		1		1								4
計	4	0	3	1	0	0	3	5	4	0	3	0	3	2	1	1	2	0	1	3	0	36

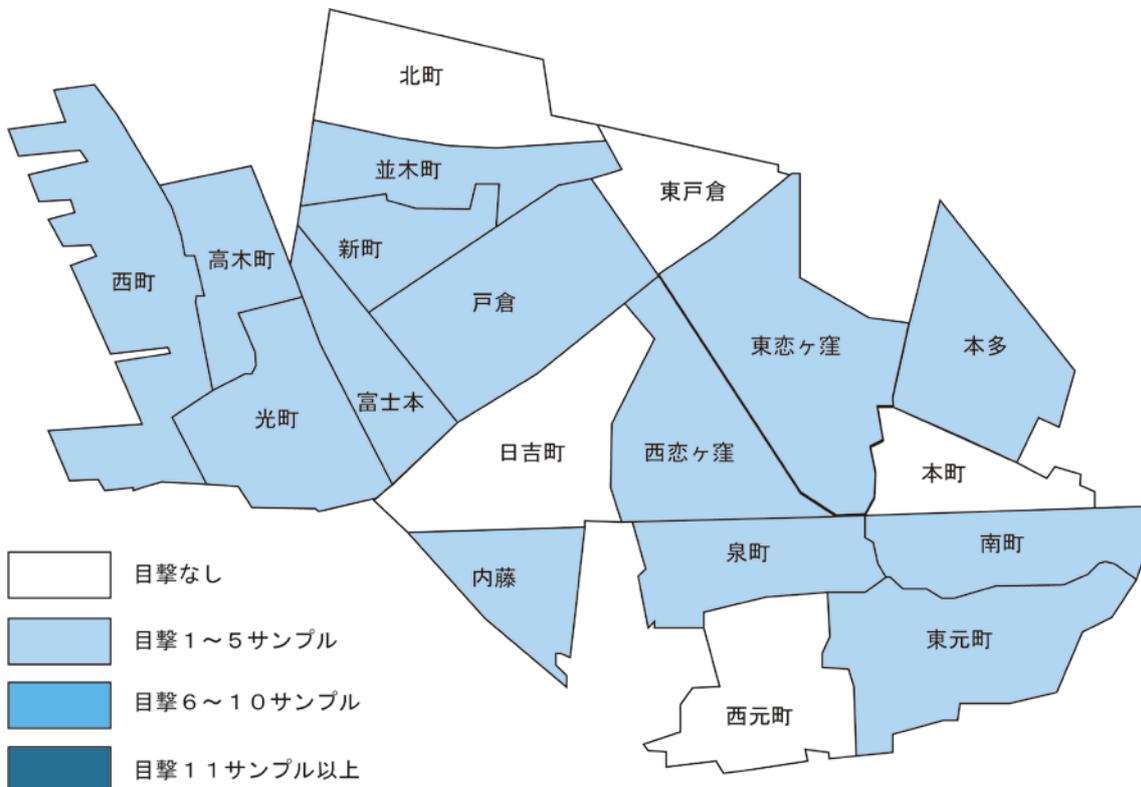


図 V-2-1-1 市民アンケート調査によるヒキガエルの目撃マップ（平成 27 年度）

(7) 対象種群以外の報告種

①報告件数

本アンケート調査では、対象種群以外にも多くの種の観察報告が得られた。それらを以下に示す。なお、種名のはっきりしない名称（「トンボ」、「セミ」など）の場合は、抽出しなかった。

次頁以降に、特徴的な種であるカッコウやウグイスなどについて、集計した表や目撃マップを示す。

表V-2-12 対象種群以外に報告された主な種(平成27年度)

分類群	種名
植物	シャクナゲ、シャクヤク、シラカシ、シラン、スズラン、ナワシロイチゴ、ニワゼキショウ、ハナミズキ、ホタルブクロ、ユキヤナギ、ゴヨウマツ、サンショウ、コデマリ、ナンテン、ウメ、サルスベリ
鳥類	アオサギ、カワウ、カルガモ、マガモ、キジバト、カワラバト、オオタカ、ツミ、カッコウ、カワセミ、コゲラ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、モズ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ジョウビタキ、ツグミ、エナガ、スズメ、ムクドリ、メジロ、カワラヒワ、ハクセキレイ、ホオジロ、ホンセイインコ
哺乳類	タヌキ、ハクビシン
爬虫類	ニホンカナヘビ、ヒガシニホントカゲ、アオダイショウ
両生類	アカハライモリ
昆虫類	ハグロトンボ、オニヤンマ、ギンヤンマ、アキアカネ、オオシオカラトンボ、シオカラトンボ、イボバッタ、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、オンブバッタ、オオカマキリ、ハラビロカマキリ、ヒグラシ、アブラゼミ、ニイニイゼミ、ミンミンゼミ、ゴマダラカミキリ、ノコギリクワガタ、ヨコヅナサシガメ、コクワガタ、カナブン、コアオハナムグリ、オオヒラタシデムシ、ベニシジミ、キタキチョウ、モンシロチョウ、キアゲハ、ツマグロヒョウモン、アカボシゴマダラ、コムスジ、ルリタテハ、テングチョウ、アサギマダラ、エビガラスズメ、コエビガラスズメ、オオミズアオ、キイロスズメバチ、クマバチ
クモ類	ジョロウグモ
水生生物	アメリカザリガニ
その他	ミスジマイマイ

②対象種群以外の集計（主な種について）

■カッコウ

9 町から 21 サンプルの報告があった。最も多かったのは東戸倉で 5 サンプル、次いで西町の 4 サンプル、光町の 3 サンプルなどであった。目撃マップから、市の西側に多い傾向が読み取れた。

観察月では 5 月が 9 サンプルと最も多かった。また、6 つの町で複数月のサンプルが得られており、その場所に定着していた可能性が示唆される。

表 V-2-13 カッコウの月別・町別報告数（平成 27 年度）

観察月	東元町	西元町	南町	泉町	武蔵国分寺公園	本町	本多	東恋ヶ窪	西恋ヶ窪	東戸倉	戸倉	日吉町	富士本	内藤	光町	高木町	新町	北町	並木町	西町	不明	計
5月									1	2			1		1		1		1	2		9
6月										3			1			1			1			6
7月											1				1							2
8月											1				1					2		4
計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	2	0	2	0	3	1	1	0	2	4	0	21

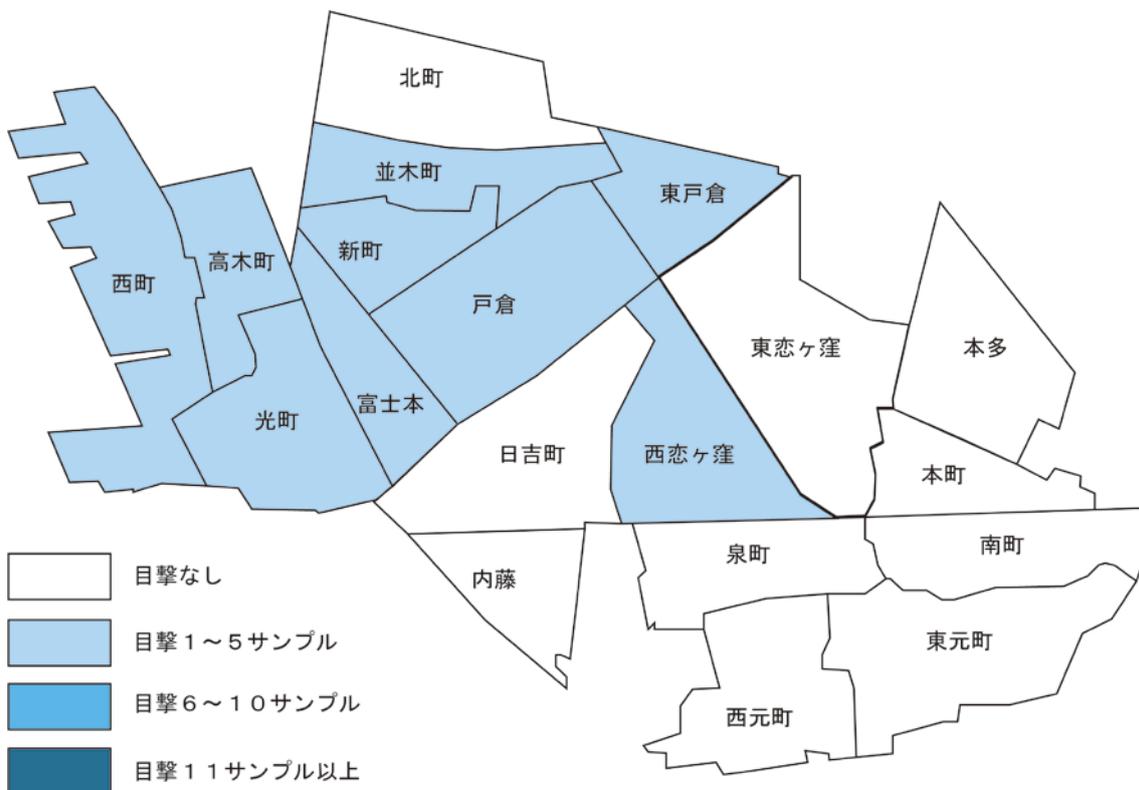


図 V-2-12 市民アンケート調査によるカッコウの目撃マップ（平成 27 年度）

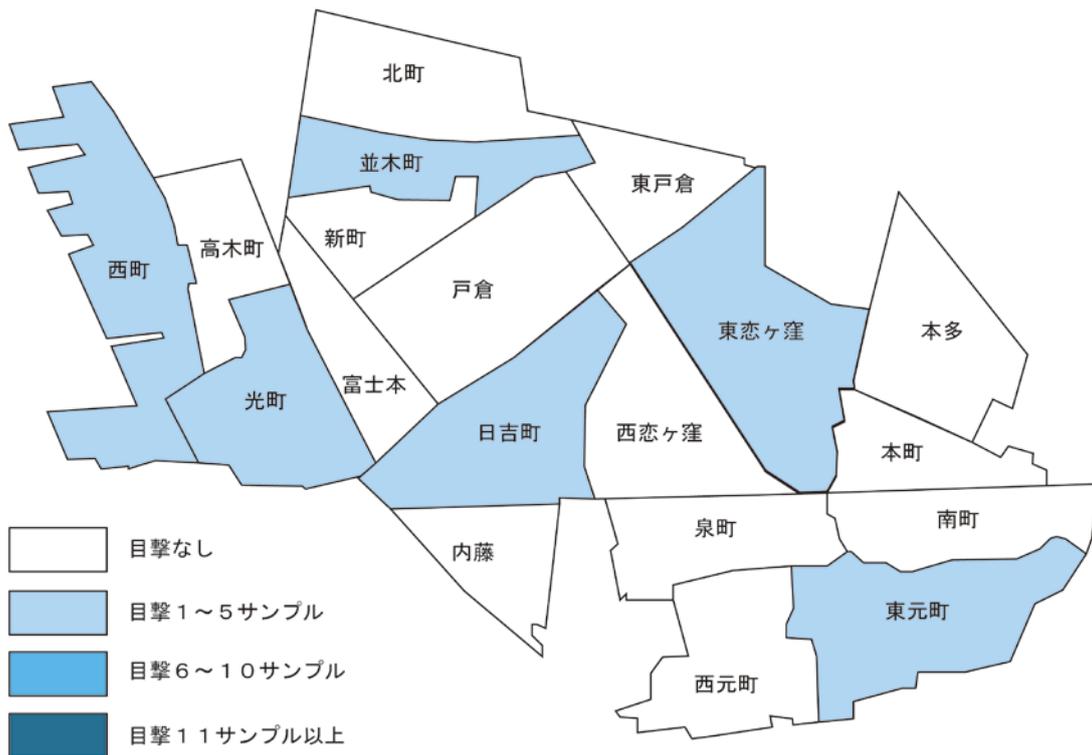
■ウグイス

6町と武蔵国分寺公園から11サンプルの報告があった。最も多かったのは光町で3サンプル、次いで東恋ヶ窪、日吉町の2サンプルなどであった。目撃マップから、市の西側に多い傾向が読み取れた。

観察月では5月が7サンプルと最も多かった。

表V-2-14 ウグイスの月別・町別報告数（平成27年度）

観察月	東元町	西元町	南町	泉町	武蔵国分寺公園	本町	本多	東恋ヶ窪	西恋ヶ窪	東戸倉	戸倉	日吉町	富士本	内藤	光町	高木町	新町	北町	並木町	西町	不明	計
5月	1				1			2				1							1	1		7
6月												1			2							3
7月															1							1
計	1	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	2	0	0	3	0	0	0	1	1	0	11



図V-2-13 市民アンケート調査によるウグイスの目撃マップ（平成27年度）

■タヌキとハクビシン

専門員調査では確認できていない種として、サンプルは少ないがタヌキとハクビシンがそれぞれ1サンプル報告された。

タヌキは8月に並木町から、ハクビシンは7月に東恋ヶ窪からの情報であった。

■ニホンカナヘビとヒガシニホントカゲ

爬虫類の中ではニホンヤモリについて目につきやすい2種について集計した。ニホンカナヘビでは4町から、ヒガシニホントカゲでは2町から報告された。

表V-2-15 ニホンカナヘビの月別・町別報告数（平成27年度）

観察月	東元町	西元町	南町	泉町	武蔵国分寺公園	本町	本多	東恋ヶ窪	西恋ヶ窪	東戸倉	戸倉	日吉町	富士本	内藤	光町	高木町	新町	北町	並木町	西町	不明	計	
5月			2											1									3
9月											1												1
10月									2														2
計	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6

表V-2-16 ヒガシニホントカゲの月別・町別報告数（平成27年度）

観察月	東元町	西元町	南町	泉町	武蔵国分寺公園	本町	本多	東恋ヶ窪	西恋ヶ窪	東戸倉	戸倉	日吉町	富士本	内藤	光町	高木町	新町	北町	並木町	西町	不明	計	
6月								1															1
7月								1															1
9月															1								1
計	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3

■その他に写真で生息を確認した種

この他に、集計するほどのサンプル数ではないが、専門員調査で確認できなかった種を写真で撮影されている場合は、参考記録となることから、ここに示す。

昆虫類では、ナガサキアゲハ、コエビガラスズメ、エビガラスズメ、コクワガタが、専門員調査で確認できなかった種である。

両生類では、市民アンケート調査の対象種でもあるヒキガエルが、専門員調査では1例のみの確認であり、写真のある記録は貴重であった。



コクワガタ(5月10日 武蔵国分寺公園)



ヒキガエル(8月10日 南町)



コエビガラスズメの幼虫(9月4日 南町)



アゲハとナガサキアゲハ(9月5日 内藤)



ナガサキアゲハ(9月11日 東元町)



ヒキガエル(9月30日 西恋ヶ窪)



エビガラスズメの幼虫(10月20日 西恋ヶ窪)

3. 市立小中学校対象アンケート調査のデータ集計及び考察

1) データの概要

市民とは別に、市立小中学校を対象としたアンケート調査を行った。

小学校 8校は 3年生 170名、4年生 235名、6年生 1名、中学校 2校は 1年生 134名、学年不明の 1名の合計 541名から調査票が得られた。

表V-3-1 調査票が得られた市立小中学校とその学年(平成 27 年度)

小学生	3年	4年	6年	不明	合計
第1小学校	2	3			5
第2小学校	78				78
第3小学校		3			3
第4小学校					0
第5小学校		2			2
第6小学校					0
第7小学校		9			9
第8小学校	57	73	1		131
第9小学校	1	76			77
第10小学校	32	69			101
小学校計	170	235	1		406
中学生	1年	2年	3年	不明	合計
第1中学校					0
第2中学校				1	1
第3中学校	1				1
第4中学校					0
第5中学校	133				133
中学校計	134	0	0	1	135
総計					541

2) 集計結果

(1) 報告数

541名から得られた調査報告数は 2,721 サンプルであった。

このうち調査対象種群の報告数は表V-3-2に示すとおりである。

〔※以下のデータについて、すべてのサンプルの種名について写真などで同定していないため、間違っ
て報告されたデータが含まれる可能性がある。〕

758 サンプル（調査期間外や市外での目撃記録 10 サンプル分を除く）であり、全体の 27.9%であった。

種別では、アゲハチョウの仲間が最も多く、228 サンプル（30.1%）、次いでカブトムシ 166 サンプル（21.9%）、ツバメ 101 サンプル（13.3%）、ニホンヤモリ 97 サンプル（12.8%）などであった。最も少なかったのは、ネジバナの 20 サンプル（2.6%）であった。

各種の町別サンプル数を表V-3-3に示す。泉町、内藤を除く町から報告が得られているが、町により 1 サンプルから 96 サンプルまで差が大きい。これは、報告が得られた

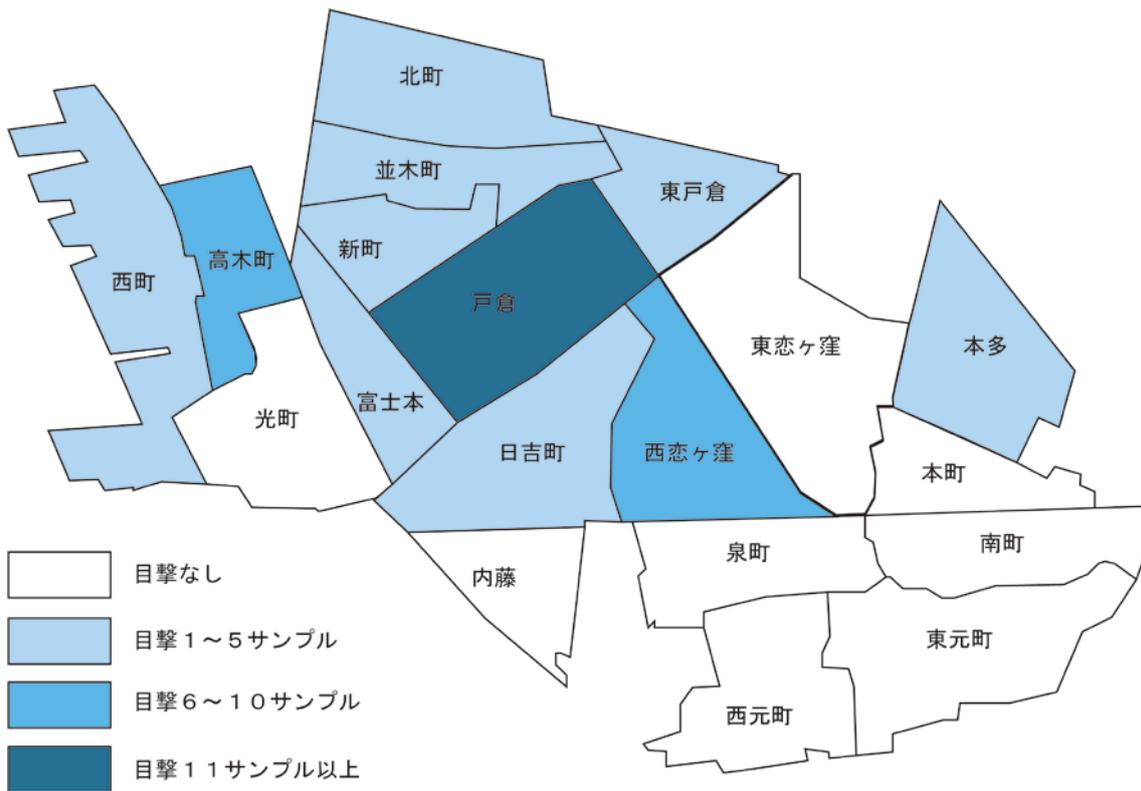
小学校・中学校の分布の偏りに起因し、各種の分布の傾向とは関係が薄いことに注意が必要である。

表V-3-2 各調査対象種群の報告数（小中学校回収分）（平成27年度）

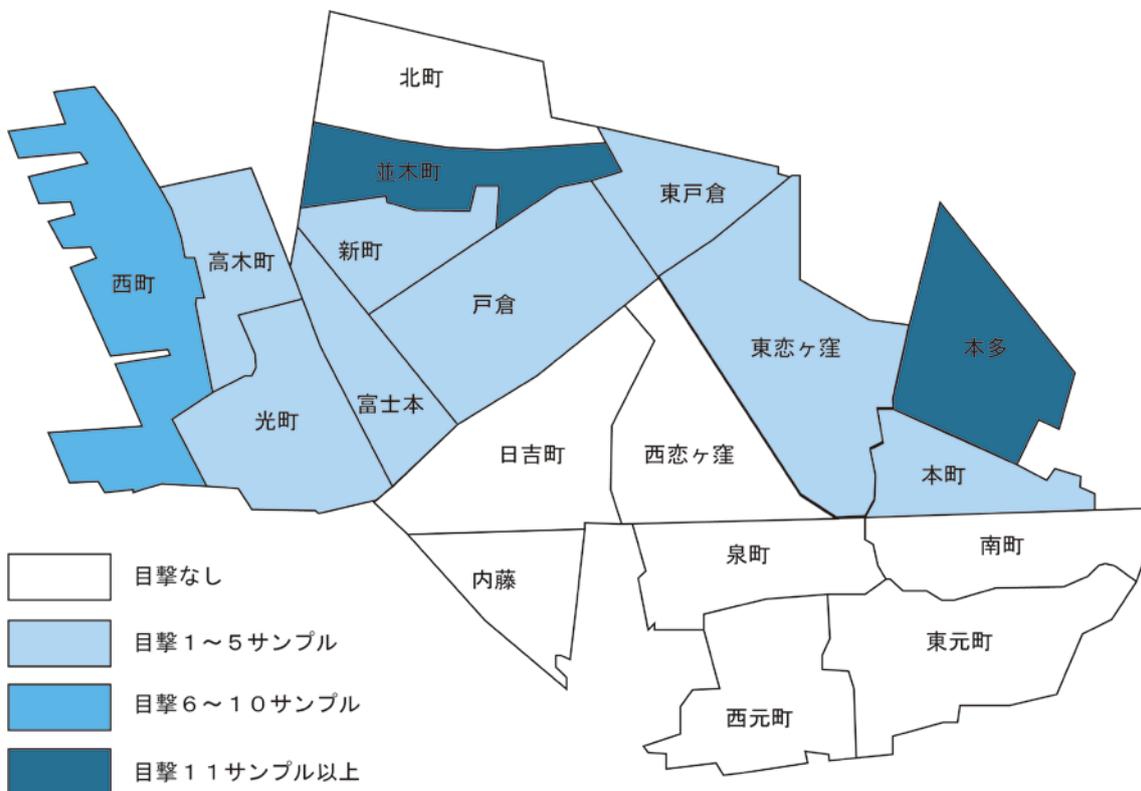
分類群	種名	報告数	割合(%)
鳥類	オナガ	41	5.4
	ツバメ	101	13.3
昆虫類	カブトムシ	166	21.9
	アゲハチョウの仲間	228	30.1
植物	ネジバナ	20	2.6
	どんぐり類	41	5.4
爬虫類	ニホンヤモリ	97	12.8
両生類	ヒキガエル	64	8.5
合計		758	100.0

表V-3-3 各調査対象種群の町別報告数（小中学校回収分）（平成27年度）

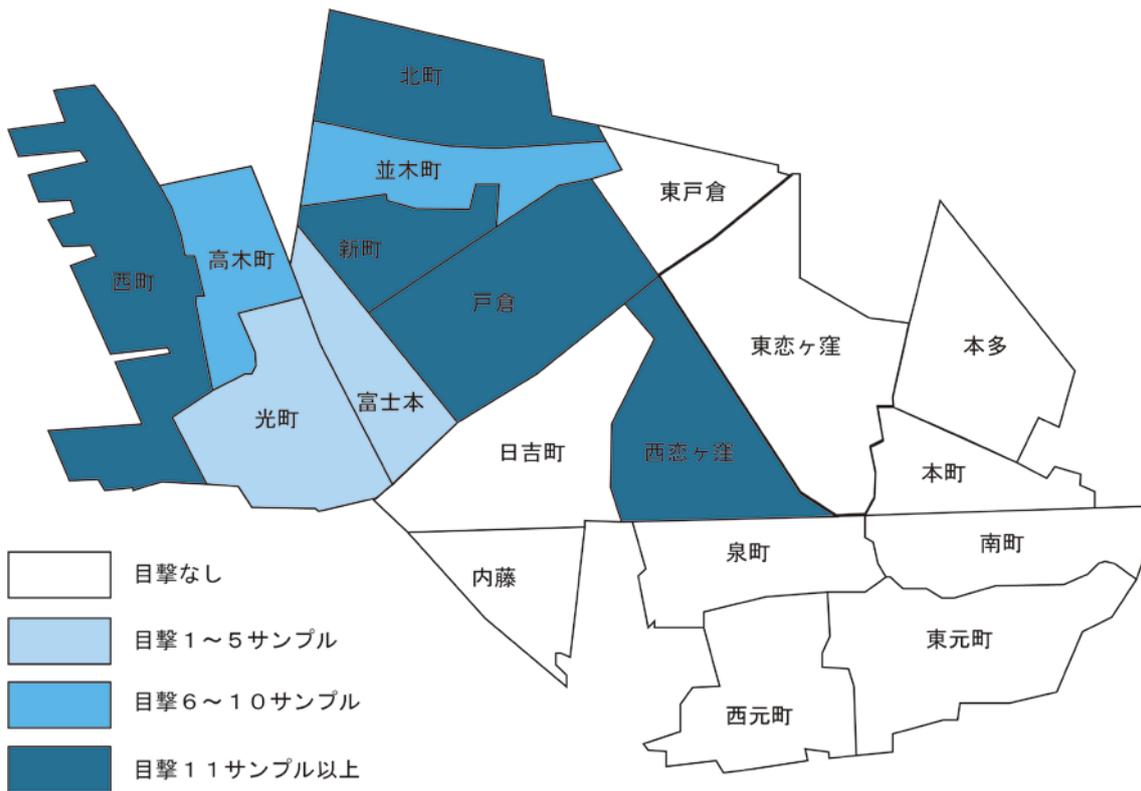
種名	東元町	西元町	南町	泉町	武蔵国分寺公園	本町	本多	東恋ヶ窪	西恋ヶ窪	東戸倉	戸倉	日吉町	富士本	内藤	光町	高木町	新町	北町	並木町	西町	不明	計
オナガ							1		6	1	11	2	1			6	1	1	1	3	7	41
ツバメ						1	14	3		1	5		1		1	1	1		51	6	16	101
カブトムシ									30		14		3		1	8	26	11	7	24	42	166
アゲハチョウの仲間	2	2			1		3	4	23	4	39	3	10		4	14	17	12	12	43	35	228
ネジバナ			1							1	3		1			2		1	3	2	6	20
どんぐり類					1			2	17	1	2		1		1	3	5	1	2	1	4	41
ニホンヤモリ		1					5		10	2	16		7		3	7	7	8	5	14	12	97
ヒキガエル		1					2		8	1	4	2	3			6	7	5	7	3	15	64
合計	2	4	1	0	2	1	25	9	94	11	94	7	27	0	10	47	64	39	88	96	137	758



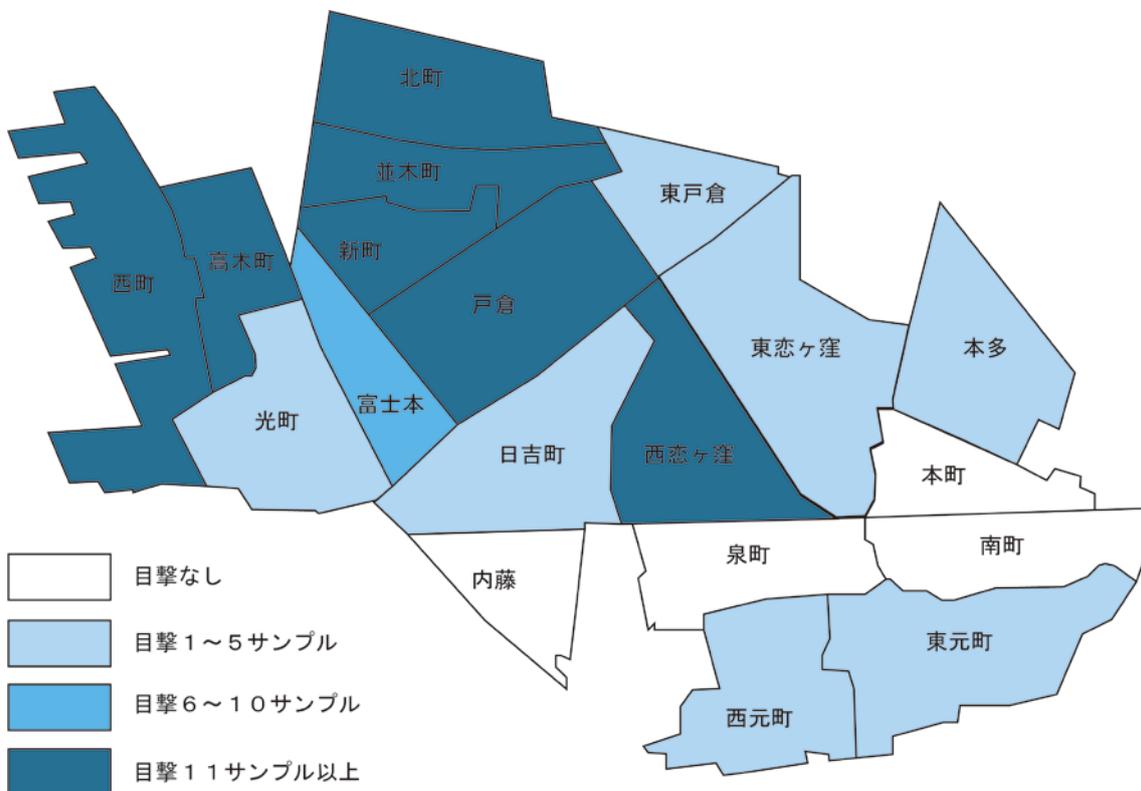
図V-3-1 市立小中学校対象によるオナガの目撃マップ（平成27年度）



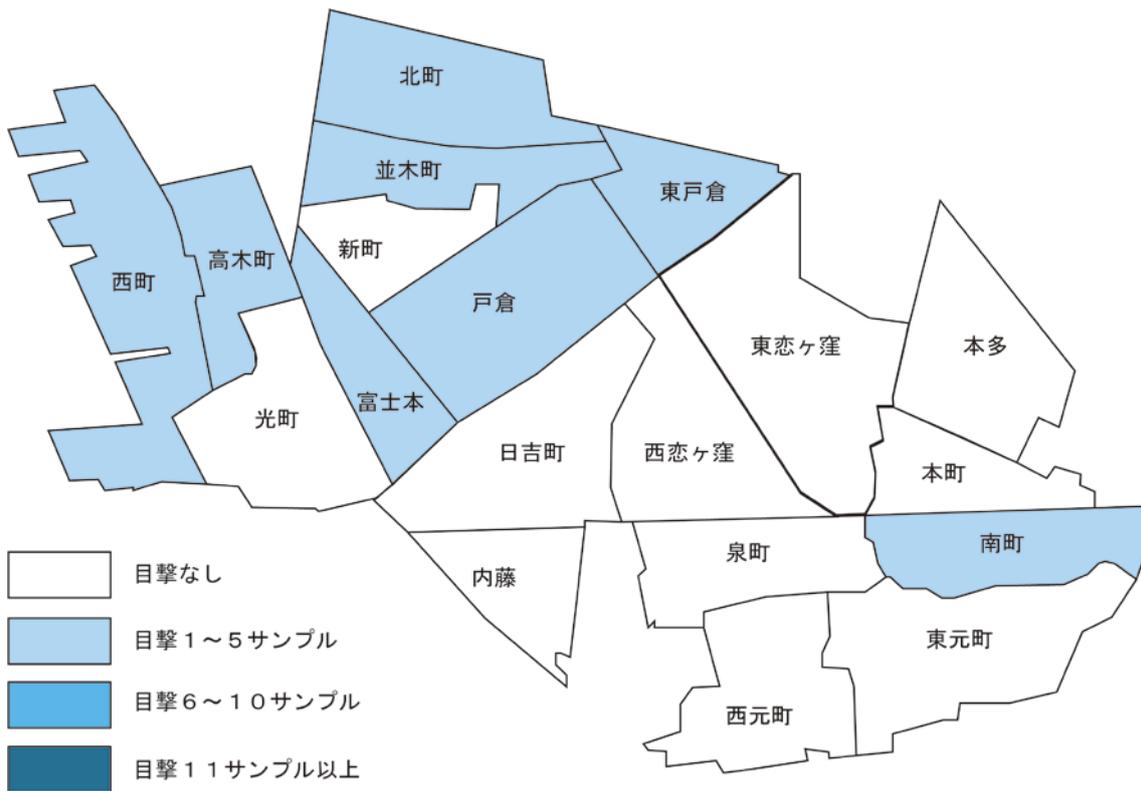
図V-3-2 市立小中学校対象によるツバメの目撃マップ（平成27年度）



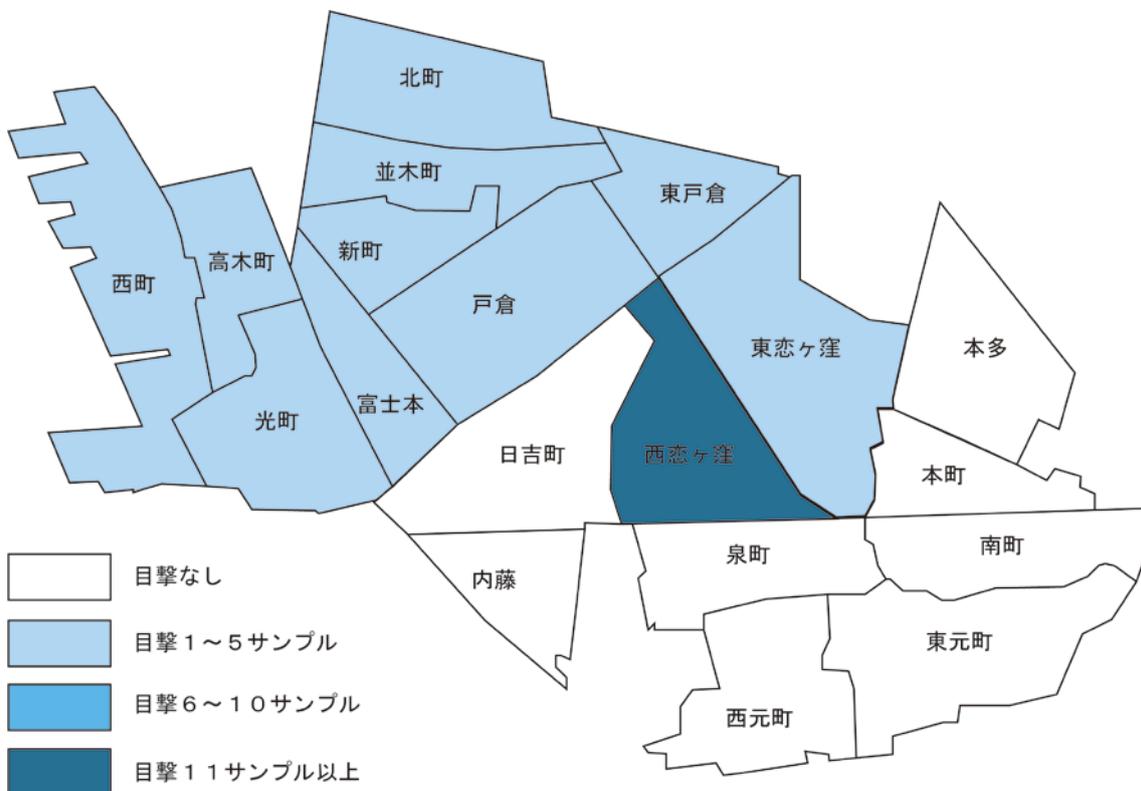
図V-3-3 市立小中学校対象によるカブトムシの目撃マップ（平成27年度）



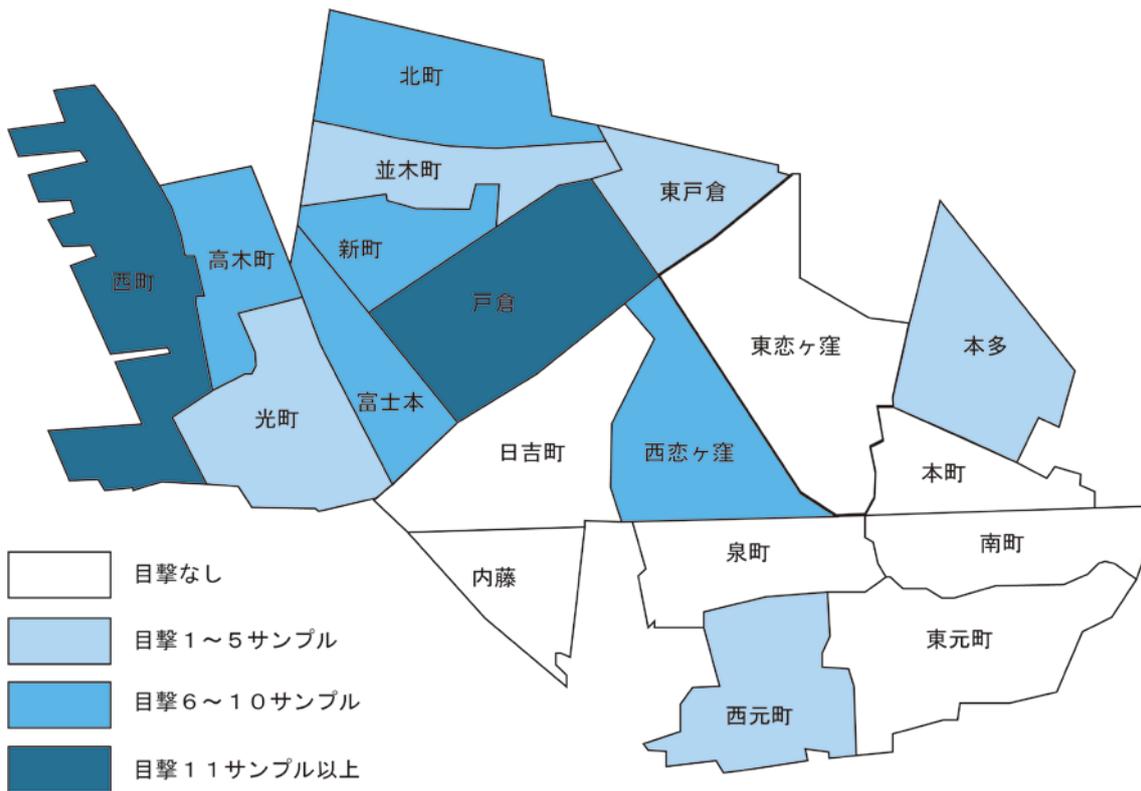
図V-3-4 市立小中学校対象によるアゲハチョウの仲間の目撃マップ（平成27年度）



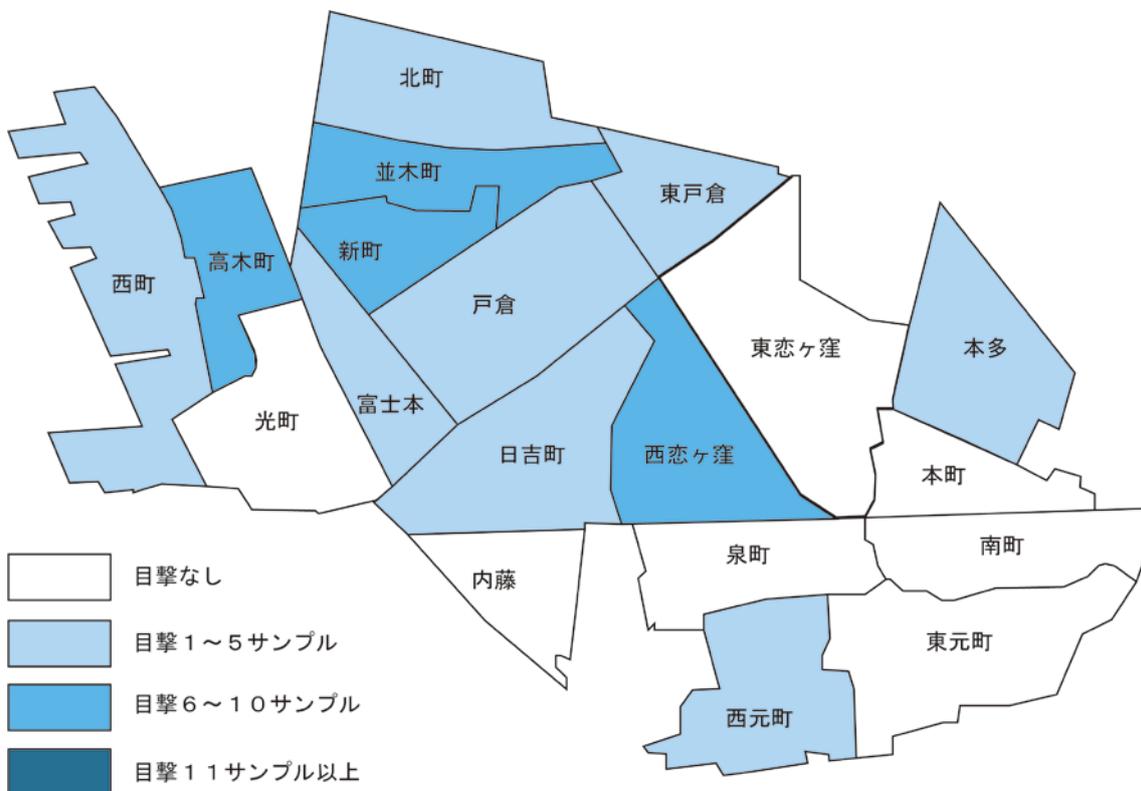
図V-3-5 市立小中学校対象アンケート調査によるネジバナの目撃マップ（平成27年度）



図V-3-6 市立小中学校対象によるどんぐり類の目撃マップ（平成27年度）



図V-3-7 市立小中学校対象によるニホンヤモリの目撃マップ（平成27年度）



図V-3-8 市立小中学校対象によるヒキガエルの目撃マップ（平成27年度）

参考として、調査対象種群以外の 1,936 サンプル（市外での目撃 16 サンプルと飼育個体の報告であった 1 サンプルの計 17 サンプルを除く）について、分類群ごとに集計した結果を表 V-3-4 に示す。

分類群ごとにみると、昆虫類の報告が非常に多く、1,392 サンプル（71.9%）であった。ついで鳥類の 128 サンプル（6.6%）、爬虫類の 91 サンプル（4.7%）、植物の 76 サンプル（3.9%）などとなっていた。

表 V-3-4

調査対象種群以外の報告数（分類群ごと・小中学校回収分）（平成 27 年度）

分類群	東元町	西元町	南町	泉町	武蔵国分寺公園	本町	本多	東恋ヶ窪	西恋ヶ窪	東戸倉	戸倉	日吉町	富士本	内藤	光町	高木町	新町	北町	並木町	西町	不明	サンプル数 (飼育を除く)
鳥類		1			3		4	2	7	3	11	3	4	1	10	8	3	1	7	24	36	128
昆虫類	7	15	3		4	4	12	10	117	34	129	18	24		53	47	68	40	56	249	502	1,392
植物	4	2			1		4	1	1	3	11		9		4			1	1	14	20	76
爬虫類			1	1					13	3	20		1		6	4	7	2	14	19		91
両生類									2										1	2		5
魚類	1	1					1		6						19						14	42
哺乳類	1		2								2		2			1			2	2		12
クモ類		1					1		8		4		3		2	1	3		3	12	35	73
節足動物 (ダンゴムシなど)	1						2	1	2	1	5		5			4	1			10	13	45
甲殻類 (ザリガニなど)									4	2					13						9	28
貝類 (カタツムリなど)		1							2		1					4	1		2	4	3	18
環形動物 (ミミズなど)										1						1	2			4	3	11
菌類 (キノコなど)									1			1										2
扁形動物 (コウガイビルなど)																					1	1
その他													1						1		1	3
不明																			1		8	9
合計	14	21	6	1	8	4	24	14	163	47	183	22	49	1	97	76	82	49	76	335	664	1,936

また、報告の中で、専門員調査で記録していない種など特徴的なもので、写真により同定できるものを抽出した。これを以下に示す。



ホンドタヌキ(7月25日 西町)



ホンドタヌキ(8月8日 南町)



タマムシ(7月10日 南町)



キマダラカメムシ
(外来種 8月11日 東恋ヶ窪)



セスジズメ(8月30日 東戸倉)



シモフリスズメ(8月30日 東戸倉)

VI 調査のまとめ

1. 確認種について

各分類群の調査結果を以下に表VI-1-1にまとめる。

すべての分類群を合わせて1,000種以上の動植物が市内に生育・生息することが把握された。

最も種数が多い分類群は植物で、531種であった。ついで昆虫類は、水生生物調査で把握された8種も含め、362種を確認した。哺乳類は、専門員調査では1種のみで、このほかに市民アンケート調査で2種（タヌキ、ハクビシン）が確認された（表VI-1-1には含めていない）が、非常に少なかった。

限られた調査日数・時間の中での記録であるため、市内の生物相の全体像は把握しきれしていない。特に、生息種数が多いが、体サイズが小さく比較的発見しにくい昆虫類やクモ類、移動の際に短期間の立ち寄りもある鳥類などは、今後も調査を継続することで確認種数が増えることが十分に予想される。

表VI-1-1 国分寺市動植物調査で確認した種数などの一覧(平成27年度)

分類群	確認種	希少種		外来種			備考
		国RDB	東京都RDB	特定外来生物	外来種リスト(※1)掲載種	その他	
植物	531	3	7	0	28	98	※2
鳥類	37	2	10	1	1	1	
哺乳類	1	0	0	0	0	0	
爬虫類	8	1	7	0	1	0	
両生類	1	0	0	0	0	0	
昆虫類	354	0	10	0	1	6	
クモ類	60	1	1	0	0	0	
水生生物	昆虫類	14	0	2	0	0	
	魚類	7	1	2	0	1	
	その他	12	0	1	0	1	
合計	1,025	8	40	1	32	106	

※1: 外来種リスト=我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト

※2: 植物の希少種は、市内を分布域とする自生種のみとした

外来種リスト掲載種のうち、国内由来の外来種であるシュロは、この表の外来種の数値から除いている

2. 希少種について

専門員調査で確認された希少種のうち、国 RDB 掲載種の一覧を表 VI-2-1 に、都 RDB 掲載種の一覧を表 VI-2-2 に示す。

1) 国 RDB 掲載種

国 RDB 掲載種では、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、情報不足の 3 カテゴリーに、合計 8 種が該当していた。

最も高いカテゴリーは絶滅危惧Ⅱ類で、該当する種のうち 3 種が植物、1 種は魚類であった。トキホコリは低地の湿ったところ、キンランは雑木林の林床、マヤランは落葉等が積もってできる腐植の多い樹林の林床に生育する植物である。魚類のメダカについては、すでに述べたように、このランクに該当するかは、放流された個体かどうか今後の検証が必要となる。

準絶滅危惧のオオタカについては、近年個体数が増え、カテゴリーが下がっているが、市内の樹林地の生態系の中の上位捕食者であり、生息状況を注視していくことが望まれる。キシノウエトタテグモについては、調査地以外にも、市内の他の緑地などでも生息している可能性があり、引き続きの調査が望まれる。また、崖状の地中に巣穴を造るため、そのような形状の土地の改変の影響を受けやすいことにも注意が必要である。

情報不足のオシドリについては、移動途中の個体を確認したと考えられる。ニホンスッポンについては、確認した池が造成されたものであり、確認した個体は、過去に放流された個体が起源と考えられる。

表 VI-2-1 国分寺市で確認した国 RDB 掲載種の一覧（平成 27 年度）

カテゴリー	植物 (※1)	鳥類	爬虫類	昆虫類 クモ類	水生生物	計
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	トキホコリ キンラン マヤラン				(魚類)メダカ	4
準絶滅危惧 (NT)		オオタカ		キシノウエト タテグモ		2
情報不足 (DD)		オシドリ	ニホン スッポン			2
合計	3	2	1	1	1	8

※1: 植物は市内を分布域とする自生種のみとした。

※2: 哺乳類・両生類は該当種なし

2) 都 RDB 掲載種

都 RDB 掲載種では、8 つのカテゴリーに 40 種が該当していた。このうち、準絶滅危惧が 12 種と最も多く、ついで、絶滅危惧Ⅱ類の 11 種、絶滅危惧Ⅰ類（Ⅰ類、ⅠA 類、ⅠB 類の合計）の 7 種などとなっていた。

分類群で最も多いのは、昆虫類・クモ類の 11 種であった。ついで、鳥類の 10 種、植物、爬虫類の 7 種などとなっている。一方、哺乳類、両生類では該当種はいなかった。

以下、各カテゴリーで保全などの対策が望まれる種について述べる。

①絶滅危惧Ⅰ類

ニホンスッポンとメダカを確認した。いずれも確認した池は造成されたものであり、確認した個体は、放流された個体が起源と考えられる。したがって、保護の対象とすべきか検討することが望ましい。これは、情報不足のクサガメについても同様である。

なお、今回の調査で確認したメダカは、前ページで述べたように、このランクに該当するかは、放流された個体かどうか今後の検証が必要となる。

②絶滅危惧ⅠA類

トキホコリは、低地の湿った環境に生育するが、このような環境が都市化により少なくなっている。

ツミについては、古巣が見つかったことから、近年、市内で繁殖したと考えられる。引き続き繁殖するような環境を維持することが望ましい。具体的には、営巣場所となった樹林の保全と、営巣場所へ人がむやみに立ち入ることを控える方策が望まれる。

③絶滅危惧ⅠB類

アイアスカイノデは、低地から低山地にかけての樹林内や林縁に生育する植物であるが、調査地の樹林内に生育は見られなかった。

オオタカについては、冬期の専門員調査で1回確認したほか、市民アンケート調査では写真による報告で確認している。現時点で繁殖の可能性は低いものの、市内での生息を確認したことから、生息地であるまとまった樹林を保全していくことが望ましい。

④絶滅危惧Ⅱ類

キツネノカミソリ、キンラン、ギンランはいずれも樹林の林床に生育する種である。キンランをはじめ、盗掘の恐れもある種が含まれており、生育地の情報の扱いについては慎重であることが望ましい。

鳥類の中で注目されるカッコウについては、専門員調査と市民アンケート調査により5～8月にかけて連続して確認した。市内を通過するだけでなく、とどまっていることから、繁殖の可能性も考えられる。本種はオオヨシキリ、ホオジロ、モズ、オナガなどに托卵することが知られているが、これらのうち、市内で繁殖している可能性の高い種はオナガのみと考えられる（モズはカッコウと同じく絶滅危惧Ⅱ類であり、繁殖期には1調査地のみで確認した）。現状では生息状況ははっきりしないことから、今後、オナガとモズも含めた3種の生息状況の把握を続けることが望ましい。

爬虫類の中では、ヒバカリが注目される。本種は湿地付近に生息する。1個体のみ確認であり、個体数が予想できないことから、当地の環境保全の体制を引き続き維持することが望ましい。これは準絶滅危惧のアオダイショウにも当てはまる。

昆虫類については、比較的個体数が多いことから、緊急な対策は必要ではないが、草地に生育するショウリョウバッタモドキ、池沼などに生育するオオアメンボともに生育環境が市内に少ないため、定期的に生息状況を確認し、保全していくことが望ましい。

⑤準絶滅危惧

昆虫類については、比較的個体数が多いことから、緊急な対策は必要ではないが、ヤマトクロスジヘビトンボのように、市内の限られた湧水環境に依存している種については、その生息環境の保全が必要となる。同様にキシノウエトタテグモについては、崖地に巣を作るため、崖地の保護が必要となる。

鳥類については、アオゲラやエナガは市内のまとまった樹林で繁殖していると考えられる。また、ウグイスについても、市民アンケート調査の結果も含めると、繁殖期に生息しており、市内での営巣の可能性もある。これらの種は、いずれも樹林性であることから、まとまった樹林については、保全していくことが望まれる。

⑥情報不足

情報不足の種は6種であり、そのうち5種が昆虫類（水生生物のネグロセンブリを含む）であった。昆虫類は、今回の調査では市内の生息状況を十分に把握したとは言い難いこともあり、引き続きモニタリング調査を行うことが特に望まれる種群である。

表VI-2-2 国分寺市で確認した都RDB掲載種の一覧（平成27年度）

カテゴリー	植物 (※1)	鳥類	爬虫類	昆虫類 クモ類	水生生物	計
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)			ニホンスッポン		(魚類)メダカ	2
絶滅危惧ⅠA類 (CR)	トキホコリ	ツミ コノハズク				3
絶滅危惧ⅠB類 (EN)	アイアスカイノデ	オオタカ				2
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	キツネノカミソリ ギンラン キンラン	オシドリ カッコウ モズ	ヒガシニホン トカゲ ニホンカナヘビ ヒバカリ	ショウリョウ バツタモドキ オオアメンボ		11
準絶滅危惧 (NT)	ニリンソウ ササバギンラン	カワセミ アオゲラ ウグイス エナガ	アオダイショウ	ヒグラシ ヒラタクワガタ キシノウエ トタテグモ	(昆虫類) ヤマトクロスジ ヘビトンボ (魚類) アブラハヤ	12
情報不足 (DD)			クサガメ	クマスズムシ キンヒバリ ヤチスズ ヒオドシチョウ	(昆虫類) ネグロセンブリ	6
留意種 (*)			ニホンヤモリ	ウラナミアカ シジミ	(甲殻類) サワガニ	3
データ無し				ホシミスジ		1
合計	7	10	7	11	5	40

※1: 植物は市内を分布域とする自生種のみとした。

※2: 哺乳類・両生類は該当種なし

3. 外来種について

1) 植物

表Ⅲ－１－４に市内で確認した生態系被害防止外来種リスト掲載種を示した。これらはどの種もこれ以上分布を広げないように対策すべきである。市内の生育状況より、「緊急性が特に高いもの」、「早期対策が必要なもの」に分けて、以下に示した。

(1) 緊急性が特に高いもの

場所によっては、既に樹林の林床にマット状に広がっており、希少種を含む在来種の生育地を奪ってしまう可能性がある種を以下に示した。

①ノハカタカラクサ（トキワツユクサ）（総合対策外来種 重点対策外来種）

南アメリカ原産で観賞用に栽培されたものが逸出して広がっている。茎がよく分枝して地を這い、節から根を出して広がる。

東京経済大学の樹林内では既にマット状に広範囲に広がっている。在来種の生育場所を奪うため、除去する必要がある。姿見の池付近にも少し生育しているため、早めの対策が必要である。多年草であるため、抜き取りが必要である。常緑であるため、冬に除草を行うと識別がしやすい。



マット状に広がったノハカタカラクサ
(7月24日 東京経済大学)

②ツルニチニチソウ（総合対策外来種 重点対策外来種）

南ヨーロッパから北アフリカ原産で、観賞用に栽培されたものが逸出している。茎が横走して節から発根して広がるため、樹林の林床に入ると地面を覆ってしまい、在来種の生育する場所を奪ってしまうおそれがある。東京経済大学の樹林内の一部と西恋ヶ窪樹林地の南側入り口付近の樹林内で確認した。多年草であるため、抜き取りが必要である。

③カナリーキツタ

原産地は北アフリカのカナリア諸島で緑化によく利用されている。常緑のつる性木本で気根を伸ばして這い上がるが、這い上がる場所がない時は地面を覆ってしまう。武蔵国分寺公園に植栽され、東京経済大学と平兵衛樹林地では林床に逸出していた。東京経済大学では一部の樹林地でマット状に林床に広がっていた。



マット状に広がったツルニチニチソウ
(4月17日 東京経済大学)



マット状に広がったカナリーキヅタ
(10月8日 東京経済大学)

(2) 早期対策が必要なもの

① トウネズミモチ (総合対策外来種 重点対策外来種)

中国原産で、庭や公園などに植栽されている。果実を鳥類が採食し、糞によって種子が散布されるため、分布が広がっている。市内では全調査地で確認した。平兵衛樹林地を除く4箇所の調査地で在来種のネズミモチと混生している状況である。トウネズミモチの植栽が市内の公園等があれば、供給源となってしまうため、伐採等の対策が必要である。市内で供給源対策をしても鳥による種子散布がされるため、供給を防ぐことは難しい。市内の動植物の保全上、重要な樹林を中心に定期的な実生の抜き取りによって確実に除去することが望ましい。

② キショウブ (総合対策外来種 重点対策外来種)

ヨーロッパから西アジア原産で、観賞用として公園などにも植栽されている。姿見の池緑地の池に多く生育している。また、お鷹の道水路(元町用水)でも逸出と思われる個体を確認した。地下に横走する太い根茎を伸ばし、分布を広げる。多年草のため、駆除するためには根茎の除去が必要である。姿見の池は人工池で希少種があるものの植栽種であるため、お鷹の道水路(元町用水)の対策の方が、緊急度が高いと考えられる。



樹林内に生育するトウネズミモチの幼木
(4月17日 東京経済大学)



群生するキショウブ
(5月17日 姿見の池緑地)

③セイタカアワダチソウ（総合対策外来種 重点対策外来種）

北アメリカ原産で戦後に国内に広がった。多年草で地中に横走する根茎を伸ばし、分布を広げる。駆除するためには根茎の除去が必要である。市内では全調査地で確認された。個体数はそれほど多くないが、広がる前にこまめに抜き取りなどを行うなど、対策が必要である。

④セイヨウタンポポ（総合対策外来種 重点対策外来種）

ヨーロッパ原産で全国に広く分布している。市内では全調査地で確認された。在来のカントウタンポポよりも花数が多く、受粉せずに種子をつくることができ、種子も小型で分散能力がカントウタンポポよりも高い。カントウタンポポと雑種を作ってしまうことも問題である。カントウタンポポは平兵衛樹林地以外の4調査地で確認した。カントウタンポポの自生地では特にセイヨウタンポポの駆除が必要と考えられる。多年草であるため、抜き取りが必要である。

⑤シュロ（その他の総合対策外来種 国内由来）

九州南部、沖縄に分布している。植栽されたものの果実を鳥が採食して種子散布するため、各地に広がっている。市内では全調査地で確認した。樹林内でも実生を確認している。常緑高木であるため、駆除するには実生の抜き取りや大きくなったものは伐採が必要である。

⑥オニマトタビ（キウイフルーツ）（産業管理外来種）

中国南部、台湾原産でニュージーランドで食用に改良された栽培植物である。栽培された果実を鳥が採食して種子散布し、広がっている。市内では個体数はまだ多くないものの、姿見の池緑地、東京経済大学、真姿の池周辺で確認した。つる性木本であり、周囲に巻き付くと除去が困難になるため、早めの除去が望ましい。

⑦キクザキリュウキンカ

ヨーロッパ原産で観賞用に栽培されている。まだ個体数は少ないものの西恋ヶ窪緑地で確認した。本種は地中に根茎を伸ばして増えていく。早春に花を咲かせ、4月下旬以降に根は残っているが、葉が枯れて見つけることができなくなってしまう。地上部が確認できる時期が短いため、除去対策をしないと気づかないうちに分布が広がってしまうおそれがある。

⑧ボタンクサギ

中国南部原産。観賞用に栽培されている。武蔵国分寺公園の野鳥の森に植栽からの逸出と思われる大きな群落を確認した。他の植物が生育できなくなるため、早期に除去することが望ましい。

⑨オランダカイウ

南アフリカ原産で観賞用にカラーという名で流通している。市内ではお鷹の道水路

(元町用水)の一部に生育している。都内で河川内に逸出している事例もあるため、分布を広げないように管理する必要がある。



ボタンクサギ
(4月17日 武蔵国分寺公園)



樹林内に群生するボタンクサギ
(4月17日 武蔵国分寺公園)

2) 動物

特定外来生物及び生態系被害防止外来種リストに掲載されている動物は、市民アンケート調査で確認されたハクビシンや、種が同定できていないカラドジョウ属の一種を含めて7種であった。いずれの種もこのリストの中では総合対策外来種の中に含まれる。

(1) 緊急対策外来種

緊急に対策が必要な外来種は2種であった。

①アカミミガメ (亜種ミシシippアカミミガメ)

姿見の池と武蔵国分寺公園で確認されている。同所に生息する他のカメ類との競合や、他の水生生物の捕食などの被害が懸念される。逸出や放逐が留意事項となっていることから、生息地では、注意喚起の看板などの設置が望まれる。さらに可能な場合には、罠を用いた捕獲をすることが望ましい。両生息地ともに、池の規模が比較的小さく、捕獲の効果は高いと考えられる。

②アメリカザリガニ

姿見の池、真姿の池、お鷹の道水路(元町用水)の3箇所で確認されている。本種は、同所に生息する水生昆虫をはじめとした水生動物や水生植物などを食害することが懸念される。アカミミガメと同じく、逸出や放逐が留意事項となっていることから、生息地では、注意喚起の看板などの設置が望まれる。可能な場合には、罠を用いた捕獲をすることが望ましいが、本種の完全な駆除は難しいので、定期的に駆除を行う必要がある。

(2) 重点対策外来種

ハクビシン、ガビチョウ、アカボシゴマダラの3種が該当する。

①ハクビシン

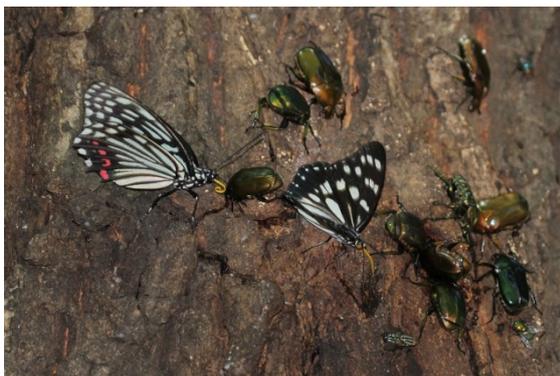
ハクビシンは、市民アンケート調査のみで生息を確認された。また、市への問い合わせも年に数件寄せられている。

②ガビチョウ

本種は特定外来生物にもあたるが、武蔵国分寺公園で夏期に1個体を確認した。今回の調査からは、市内への定着は伺えないが、分布の拡大期にもあたることから、今後も引き続き生息状況のモニタリングが必要と考える。

③アカボシゴマダラ

西恋ヶ窪緑地と武蔵国分寺公園とで確認した。両調査地とも、春期から秋期まで確認したことから、定着していると考えられる。本種は、在来の近縁種であるゴマダラチョウとの競合が懸念されるが、ゴマダラチョウは、市内では西恋ヶ窪緑地でのみ確認しており、すでに分布が逆転している可能性もある。また、今後は市内の他の地域への分布の拡大も懸念されることから、可能であれば現在の生息地での駆除を行うことが望ましい。



ゴマダラチョウ(右)とアカボシゴマダラが同じ樹液に集まる様子(7月22日 西恋ヶ窪緑地)

(3) その他の総合対策外来種

①ホンセイインコ(亜種ワカケホンセイインコ)

西恋ヶ窪緑地、東京経済大学、武蔵国分寺公園・真姿の池周辺で確認している。西恋ヶ窪緑地と東京経済大学では、上空を通過する個体を確認しており、直接の影響は低いと考えられる。一方、真姿の池周辺では屋敷林に飛来し、採食行動をしていた。今後は、同所に生息する鳥類などとの食物資源や営巣環境である樹洞の競合が起こればと考えられる。

②カラドジョウ属の一種

このほか、種の同定はできなかったが、水生生物調査でカラドジョウ属の一種を確認した。カラドジョウであれば、「その他の総合対策外来種」に該当する。在来のドジョウとの関係などで影響が懸念されるが、現状では「生態系等への影響に関する知見の集積が必要」という段階である。市内では、生息状況の継続的な把握が望まれる。

3) 市民との協働

市内の緑地等で既に活動している団体と外来種の分布状況や識別方法、対策方法等の情報共有を行うことが望ましい。特に植物については、一部の樹林で植生管理を行っている団体が存在するため、活動の一環で外来種対策も行うことが望ましい。

Ⅶ 今後の展開について

1. 専門員調査について

1) 調査の継続について

本調査は、市内に生育・生息する動植物の傾向を把握できたものの、限られた時間内での調査であったため、市内に生育・生息する種の一部の確認にとどまっている。その全体像を把握するには、定期的に調査を行うことが望ましい。また、そうすることで、市内の生物相の変化を把握でき、ひいては市内の自然環境の変化も把握できるものとする。都内の自治体によっては、5年ごとに調査を行っている事例もあり、そのような事例を参考に、今後のモニタリングを検討することが望ましい。

2) 調査地の検討

今回の調査では、公有地を中心に市内5箇所の公園や緑地を調査対象としたため、市内でも規模の大きな樹林を有する日立製作所中央研究所敷地内が含まれていなかった。今後、関係者などとの調整を行い、協力が得られれば、この樹林地も対象地とすることで、市内の生物相の全体像が把握できると考える。今後、同様の調査を実施する際は、対象地を含めることが望ましい。

また、今回の調査地は5箇所中3箇所が市の中央部に偏っており、北部は欠落していた。市域全体の生物相の把握を考えると、社寺林や屋敷林なども含めて今後はまだ把握できていない地域から調査地を選定することも配慮すべきと考える。

3) 調査方法の検討

今回の調査では、昆虫類や哺乳類で、特別な仕掛けなどは用いなかった。今後は、昆虫類ではベイトトラップやライトトラップなど、哺乳類ではシャーマントラップなどの仕掛けを用いることで、確認種が増えると考えられる。また、夜間調査を行うことで、「鳴く虫」や、両生類などの夜行性の動物の確認が容易になると考える。

4) 調査対象种群の検討

今回、クモ類は昆虫類調査の際に補足的に行った。可能であれば、改めてクモ類の専門家による調査を行うことが望ましい。また、今回は対象としなかった菌類や、陸産貝類などについても対象種にすることで、市内の生物多様性を検討するうえでの貴重な資料が得られると考える。

2. 市民アンケート調査について

1) 市民アンケート調査の継続の意義について

市外などの目撃情報も含まれていたが、市民からは181件1,715サンプルが、市立小中学校からは541名から2,721サンプルが得られた。今回の市民アンケート調査をきっかけに、市内に生息する生物に興味をもった方もいれば、すでに関心のあった方から、熱心に報告をいただく場合もあった。

このような活動は継続することで、データが蓄積していく。また、市民の方も識別などの能力も向上していき、質のよいデータが収集できるようになる。

2) 対象種・期間・回数について

専門員調査では収集しにくい、人家に生息する夜行性のニホンヤモリやヒキガエルの生息情報が市内の多くの町から得られた。これは市民アンケート調査を併用することの利点である。

一方で、例えばどんぐり類は、市民から 16 サンプル (3.0%)、小中学生からは 41 サンプル (5.4%) といずれも収集できたデータが少ないため、残していくか再検討の余地があると考えられる。また、市民アンケート調査を季節ごとに、対象種をその都度設定して実施するなど、実施形態を工夫することで、より効果的な観察への動機づけをすることができると思われる。

3) 参加者への事前講習や事後のフィードバック

他の自治体では、市民アンケート調査の前に自然観察会などを開催し、その中で対象種についてのレクチャーも行っている事例もある。このような事業を併用することで、市民の関心や意欲を高めていくことができると考える。

また、今回の調査では、参加者への事前講習のような形で生きものの識別の方法や観察のポイント、上手な記入の仕方、写真の撮り方などのレクチャーを十分に行うことができなかった。

さらに、今回の市民アンケート調査の参加者、特に子どもの関心をより高めることができる仕組み（例えば、調査員としての登録制度や、親子観察会の開催、事後の発表会や表彰式など）を検討することも望まれる。

4) 参加者の年齢層などについて

年齢層については、一般の市民では 20 代からの報告が得られなかった。若い層の参加を向上させる仕組みづくりが必要である。また、小学校では 3・4 年生を中心であったが、対象年齢を拡大して行うことで、自然や生きものへの関心や認識を高めるとの期待ができる。

3. 関係機関との連携について

本調査では、都立公園や大学など、市内の関係機関との協力により行われた。このような機関とは、定期的に生物情報や環境管理についての情報を交換できる関係を築くことが望ましい。特に、今回の調査で把握された希少種の自生地や繁殖地などについては、お互いに情報の共有をすることが、継続的な保護・保全につながると考える。

4. 生物多様性地域戦略策定に向けた基礎データとしての活用

生物多様性基本法（平成 20 年 6 月施行）では、「都道府県及び市町村は、単独又は共同して（中略）生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画（生物多様性地域戦略）を定めるよう努めなければならない」と規定されている（第 13 条）。また、生

物多様性国家戦略 2012-2020（平成 24 年 9 月閣議決定）においても、「生物多様性を社会に浸透させる」ことが生物多様性施策の 5 つの基本戦略の一つに挙げられており、地方自治体による地域戦略の策定を援助、促進するための取組を行うとしている（以上、環境省ウェブサイトから）。

今後は市内の生物多様性の保全や持続可能な利用を進めるために、生物多様性の地域戦略を策定することが求められる。その際に、この動植物調査の結果が基礎資料になると考えられる。

引用・参考文献及びウェブサイト

全般

- ・環境省名水百選 <https://www2.env.go.jp/water-pub/mizu-site/meisui/>
- ・東京都環境局自然環境部 編 (2013) : レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生動植物種 (本土部) 解説版, 東京都環境局自然環境部.
- ・東京の名湧水 57 選一覧
http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/water/conservation/spring_water/tokyo/
- ・日本生態学会 編 (2002) : 外来種ハンドブック, 地人書館.
- ・国立環境研究所侵入生物データベース <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>
- ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト (生態系被害防止外来種リスト) <https://www.env.go.jp/nature/intro/loutline/list.html>

植物

- ・植村修二ほか (2010) : 日本帰化植物写真図鑑 第2 巻, 全国農村教育協会.
- ・岡山大学資源植物科学研究所 野生植物グループ : 日本の帰化植物一覧表.
http://www.rib.okayama-u.ac.jp/wild/kika_table.htm
- ・長田武正 (1989) : 日本イネ科植物図譜, 平凡社.
- ・神奈川県植物誌調査会編 (2001) : 神奈川県植物誌2001, 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- ・環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 編 (2014) : レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅の恐れのある野生生物-8 植物 (維管束植物), ぎょうせい.
- ・環境庁自然保護局自然環境調査室 編 (1988) : 植物目録 1987, 大蔵省印刷局.
- ・財団法人千葉県史料研究財団 (2003) : 千葉県の自然誌 別編4 千葉県植物誌, 千葉県.
- ・清水矩宏ほか (2001) : 日本帰化植物写真図鑑 第1 巻, 全国農村教育協会.
- ・勝山輝男 (2005) : ネイチャーガイド 日本のスゲ, 文一総合出版.
- ・谷城勝弘 (2007) : カヤツリグサ科入門図鑑, 全国農村教育協会.

鳥類

- ・環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 編 (2014) : レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅の恐れのある野生生物-2 鳥類, ぎょうせい.
- ・日本鳥学会 (2012) : 日本鳥類目録改訂第7版, 日本鳥学会.

哺乳類・爬虫類・両生類

- ・標準和名選定委員会 (2003) : 日本産爬虫両生類の標準和名の決定, 爬虫両棲類学会報 2003 (1) p.55-60.
- ・国立研究開発法人 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター
(ニホントカゲの中から発見された新種「ヒガシニホントカゲ」の記載 について)
<http://www.nies.go.jp/biology/research/pu/2012/1208.html>
- ・日本爬虫両棲類学会ウェブサイト 日本産爬虫両生類標準和名

<http://zoo.zool.kyoto-u.ac.jp/herp/wamei.html>

昆虫類・クモ類

- ・上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝 編著 (1985) : 原色日本甲虫図鑑Ⅱ, 保育社.
- ・環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 編 (2014) : レッドデータブック 2014
ー日本の絶滅の恐れのある野生生物ー 7 その他無脊椎動物 (クモ形類・甲殻類等),
ぎょうせい.
- ・環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 編 (2015) : レッドデータブック 2014
ー日本の絶滅の恐れのある野生生物ー 5 昆虫類, ぎょうせい.
- ・黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之 共著 (1985) : 原色日本甲虫図鑑Ⅲ, 保育社.
- ・酒井香・藤岡昌介 (2007) : 日本産コガネムシ上科図説第2巻食葉群Ⅰ, 昆虫文献 六本
脚.
- ・新海栄一 (2006) : ネイチャーガイド 日本のクモ, 文一総合出版.
- ・寺山守・久保田敏・江口克之 (2014) : 日本産アリ類図鑑, 朝倉書店.
- ・日本直翅類学会 編 (2006) : バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑, 北海道大学出版
会.
- ・安田守 (2010) : イモムシハンドブック, 文一総合出版.

水生生物

- ・環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 編 (2015) : レッドデータブック 2014
ー日本の絶滅の恐れのある野生生物ー 4 汽水・淡水魚類, ぎょうせい.
- ・豊田幸詞・関慎太郎 (2014) : 日本の淡水性エビ・カニ : 日本淡水産・汽水性甲殻類 102
種, 誠文堂新光社.

協力環境団体 (9 団体)

- ・エックス山等市民協議会
- ・NPO 法人まちづくりサポート国分寺
- ・国分寺コンポストアミー
- ・国分寺市にふるさとをつくる会
- ・里山づくり仲間の会
- ・都市緑化を考える会
- ・みずとみどり研究会
- ・ミズモリ団
- ・緑と自然を育てる会
(五十音順)